

平成 20 年度

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

はじめに

平成19年秋に開館した沖縄県立博物館・美術館は、新しい時代に対応して、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的共有財産を創造していく博物館活動をめざしております。平成20年度はおかげさまで約50万人の入館者がありました。

博物館の展示では、多くの人々に見ていただくために、資料を分かりやすく展示することを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充足させる、地域の中軸施設であることも求められています。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館しています。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度多くの博物館事業を実施してきました。

博物館の教育普及活動では、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させることと、新館ならではの事業に取り組むことの2本柱で推進してまいりました。学校連携事業では、学校団体受入態勢の充実を図るため、「沖縄博物館友の会」ボランティア部との連携を進めてきました。

また、平成19年度の『ウチナー探検 博物館学習ノートー中学生版ー』につづき、小学生版を作成いたしました。さらに、文化講座及び展示会関連講座は「琉球円覚寺仏殿の模型制作」を皮切りに14回実施し、県民の皆様に多くの参加をいただき好評を得ることが出来ました。その他にも、体験学習教室では、「アダン葉サバをつくろう」をはじめ8回の教室を開催し、学芸員講座を6回、常設展展示解説会を22回、バックヤードツアーを11回、展示会関連解説会を5回とそれぞれ開催してまいりました。

中でも、開館一周年記念博物館特別展「甦る琉球王国の輝き」のシンポジウムにおいては、当館の講座対応スペースを全て活用しても入りきれない聴講者のご参加をいただいたことは、記憶に新しいところであります。

当博物館といたしましては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様から、博物館を通して、沖縄の自然や歴史及び伝統文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。

博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成21年3月

沖縄県立博物館・美術館

館長 牧野浩隆

博物館教育普及活動

はじめに

もくじ

I 博物館活動について	1
1 博物館活動	
2 4つの活動（車輪）	
調査活動 展示活動 教育普及活動 保存管理	
3 博物館の機能	
4 博物館の施設	
各施設 バリアフリー 環境対策	
5 博物館教育普及活動の概要	
II 学校連携	6
1 学校団体受入	
学校団体観覧 利用の手続き 実践例 学習プログラム実施校	
2 博物館学習ノート	
作成に係る基本事項 実施計画 モニタリング 会議	
3 職場研修受入	
III 体験学習教室	28
1 博物館体験学習教室実施要項	
2 体験学習教室 活動資料	
「アダン葉サバをつくろう」 「和綴じ本をつくろう」	
「植物標本をつくろう」 「印をつくろう」	
「連鳳をつくろう」 「しっくいシーサーをつくろう」	
「手びねりでつくる器」	
3 活動の状況	
IV 文化講座・学芸員講座 等	71
1 博物館文化講座実施要項	
2 文化講座の実施状況	
第371回「琉球円覚寺仏殿の模型製作」・「C Gによる旧那霸市街地の町並み再現」	
第372回「沖縄をたどる—現代・沖縄の思想—」第373回「りゅうきゅうときょうりゅう」	
第374回「恐竜は本当に絶滅したのか？」 第375回「干潟の觀察」	
第376回「ずしがめの世界探訪」 第377回「港川人を訪ねて」	
第378回「故宮の中の金工品」 第379回シンポジウム「琉球王国と北京」	
第380回「銀が繋ぐ二つの世界遺産～琉球と石見～」	
第381回「沖縄考古学の現状」 第382回「沖縄と奄美の文化を語る」	
第383回「ベルリン博物館所蔵の沖縄の染織」	

- 3 学芸員講座・展示解説会・バッックヤードツアー
　博物館学芸員講座等実施要項
　学芸員講座実施状況
　　第1回「首里城発掘」 第2回「博物館展示資料から歴史を探る」
　　第3回「地球の履歴書」 第4回「琉球をとりまく絵画の世界」
　　第5回「武芸洞の6000年～沖縄の人類史を握る～」
　展示解説会実施状況
　バッックヤードツアー実施状況
4 夏休み子ども相談週間

V ふれあい体験室..... 87

- 1 ふれあい体験室の施設について
- 2 体験キットの種類
- 3 スタッフの配置状況
- 4 利用者状況
- 5 その他

VI ボランティア養成事業..... 90

- 1 博物館ボランティア活動実施要項
- 2 養成講座
- 3 専門講座
- 4 博物館ボランティアのてびき
- 5 活動の細則
- 6 継続ボランティア登録交付式
- 7 ボランティア登録交付式
- 8 ボランティア通信

VII その他..... 104

- 1 移動展
- 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
- 3 職場体験
- 4 教育普及資料貸出

I 博物館活動について

1 博物館活動

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の4つを車輪として館活動を展開します。そのため、館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- (1) 琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- (2) 人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- (3) 沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- (4) 博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 4つの活動（車輪）

◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味ができるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に生かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展があります。そして各島々等で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連絡協力をね行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって博物館を、県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」を中心としたボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「体験教室」等を実施、新たに遊びながら学べる「ふれあい体験室」を加えました。

◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさなどの違いにより、その種類は多岐にわたっています。これら博物館資料は材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され、良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料保全のため、修理や科学的な保存方法を構築し、保存に努めます。さらに、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

3 博物館の機能

博物館はその名のとおり、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は展示や講座、論文、インターネットなどいろいろな媒体をとおして、県民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でも利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

(1) 資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史／美工／民俗）・考古／陶磁器・民俗・大型収蔵庫

が設され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護し、保存します。

(2) 資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っております。また、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・文化・歴史に関する展示会が開催されます。

(3) 学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習をおこなう講座室等があります。

(4) 資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心におこなわれます。6分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

(5) 博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは「海と島に生きる—豊かさ、美しさ、平和を求めて—」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穡」を求め続けてきました歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置づけ、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史(人類含む)・考古・美術工芸・歴史・民俗の五つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は次の10のテーマによって、琉球列島のおいたちから現代までの約2億年にわたる沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特的な文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今・そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史(人類含む)・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、以下に示す各分野のテーマをより深め、特化し、展示替えの頻度を高めることにより、解り易い展示をめざします。

・自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに、島の成り立ちや、島々で独自の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、岩に触れたり、顕微鏡で化石や昆虫、植物標本などを見たりすることができます。

・考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古えの人々の生活を追体験することができます。

・美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通して、「琉球の美」を追求します。

・歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。テーマの一つに「那覇港」をおき、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的な意味を紐解いています。

・民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統とくらし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通じて、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。



外観

(2) 屋外展示

・高倉

高倉は穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。庭に建てられている高倉は昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

・民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉がなく、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンブン(中垣)は、外部への目隠しとなります。

・湧田窯

湧田窯は17世紀ごろの窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

展示している窯跡は1987年の発掘調査で発見された遺構を切り取り、展示保存しています。

(3) ふれあい体験室

ふれあい体験室には、「沖縄の自然のしくみ」と「先人の知恵」を知るために様々な体験キットが用意されています。(詳細についてはふれあい体験室(P87)を参照)

(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料を検索したり、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術工芸等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

(5) 講堂・講座室等

・講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212席(車いす2人含む)を収容することができます。

・講座室

100名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生150名程度の集会が可能です。

・実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40名程度の収容が可能です。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数1台)

(7) 駐車場

一般車両140台（身障者用4台含）、バス10台が駐車可能です。

特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を準備しております。また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備しております。

(8) コインロッカー

無料のロッカー（百円コインが返還される）が、204本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車いす使用者や乳幼児連れ、オストメイトに対応した機能を設けている。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車いす使用者用駐車スペースには、雨天時の乗降に配慮して雨よけを設置している。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり鑑賞できるように展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の2ヶ国語表示としています。

(10) 環境への配慮

① 太陽光発電システムの導入

環境負荷の低減と電気量の節約を図るため、10kw程度の太陽光発電装置を設置しています。

② 雨水及び再生水の有効利用

地盤に雨水タンクを設けてトイレ洗浄水や灌水に利用しています。

③ 夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

④ 総合的有害虫管理（IPM）施設 IPM：（Integrated Pest Management）

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理（IPM）をおこなっています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方へお願いしていることは、館内への飲み物、食べ物の持込は、ご遠慮いただいていることです。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理するなどの配慮をお願いします。

5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。1つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。また、2つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取組んでいます。

(1) 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施しました。一つは、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館から提供できる内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成

しました。

また、児童生徒が、展示資料を通して、調べ学習を行う際に、興味を引き出す素材として『博物館学習ノート』（ワークシート）を作成しました。資料の観察を通して見えないところまで興味関心を広げられるノートとなっています。今年度は、小学生向けを作成し、出来上がった冊子を各学校へ配布します。また、それぞれのワークシートは、博物館のホームページにも掲載することで、多くの方が利用できるように準備していきます。

(2) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

(3) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

(4) 展示解説会・バックヤードツアー

博物館の展示内容に関する資料等の解説を、学芸員の広い視点から、分り易く解説しました。新館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館の資料のつながりを知る機会としました。

(5) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習の発表の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入しています。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となりました。

(6) ふれあい体験室

博物館の常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、27種のキットを準備しています。これらは、展示と関連させ、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットはパズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっています。体験することで、「沖縄の自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(7) フリーパス

県内の各小中学校に、① 新館の開館 ② 施設を身近に感じてもらう ③ 常設展は無料で入館、ということを確認してもらうために、フリーパスの制作を依頼しました。

（詳細についてはP 106フリーパス参照）

(8) その他

新館開館一周年記念展への協力

資料の貸出

II 学校連携

1 学校団体受入

(1) 学校団体観覧

① 博物館を利用して学ぶ

ア はじめに

博物館では、子供から大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校として利用する場合は、“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することができます。博物館の各展示室には、郷土について知るための資料が、分かりやすく展示されており、来館者は、観覧したり、体験することで、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに、地域についての理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ、結びつけることもできます。

イ 学校が利用する場合

- ・学校職員と博物館職員の下見と調整により、双方が連携して学習プログラムを作成することができます。
- ・学習内容によっては、体験を取り入れるなど、支援方法を工夫します。
- ・博物館の資料を学校内で活用する方法として、資料（民具等）貸出しがあります。（学校見学の盛忙期を除く。P109、VIIその他4普及資料貸出参照）
- ・博物館には、情報センターや相談室があり、学習内容の研究を共同で行うことができます。

ウ 博物館を学習活動に活用するための手順

（ア）学習活動計画を立てる

博物館利用の全体計画を立てます。学校の教育課程や行事等を考慮して、博物館をどの段階に利用することが有効かを考えます。

- ・導入で活用する。
- ・展開で活用する。
- ・まとめとして活用する。

※博物館の相談室では、これまでの学校の利用計画を参考にすることができます。

（イ）日程の調整

- ・博物館でオリエンテーションや体験実習を行うための施設として、実習室（40名）講座室（110名）、講堂（210名）があります。
- ・博物館は、博物館・美術館の複合施設であり、指定管理者（文化の杜）は施設を有料で貸出することもあるため施設利用の予約、免除申請書の提出が必要です。
- ・施設の予約・日程調整は情報センターで行い、施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ・規模の大きな学校にオリエンテーションを行う際は、一度には施設に入りきれないため、二回に分けて入館するなどの工夫が必要です。

指定管理者

指定管理者とは、「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法 第244条の2）

博物館・美術館においては、文化の杜共同企業体が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うことになります。

（ウ）博物館下見、打ち合わせ

- ・下見では学習に必要な展示資料や以下の施設の確認をします。

- (トイレ、集合場所、常設展示室、実習室、講座室、講堂、屋外展示等)
- ・来館日、来館時間、生徒数、当日の日程、引率者、父母協力者、学習形態等の確認
 - ・学習の「めあて」の確認。
 - ・学習の展開方法（体験・見学・ガイダンス・学芸員・視聴覚機器の利用）
 - ・過去に博物館を利用した学校の「しおり」等の参考資料閲覧。
 - ・特別支援学校への音声資料等の、事前事後学習への協力。
 - ・筆記用具と、筆記の際の支え（探検バッグ・ファイル）となるものの確認。
 - ・駐車場とバスの入口。
 - ・雨天時の傘等の対応。
 - ・博物館への飲食物持込みの禁止。（IPMの考え方により）その他注意事項の確認。

（エ）実施計画を立てる

- ・博物館からの情報提供をもとに、学校主体で計画案を作成します。
 - ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
 - ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への応対も考慮します。
 - ・必要に応じて、ワークシート等の作成に協力します。
 - ・博物館利用のマナーについては、学校でも事前指導できるよう計画してください。
- ③ 学習プログラムの内容・博物館紹介参照
- ・父母引率には、博物館展示室での配置等の細案を作成してください。
 - ・観覧終了時の博物館におけるまとめは、学校の職員で進行してください。（児童生徒挨拶を含む）
 - ・博物館のボランティアは、学習プログラム決定後、声かけします。2週間以上前の募集期間が必要です。（急な連絡には対応できません。）

ボランティア

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティアを養成しています。現在は、① 誘導ボランティア ② 展示ガイドボランティア ③ 体験サポートボランティアがあります。（詳細は、次項学習プログラムの流れ参照。）

（オ）博物館において学習活動を展開する

- ・来館当日のミーティング（オリエンテーション中）で、時間の変更の有無、スタッフの状況内容変更の有無等の確認。
- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように博物館・指定管理者・ボランティア、教師・父母が連携して支援。
- ・博物館・学校のそれぞれのスタッフに声かけをしながら、学習を展開。
- ・体験では、実物に触れる子供たちの感動の場を提供。

（カ）博物館における学習活動を次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、分かったことや疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。
- ・次の課題について協議。

② 学習プログラムを組み立てる

- ・学習プログラムとは、学校が団体で博物館を利用する際に、関係する施設・職員、または、学習内容等を組立てた計画です。
- ・学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開等を、学校の実態に合

わせて編成します。

- ・学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- ・プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
- ・学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- ・実施計画は、当日の天候や渋滞等による遅れなどといった、学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- ・学校が博物館を教科単元の時間で活用する場合や、学校行事、サークル活動等様々なニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- ・教育普及担当との下見調整では、過去の計画案や、展示資料の紹介などを行います。
- ・先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。
- ・教員・父母協力者の博物館での配置は、博物館側と協議しながら決めていきます。

③ 学習プログラムの内容（学習の流れ）

ア オリエンテーション

- ・はじめ
職員（指定管理者）が司会進行をおこないます。
- ・博物館紹介（映像）
マナーを含めた映像を準備しています。「みゅう爺」と「アム」というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナー、施設や展示室の紹介を、掛け合い言葉により行います。10分の完全版と6分の短縮版があります。（情報センターにて貸出しが可能です。）
- ・昔の暮らし関連資料（映像）
日本民芸協会が昭和14年ごろに、沖縄調査で撮影した映像を放映できます。『琉球の風物』と『琉球の工芸』の二種類が準備できます。本来は、双方ともに16分ほどの時間の映像であるが、観覧や体験の時間を考慮し、放映を短縮することもできます。
- ・本時の「ねらい」の確認
事前の下見調整において確認された内容の、「めあて」を司会が読みあげます。博物館での活動を児童・生徒と一緒に声に出して読み合わせて確認をします。
- ・ボランティア紹介
当日の学習プログラムを補助するボランティアを紹介します。体験サポートと展示ガイドは、展示室や実習室での紹介の場合もあります。

イ 博物館ボランティアによる支援

- ・誘導ボランティア
博物館の総合展示では、通史軸を中心とした基幹動線があります。また、総合展示室の周りに配置された部門展示室は、自由動線となっています。博物館の広くて観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に入手が必要となります。誘導ボランティアは、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。
- ・展示ガイドボランティア
展示室において、資料の解説をボランティアに依頼することができます。現在(H21.3)は、新館におけるボランティア養成中のため、全ての要望には応じられないこともあります。また、ワークシートを学校独自に準備する際は、ボランティア側も事前に把握しておく必要があります。必ず前日までに送付してください。
- ・体験サポートボランティア
博物館学習では、民具体験を行っています。現在(H21.3)は、特に4年生の社会科に対応した、内容を推進しています。体験内容には、運搬に関する体験、清掃洗濯、着衣等の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います。（教師や父母の引率者も、一緒に参加協力してください。）

ウ 観覧・体験のサイクル

観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。学校の児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると体験学習には、20～30分の時間で体験を行うクラスと、観覧を先に進めるクラスを

設定しています。グループの構成の仕方は、学校側で作成していただきます。

工　まとめ

観覧・体験が終了した際に、博物館のロビーや入り口近くのピロティーでまとめを行っています。

まとめの時間は、基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら、進行しています。博物館側からのまとめには、本日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加して、まとめを行います。オリエンテーションで、児童生徒を受け入れた職員が、博物館観覧の「ねらい」を中心に、児童生徒に自己評価してもらいながら、博物館での活動をまとめていきます。

④ 博物館学習の打ち合わせ票

博物館学習打ち合わせ票				
対応者() 年 月 日(曜日) ~				
項目	打ち合わせ内容			
来館予定日	年 月 日(曜日)			
来館予定時間	AM／PM	：	～ AM／PM	：
学校名				
学年		生徒数		
学級数		電話番号		
引率者				
博物館学習のねらい				
学習内容と配分時間	オリエンテーション：あり・なし() イスなど／学習プログラム：あり・なし ワークシート：あり・なし			
学校からの要望				
ボランティアの要望	誘導 ガイド：自然 ガイド：考古 ガイド：美工 ガイド：歴史 ガイド：民俗 ガイド			
メモ				

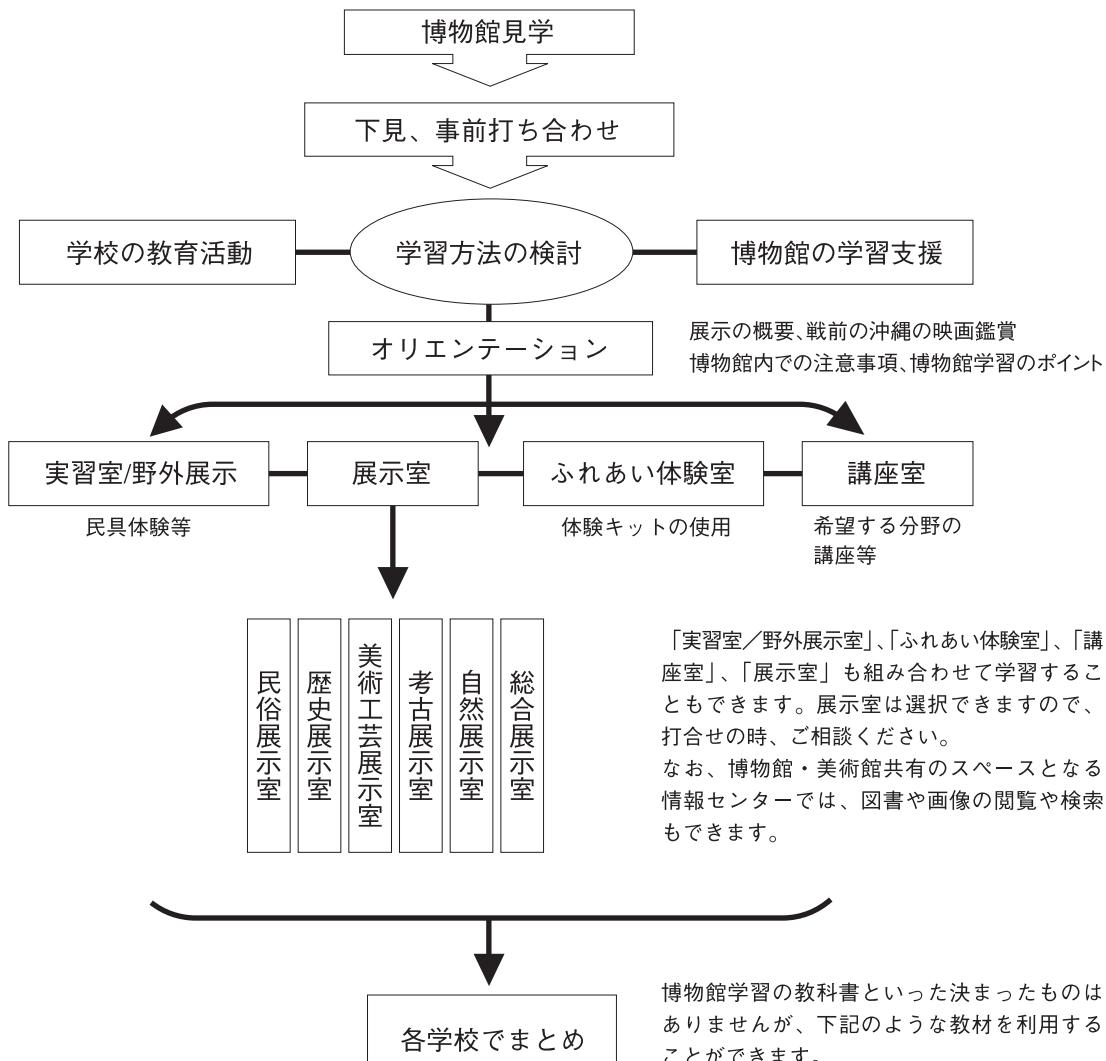
チェック項目： 指定管理者／フリーバス／鉛筆・体験パック／水筒・弁当／最終集合場所／
2.3日前に連絡／ワークシートのFax依頼

(2) 利用の手続き

i 博物館利用の手びき

博物館はすべての方が学習できる「場」です。児童・生徒から成人まで、沖縄に関するさまざまなテーマについて学習あるいは研究できるようにお手伝いします。グループでも個人でもどうぞご相談ください。

下記のフローチャートは、学校の団体見学を中心に図示したものです。個人の場合は学芸員と話し合いながら行います。



申し込み

- 電話等でお問い合わせください。入館手続きのしかた、学習の日課、見学コース等調整いたします。
- 他の学校と重なる場合がありますので、事前にお申し込みください。
- 学校団体で授業の一環として学習を実施する場合は、下見と学習法などの事前打合わせをお勧めします。

ii 平成21年度 博物館利用団体受入

①ね ら い

- ・博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ・博物館における受入計画を前年度から準備し運営を行う。
- ・学校等の団体が、博物館来館を年間計画の中に位置づけることにより、交通機関の活用を含めた教育計画の効率的な活動を行う。

②対 象

- ・県内の小中高等学校・特別支援学校
- ・県内大学・専門学校
- ・県内の公民館 他

③受入内容

- ・博物館における体験学習や観覧の支援
- ・学校団体等の指導者との連携事業
- ・展示資料を郷土について知るための教材や研究材料として活用し、沖縄を知るための教室として利用
- ・各学齢期の多岐にわたる興味や関心に合った内容を、学校とともに構築
- ・学校の先生方のための博物館学習やその他の研修会への支援
- ・特別支援学校が見学するときは、内容によっては博物館資料を直接利用する方向で検討
- ・博物館資料となる実物・複製・模型などを、教材として活用

④方 法

・期 間

- ・次年度の利用団体の利用計画申込みは、基本的に本年の11月末日までとする。
- ・希望日が集中した場合は、博物館において、受入の日程を調整する。
- ・博物館からの利用許可を本年12月中に通知する。
- ・申込み締切以降においても、原則として3ヵ月前までの予約は、他の団体の予約がなければ受入れも可能とする。
- ・申込みは、別紙所定の用紙（申込書）にて沖縄県立博物館・美術館に申込む。
- ・郵送の場合

〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号

沖縄県立博物館・美術館 館長宛

- ・団体受付 情報センター TEL 098-941-1187 FAX 098-941-3530

⑤そ の 他

- ・開館時間 9:00~18:00（入館は17:30まで）
金・土曜日は9:00~20:00（入館は19:30まで）
- ・博物館が利用できない日
 - ・休館日（毎週月曜日） 但し、月曜日が祝日及び振替休日又は慰霊日の場合は開館し、翌火曜日を休館とします。
 - ・年末年始 12月29日～1月3日
- ・博物館の入館料

	小中学校	高校・大学生	一般
常設展示	無料（県内）	250	400
開館記念展	500	800	1000
企画展	80	130	200

※団体割引、年間パスポート、美術館料金は別に定められている。

※県内高校生の教育課程における常設展の観覧は、申請により無料となる。

- ・博物館次年度の予定表（別添資料）

第6号様式 (第14条関係)		沖縄県立博物館・美術館利用許可申請書		平成 年 月 日
		沖縄県立博物館・美術館		
① 団体名 所在地	② 運送先	③Tel	④Fax	印
引率者(代表者) 職・氏名	博物館 美術館	内訳	年生 小、 中、 高 合計	申請者 電話
観覧したい展示 (複数選択可)	⑤ 博物館 美術館	□企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料) □企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料)	人 人 人 人	申請者 印
観覧日時第一希望	⑥ ⑨ 200 年 月 日 (曜日)	：	～	記
観覧日時第二希望	⑩ 200 年 月 日 (曜日)	：	～	
観覧日時第三希望	⑪ 200 年 月 日 (曜日)	：	～	
オリエンテーションの有無 (見学前・会場の概要や講話 を映像で紹介されたい場合は 約10分)	⑫ □オリエンテーションを希望する (例)パンフレット・音楽資料を提出して下さい	□ 希望しない		
来館内容	⑬ □授業(科) □総合的な学習 □修学旅行 □その他	学級・学年単位 (学年) □その他の 備考(博物館・美術館への希望や、来館時の課題、学校での事前指導等について)	まとまって来館 () 分散して来館 () ご利用の車種 ご利用の車種 大型バス マイクロバス 乗用車 () () () ()	1 利用者 団体名 代表者 印 職業 住所
下記により申請します				
3 利用する施設				
4 利用する日時及び期間 自 : 到 :				
5 予定参加人数				

沖縄県立博物館・美術館 団体受付申込書		200 年 月 日	学校用
太枠内はもれなくご記入ください。該当箇所に□を入れてください。			
① 団体名 所在地	② 運送先	③Tel	④Fax
引率者(代表者) 職・氏名	博物館 美術館	内訳	年生 小、 中、 高 合計
観覧したい展示 (複数選択可)	⑤ 博物館 美術館	□企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料) □企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料)	人 人 人 人
観覧日時第一希望	⑥ ⑨ 200 年 月 日 (曜日)	：	～
観覧日時第二希望	⑩ 200 年 月 日 (曜日)	：	～
観覧日時第三希望	⑪ 200 年 月 日 (曜日)	：	～
オリエンテーションの有無 (見学前・会場の概要や講話 を映像で紹介されたい場合は 約10分)	⑫ □オリエンテーションを希望する (例)パンフレット・音楽資料を提出して下さい	□ 希望しない	
来館内容	⑬ □授業(科) □総合的な学習 □修学旅行 □その他	学級・学年単位 (学年) □その他の 備考(博物館・美術館への希望や、来館時の課題、学校での事前指導等について)	まとまって来館 () 分散して来館 () ご利用の車種 ご利用の車種 大型バス マイクロバス 乗用車 () () () ()
※館内では カフェスペースを飲食して飲食できません。 ※下見をされた際は、皆大ダブルコード001「観覧料免除申請書(PDFファイル)」を下見当日にご持参下さい。 博物館・美術館の観覧料を免除します。 ※船運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。 ※美術館・博物館は2008年3月以降となります。			
受付者() 内容の確認: 月 日()			

Tel 098-941-1187 Fax 098-941-3530 (担当:情報センター)

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

カ授業の展開例

(3) 平成20年度学習プログラム（実践例）

- ① 社会科　昔のくらしとまちづくり　(案)
2008/12/17 (水)　9時30分～11時45分　(135分)
那覇市小禄南小学校4年生　児童148名 (4クラス)　足不自由1名　引率5名
教師 (山城)(上原)(石川)(金城)(松岡)

⑦ 昔のくらしの目標

- ① 地域の人々のくらしの中で、古くから伝わる道具について調べる。
② 古い道具がつかわれていたころのくらしの様子や人々の生活の変化について考えるようにする。

④ 指導目標

- 博物館見学と民具体験により、昔から伝わる道具について理解し、実物資料や映像資料等による五感を通した感受の中から、昔の生活の様子や知恵について心を揺さぶられ、郷土のことについてさらに追求していくこととする態度を養う。

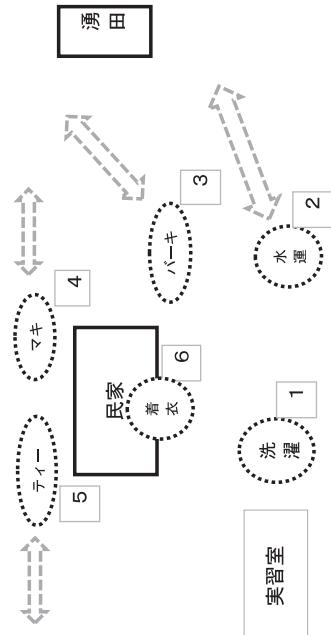
⑨ 目標行動

- ① 民具を体験し、感想や気づいたことをまとめある。
② 展示されている資料を見て、ワークシートをまとめ、疑問に感じたことをメモし地域について 관심を持つ。

⑩ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができます。
② 博物館での観覧順を守ることができます。
③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができます。
④ 民具に応じた体験から、その用途を知ることができます。
⑤ 体験したことをまとめることができます。
⑥ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができます。
⑦ ワークシートやメモにより記録を残すことができます。

寺(分)	内容	博物館	教師	児童生徒
20	オリエンテーション 6 画像の視聴(CD) 6 「琉球の風物」(昭和14年放映) 本時の目標 観覧順番の確認 移動			担任・副担任の配置など
5	民具体験			順番確認 移動
1組「民具体験」				
5	体験内容説明(資料とスカラップ(文化の杜)) 25 体験	6班による体験 体験順を白板に表示		
35	・運搬①ベーキ　屋外(銘苅) ・運搬②ディール　屋外(真貝) ・運搬③マキ　屋外(知念)(見志堅) ・運搬④水の運搬　屋外(潮平)(松川) ・洗濯(洗濯含む)　屋外(安座間) ・着衣　屋外(山城)(平原)(上原)	民具体験		
5	移動			
常設展示の観覧				
5	「島の自然とくらし」(5分) (文化の杜：町田)			
35	地形図(黒潮・台風・ハブなど)	展示ガイド (吉見) 最初と最後(sos)		
13	自然史展示室	展示ガイド		
7	資料確認			
5	サーティヤー (5分) (松川)			
5	移動			
民俗展示観覧				
15	「民俗展示室」展示ガイド (大嵩)()民具中心に			
35	15 資料確認 ワークシート	ワークシート指示		まとめる
5	移動			
5	まとめ めあての振り返り	司会進行		



- ② 体験・観覧順
- 誘導
1班 民具体験 → 総合展示室 → 民俗展示室 (1組+2組1/3) (又吉)
2班 民俗展示室 → 民具体験 → 総合展示室 (3組+2組1/3) (源河)
3班 総合部門室 → 民俗部門 → 民具体験 (4組+2組1/3) (桑江)

社会見学 (案)

2008/11/12(水) 9時30分～11時30分 (120分)

西原町立坂田小学校年生 児童169名 (5クラス)
教師 (萩尾) (東司) (我那覇) 講座室 (ノーテーブル無し)
(伊良部) (宮城) (上地) (石川))

1 社会見学のねらい

- ① 博物館見学を通して、沖縄県の歴史、文化、自然に関する理解と愛情を育てる。
- ② 自分が住んでいる郷土に興味・関心をもち、分かったことや、疑問に感じたことをさらに追求し調べようとする態度を育てる。

2 指導目標

博物館見学により、実物資料や映像資料等に接する中から、豊かな自然や文化遺産があることを理解し、その良さに心を揺さぶられ、郷土のことについてさらには追求していくとする態度を養う。

3 目標行動

博物館に展示されている資料を観賞し、分かったことや疑問に感じたことをメモし、沖縄の歴史・文化。自然について気付いた事をまとめて発表することができる。

4 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができる。
- ② 博物館での観覧順を守ることができる。
- ③ 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
- ④ 展示場所により分野展示の内容が違うことを指摘できる。
- ⑤ タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑥ ワークシートやメモにより記録を残し、発表することができる。

G ← ⑥ ← ⑤ ← ④ ← ③ ← ①
②

5 学級別順路

	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120
1組	地形図									考古	美工	歴												
2組	民俗									自然史	考古	美工												
3組	オリエンテーション									地形図	自然史	考古	美工											
4組	考古									民俗	地形図	自然史												
5組	自然史									考古	美工	歴												



6 授業の展開

時	内容	博物館	博物館	教師
6	オリエンテーション 6 画像の視聴	職員自己紹介 施設案内画像	職員自己紹介 施設案内画像	代表者打合せ (副担任の見置等) 児童着席指示 講師全音席
15	2 本時の目標 2 観覧順番の確認 誘導	博物館観覧の目標 博物館の観覧順確認 誘導職員紹介	博物館の観覧順確認 誘導職員紹介	児童先導 展示室移動
				誘導員は、後方支援
		展示室観覧 1組 地形図→自然史→考古・美工→歴史→民俗		
		2組 民俗→地形図→自然史 1,考古・美工→歴史		
75		3組 歴史→民俗→地形図 1,自然史→考古・美工		
		4組 考古・美工→歴史→民俗 1,地形図→自然史		
		5組 自然史→考古・美工 1,歴史→民俗→地形図		
		20 自由見学		
		まとめ		
		10		

⑩総合的な学習 (案)

2009/1/22(木)
9時00分～10時30分(90分)

那覇市立開南小学校

教師 3名

生徒4名

実習室

② 主題 稲の栽培

④ねらい、

- ① 博物館見学を通して、沖縄県の歴史、文化、自然に関する理解と愛情を育てる。
- ② 集団活動を通して、安全に行動できる力を養う。

③ 目標行動 ① 民具の体験を通して感想や気づいたことをまとめる。

⑤ 下位行動目標

- ① 博物館見学のねらいを確認することができます。
- ② 博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができます。
- ③ 資料を見たり、触れる体験を行うことができます。
- ④ タッチャペネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができます。
- ⑤ ワークシートやメモにより記録を残し、今後の見通しを立てることができます。

G ← ⑤ ← ④ ← ③ ← ② ← ①

⑥ 観覧順

民俗展示室 → 民具体験

カ 觀覧展開 (例)

時分	内容	博物館	教師	児童生徒
10	オリエンテーション 担当者あいさつ 本時の目標			
30	民俗展示室 説導 展示ガイド (農・漁具中心) (松川)	文化の杜(中村)	展示ガイド補助	
40	「民具体験」 説導 資料解説 体験サポート	文化の杜(中村)	(松川)(大嵩)	
5	①千歯 ②脱穀機 ③クレンボー ④アラーキ ⑤ハイキ ⑥ティール ⑦杵 ⑧ワガサ ⑨着衣	実習室 屋外 屋外 屋外 屋外 屋外 実習室 実習室 実習室	まとめ	



授業の展開例

9時30分～12時30分(180分) 生徒243名(7クラス)

講座室使用

ア 社会見学のれい、
① 博物館の見学を通して、自然・考古・美術・工芸・歴史等沖縄の先人達が残した文化

触れる機会とする
② 集団行動を通して、集団の一員としての自覚を高め、学年・学級の和を深める。
③ 公共施設の見学を通して、見学マナー・や心得を身につける。

七言詩

博物館見学により沖縄県の歴史、文化、自然について理解し、実物資料や映像資料等による展示のまとめの中から、自然や文化遺産があることに心を留め、より興味関心を持つとともに、保存・研究に取り組む機関が博物館であることを理解する。

行動標題目

① 公共施設のマナーについて理解し、実際の行動で表現することができる。

② 展示された実物資料や映像等の資料に接する中から、地域の中にのこされた、昔の暮らしについて指摘できる。

（六）行動目標

① 博物館見学のねらいを確認することができます。

② 博物館での観覧順を守ることができます。

③ 博物館利用のマナーについて理解し、実践することができます。

④ 展示資料を觀察し、教科書に掲載されているものを指摘することができます。

⑤ 昔の道具類について使用法などを指摘できる。

⑥ タッチパネルにつれながら、資料について興味・関心をもつことができます。

⑦ ワークシートやメモにより記録を残すことができます。

G → ⑥ → ⑤ → ④ → ③ → ② → ① ↘

2

路順別號級學才

説教		説教		説教		説教		説教		説教		説教		説教		説教		説教		
5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105
1組	オリエンテーション	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	美工	考古	歴史	民俗	待機											
2組	オリエンテーション	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	美工	歴史	待機												
3組	オリエンテーション	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	美工	歴史	民俗	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	シマ (総合展示)	自由	
4組	オリエンテーション	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	美工	歴史	民俗	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	シマ (総合展示)	自由	
5組	オリエンテーション	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	美工	歴史	民俗	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	
6組	待機	アリエンテーション	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	美工	歴史	民俗	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	
7組	待機	アリエンテーション	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	美工	歴史	民俗	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	考古	自然Ⅰ	自然Ⅱ	シマ (総合展示)	自然Ⅰ	

時	内容	博物館 オリエンテーション マナーデオ放映 本物の目標 観覧順番の確認	職員自己紹介 博物館観覧の目標 博物館の觀覧順序説明	教師 生徒着席指示 講座室着席	児童生徒 展示室移動
6 15					
	1組 地形図→自然史 I →自然史 II ↳考古→美工→歴史→民俗			担任学級先導 学級担任の先導	
	2組 民俗→地形図→自然史 I ↳自然史 II →考古→美工→歴史			学級担任の先導	
	3組 歴史→民俗→地形図→自然史 I ↳自然史 II →考古→美工			学級担任の先導	
45	4組 美工→歴史→民俗→地形図 ↳自然史 I →自然史 II →考古			学級担任の先導	
	5組 美工→歴史→民俗→地形図 ↳自然史 I →自然史 II →考古			学級担任の先導	
	6組 考古→美工→歴史→民俗 ↳地形図→自然史 I →自然史 II			学級担任の先導	
	7組 自然史 II →考古→美工→歴史 ↳民俗→地形図→自然史 I			学級担任の先導	
	地形圖(海面上下・黒潮・衛星写真) (杜) 自然史 I () 自然史 II ()				
5	まじめ 集合			点呼	高倉前集合



⑤ 總合的な學習（案）

2008/9/3(水) 昭和薬科大付属高等学校
9時30分～15時00分 生徒220名

② 社会科見学のねらい

講堂使用
名

見学のねらい　(1)　沖縄の歴史や文化に関する課題を発見し、分かったことや、疑問に感じたことをさらにに追求し調べようとする態度を育てる。
(2)　沖縄の歴史や文化に関する情報を収集し、課題解決に向けて探求する中で問題に気づき、進んで解決しようとする力を育てる。
(3)　これまでに身につけた学習内容を、博物館資料と関連付け、総合的にどうえていく力を育てる。

⑥ 観覧の展開 (例)

会科見学のねらい

① 沖縄の歴史や文化に関する課題を発見し、分かったことや、疑問に感じたことをさらに追求調べようとする態度を育てる。

② 沖縄の歴史や文化に関する情報を収集し、課題解決に向けて探求する中で問題に気づき、進んで解決しようとする力を育てる。

③ これまでに身につけた学習内容を、博物館資料と関連付け、総合的にとらえていく力を育てる。

標目導指

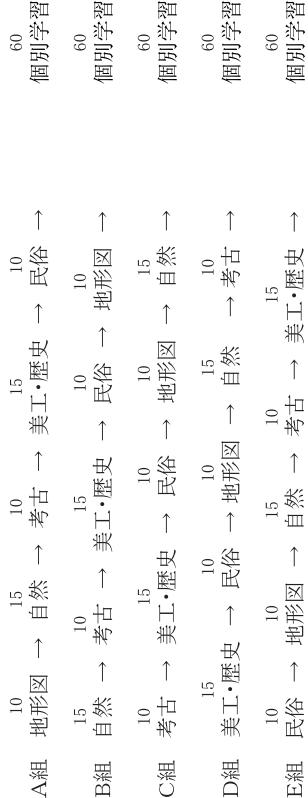
◎ 目標行動

⑤ 下位行動目標

- ① 博物館
- ② 博物館
- ③ 分野に
- ④ 沖縄の
- ⑤ タッチ
- ⑥ ロ
- ⑦ パ

学級別順路

時 時	内 容	博 物 館 裏 の 広 場 に 集 合	博 物 館	教 師	児 童 生 徒
9:00	荷 物 の 移 動				
9:20	博 物 館 2 の 講 堂 へ				
9:30	オリエンテーション 博物館紹介	職員自己紹介 施設案内映像			
	観覧順番の確認	観覧順確認			
9:50	講 話 — 沖縄の歴史の概況	福学芸員			
10:20	講 話 — 沖縄の美術の概況				
10:50	博 物 館 観 覧		担任が誘導	展示室へ移動	
				ワークシート	
12:00	昼 食 (公園)				
13:10	美 術 館 観 覧		担任が誘導	A B は 3 階か、 下へ	
				C D E は 1 階	
				上へ	
14:10	博 物 館 裏 の 広 場 に 集 合				特別展見学
14:30	学 級 ご と に 解 散				希望者はス クールバス



⑥ 美術科 鑑賞 (案)
2008/10/1(水) 昭和葉科大学付属中学校 生徒216名
教師 7人 博物館・美術館常設展

⑦ 授業の展開例
⑧

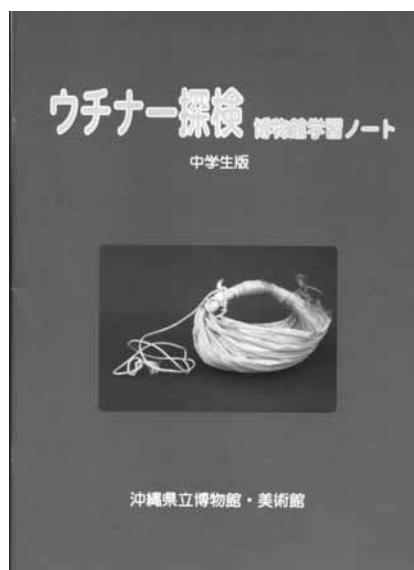
時	内容	博物館	博物館自己紹介	教師	児童生徒
10 6	オリエンテーション 画像の観覧	職員自己紹介 施設案内画像	代表者打合せ(副担任の配置等) 児童着席指示		
10 2	本時の目標 観覧順番の確認	博物館観覧の目標 博物館の観覧順確認		講義室着席	
10 2	誘導	説明員紹介	担任学級先導 説明員は、後方支援	展示室移動	
10 1	ライブラリーマンス				
85	A組 美術館→自然→考古 →美工→歴史・民俗				
	B組 自然→考古→美工 →歴史・民俗→美術館				
	C組 考古→美工→歴史・民俗 →美術館→自然史				
	D組 美工→歴史・民俗→美術館 →自然→考古				
	E組 歴史・民俗→美術館 →自然→考古→美工				
	美工ガイド() 学芸員又はアラサー				
	移動	全体のまとめは無し			

- ⑨ 指導目標
 ① 沖縄の歴史・文化・美術・工芸の特質や作品や資料を通じて学ぶ機会をもたらせ、地域に対する理解・関心を養う。
 ② 作品の意図や造形を分析的に鑑賞する態度を養う。
- ⑩ 目標行動
 ① 展示された作品や資料を観察して、自分がどのように感じているか、自分なりの意見をもつことができる。
 ② ワークシートを利用してメモや記録をとる。
 ③ 公共施設のマナーについて理解する。

① 県立博物館・美術館がどのような場所か観察する。(いつの、どこの、何についての、誰の、どのような展示があるのか。)
② 展示された作品や資料を観察して、自分がどのように感じているか、自分なりの意見をもつことができる。
③ ワークシートを利用してメモや記録をとる。
④ 公共施設のマナーについて理解する。

学級別順路	14時												15時												説導担当アラサー
	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	説導担当アラサー		
A組	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	()		
B組	オリエンテーション	ライブラリーマンス	自然	考古	美工	歴史・民俗	自然	考古	美工	歴史・民俗	自然	考古	美術館	自然	考古	美工	自然	考古	美工	自然	考古	美工	()		
C組																							()		
D組																							()		
E組																							()		

過去の『博物館学習ノート』



2. 博物館学習ノート

(1) 『博物館学習ノート』作成に係る基本事項

① これまでの博物館学習ノートについて

小学生のための『博物館学習ノート』	1988年3月 発行
中学生のための『博物館学習ノート』	1989年3月 発行
高校生のための『博物館学習ノート』	1990年3月 発行
『博物館においてよ』－博物館ワークシート－	1992年3月 発行
発見！発見！大発見 博物館探検コース	1995年3月 発行
『ウチナー探検 博物館学習ノート－中学生版－』	2008年3月 発行

② これまでの『博物館学習ノート』(ワークシート)に見られる課題

1988年から1990年にかけて、三冊に分けて製作されたノートは、それぞれの校種に合わせ発達段階に応じた形で作られ、分かりやすい。博物館に始めて来た人でも、資料についての大まかな理解が可能になるガイド的な内容となっている。問題の数も少なめで、資料の紹介からはじまり、学習を促す形がとられている。

『博物館においてよ』については、小・中・高を網羅するという方針で作られた。イラストによる資料の紹介が多く取り入れられて、見やすくする工夫がなされている。しかし、1つの頁に設定した問題の数が多い傾向がある。そのため必要な頁をコピーしてそのまま使えるもののが少ない。このシートを活用して来館した学校で、問題の回答に多くの時間を費やし、資料をじっくり見ることができていない場面が多く見られるようになった。

『博物館探検コース』は、試験的に製作されたワークシートである。ページ数も少なく、各分野の代表的な資料を選定し、見ることで解答が導き出されるような問題設定の試みがなされている。

今回の新館において活用される学習ノートには、以上のような状況を踏まえつつ、児童生徒が展示資料に向かっていくような工夫が必要である。

③ 『博物館学習ノート』の基本的な考え方

これまで博物館で作成してきた、学習ノートの課題を考慮し、モノ（博物館資料）から出発してモノの観察をとおして、見えないところまで興味関心を広げられるようなワークシートを作成する。

ア 『博物館学習ノート』の位置付け

- ・博物館において、小学生が調べ学習できる「博物館学習ノート」とする。
- ・博物館の展示構成を基本とする。
- ・学校の教育課程と関連する項目には、単元名を記載する。
- ・博物館資料の観察・体験を誘導する内容とする。
- ・資料を観察・体験することで答えが導き出せる問題設定をする。
- ・生徒が答えを見出し、更に追求する方向へ導く。
- ・設問数は精選し、生徒に発見のためのゆとりを持たせる。
- ・学習意欲や思考力を高める設問を設定する。

イ 内容について

- ・沖縄の豊かな自然や先人の知恵に結びつく内容とする。
- ・常設展示の各展示室のつながりを考慮する。
- ・学校で用いる表現と博物館での表現の違いを考慮する。

ウ 記述について

- ・設問の意図は適切か。
- ・図や写真で表したほうが良い個所はないか。
- ・強調文字で表したほうがよい個所はないか。

- ・主語や述語、修飾語と被修飾語などの対応は正しいか。
- ・文字用語の統一は取れているか。
- ・誤字、脱字、当て字がないか。
- ・仮名遣い、送り仮名の使い方は正しいか。

エ 役割分担

	博物館	委 員
テ ー マ の 選 定	○	○
資 料 情 報 の 提 供	○	
設 問 作 成	○	○
試 案 の 檢 討		○
モ ニ タ リ ン グ	○	○
最 終 原 稿	○	

(2) 『博物館学習ノート』作成実施計画

① 作成計画

- ア 3年計画で、小・中・高の校種別の『博物館学習ノート』（以下「ワークシート」という。）を作成する。
 イ ワークシートは、平成19年度(中学生:刊行済)、平成20年度（小学生）、平成21年度（高校生）、の計画で作成を進める。
 ウ 博物館において平成元年から3年にかけて作成されたワークシートと、平成5年の『博物館においてよ』を参考に、新版として作成する。
 エ 新館の展示や体験資料の中から、児童・生徒が観察・体感することによって、自ら学ぶように導くワークシートを作成する。
 オ 県内博物館教育関係者及び小学校教諭より、総括1名、委員5名の合計6名の委員を委嘱して、博物館職員を含めた作成委員会を発足させる。

② 方針

- ・博物館の展示構成を基本とする。
- ・文章を少なくし、図や写真で視覚に訴えるものにする。
- ・展示全体を見て調べるものと、部分を集中して観察する資料のバランスが取れたものとする。
- ・他の分野との関連性のある資料を紹介し、展示室を総合的に活用する問題も積極的に取り入れる。
- ・児童が短時間（10分～15分）で、博物館の部門展示を観覧することを考慮する。
- ・展示室で学級(班)がまとまって観察する場面にも対応する内容とする。
- ・先に作成された『ウチナー探検 博物館学習ノート－中学生版－』と相互に補完するものとする。
- ・ふれあい体験室や体験学習教室と関連を持たせることができると問題を取り入れる。

③ 作成方法

- ア 各分野の常設展示資料の中から学芸員が選択し、内容を決める。
 イ ノートは、全体で60ページを分野別に配分する。（頁の配分は調整することもある）
 　歴史(14) 考古(8) 自然史(14) 人類(2) 美術工芸(8) 民俗(14)
 ウ 草案ができたら、近隣の学校に使用してもらい問題点を検討する。（モニタリング）
 エ 各分野を総合歴史、民俗、自然史で班編成し、設問の編集検討を進める。
 オ 全体会議は、3回実施し、分野（班）別会議は隨時開催する。

④ 取組計画

- ア 編集委員の依頼（学芸員による）
 イ 草案（原稿）提出（学芸員が執筆）
 ウ 児童生徒によるモニタリング
 エ 原稿修正、調整（学芸員・作成委員）

オ 印刷完了
カ 学校への配布

⑤『博物館学習ノート』作成委員

・前田 真之	西原町立西原小学校	校長
・仲底 善章	沖縄県立石川少年自然の家	主任専門職員
・日越 國昭	元沖縄県立図書館	館長
・中里 昭夫	糸満市立兼城小学校	教諭
・眞境名 兼彦	西原町立西原小学校	教諭
・波平 恵子	沖縄県立博物館・美術館	博物館ボランティア

総合歴史班

稻福・羽方・藤田・山崎・平川
前田・眞境名

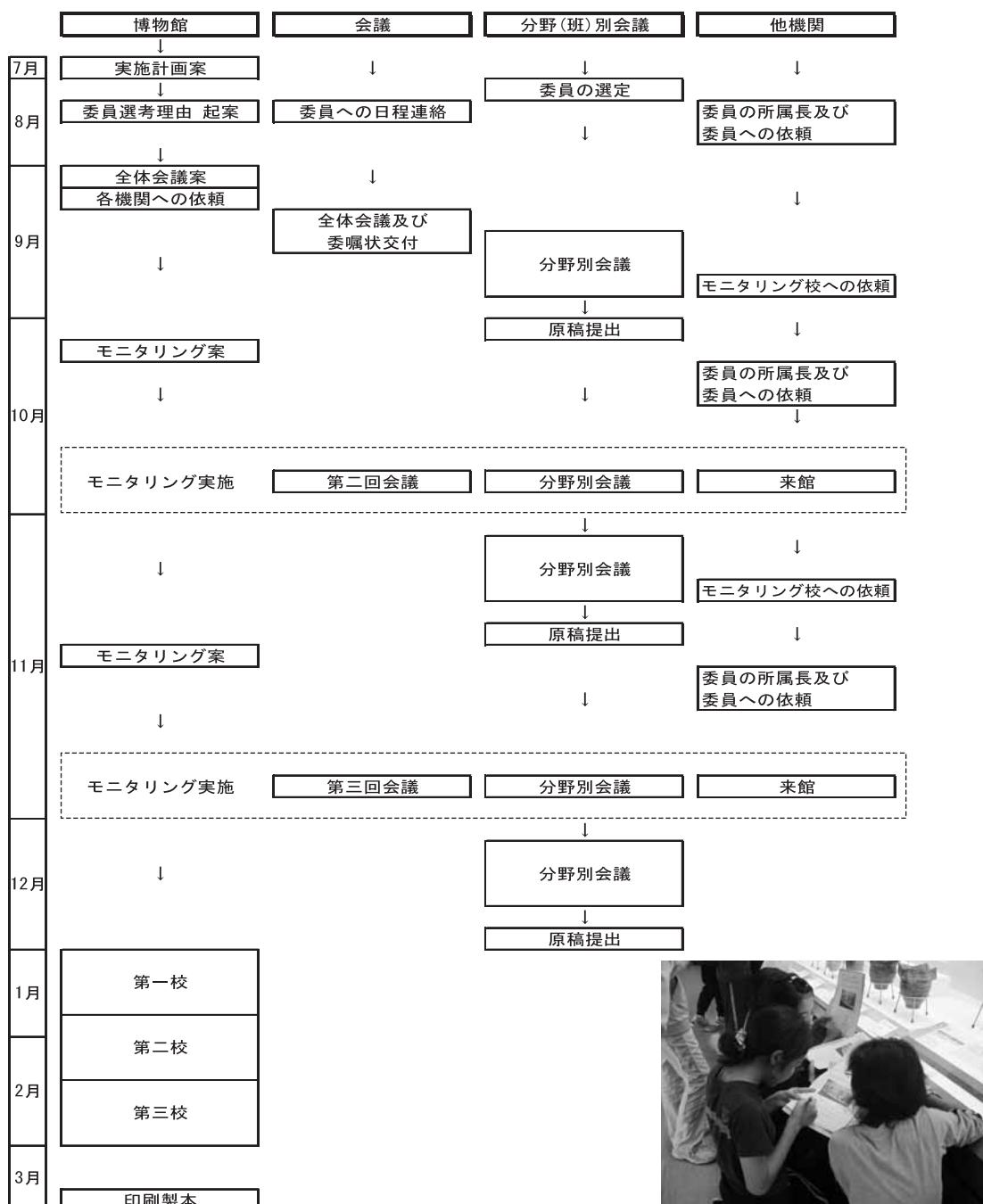
自然史班

田中・知念
日越・波平

民俗班

岸本・萩尾班長
仲底・中里

⑥ 作成作業工程表



(3) モニタリング

モニタリング後に全体会（第2回・第3回）を行なう形式で進めた。

① ねらい

博物館において作成を進めている『博物館学習ノート』(ワークシート)について、児童の解いた答案を回収し、設問に取組む場面の観察等により、『博物館学習ノート』の内容を深化させるための資料や情報を収集する。

② 実施団体・日時

第一回

日時 平成20年10月30日(木) 14:15~14:50

嘉手納町立嘉手納小学校 6年 4クラス・133人

第二回

日時 平成20年12月9日(火) 10:00~14:40

北中城村立北中城小学校 5年生 4クラス・149人

③ 場所 博物館 講座室 展示室

④ 方法

- ア 学校の修学旅行のねらいをもとに、モニタリング調査の協力を依頼する。
- イ 滞在中の前半部において学校主体の観覧を行い、後半部においてワークシートのモニタリングを実施する。
- ウ ワークシートは、学級や学級の班に配分し、各分野の全シートが複数班により活用できるようにする。
- エ 一班が、2つのワークシートを活用する。
- オ ワークシートを活用して展開する時間は、30分で調整する。(1シート15分)
- カ ワークシートは、観覧当日、講座室にて班別に配布する。
- キ ワークシートは、博物館で準備し、活用後複写し、原本を学校へ送付する。
- ク モニタリング後にアンケートを実施する。

(4) 会議

○ 第一回全体会議 平成20年8月28日 議事録

① 学校・児童の実態

- ・児童が自分の興味のあるものについて、調べていく問題には可能性がある。「なぜ好きか」など。
- ・子供が自分で考えない、意見を出さない傾向がある。
- ・学校現場からは、年間学習計画に沿ったもので、学年・目的が明確なものがよい。
- ・学習指導要領との関連からは、社会・理科・家庭科との関連が深い。
- ・素材を電子情報化すると、学校現場でシート作成に利用しやすい。著作権を持たないようにしてほしい。
- ・先生が見せたいものと、博物館側の展示意図を考えて、利用頻度の高いものを優先する。
- ・学校が関連する部分は連携するが、博物館は生涯学習施設であり、生涯にわたるものとの認識も大切。
- ・ノートは学校向けなので、ニーズに応じたものがいいと思う。
- ・展示に即し、頻度の高いものを学校の要望に沿って作る。
- ・学校の学習は、指導要領により変わるので、普遍的なものをおさえる学習を博物館で。

② 問題作成上の課題

- ・穴埋め式の問題では、子供が考えて自分の意見を表現できない。
- ・資料によっては穴埋めでよいものがある。
- ・学校の実態があるので、記述・穴埋め両方あってよい。
- ・生徒の持っている印刷物の写真が黒く写り、判別しにくい。線画や略画にした方が良い。

- ・絵を見て分かるものがあつてもよい。
- ・やさしい文で書く。ルビをふればすべて理解できるわけではない。
- ・展示のコンセプトを理解するためには、入口から出口までの流れに合わせた分野問題配置が望ましい。

○ 第二回全体会議 平成20年10月30日 議事録

① 学校・児童の実態

モニタリング（嘉手納小学校6年生）

- ・問題の内容理解と所要時間確認のためアンケートをとった。リーダーの子も展示室での自分の居場所が理解できていない。
- ・答えのある場所を見つけるのに時間がかかる。→地図などの工夫が必要

② 問題作成上の課題

- ・ヒントも与えずに考えさせるようにしようという方向で作った。考えさせるために
- ・ワークシートの基本は展示物だと思う
- ・小学校の先生と連携しながら、漢字の表記を確認する。ルビも含めて
- ・難しいが大切な主題は、コラム的に扱う。
- ・地図は大きく一枚ものにする方が利用しやすい。
- ・イノーや地形図、鐘、サバニなど目印的なものは残して、全体の略図をつくる。
- ・ワークシートの番号を地図に書いていくのはどうか。
- ・通し番号が一番いい。
- ・全体図と分野別地図、全体図のみの2パターン作って試してみてはどうか。
- ・使用フォントと、文字サイズなど統一した方がよい
- ・リード文は何の学習をするのかという意味づけになるので、必要な分野は入れる。統一は不要。

○ 第三回全体会議 平成20年12月9日 議事録

① 学校・児童の実態

モニタリング（北中城小学校5年生）

- ・全体的に解答に迷っている子が多い。
- ・前回の6年生が解くよりは手助けが必要。地図パネルに気付かない子もいた。
- ・場所が分からぬ。同じコーナーでも、どこを見ていいのか苦労していた。考える事をあまりしない。
- ・資料を上手く使えていない。入口で全体を説明していくと、子ども達も分かりやすいだろう。
- ・マナーも必要か。手を開くと静かにする、など。
- ・言葉の意味が分からぬ子もいた。
- ・地図はアドバイスすると理解できる、少しヒントを出した方が、良かったのでは。
- ・間違いを恐れて、一人の答えを真似る傾向がある。
- ・正解を探そうという子が多くて、考えるという子が少なかった。
- ・オリエンテーションでは、地図の説明をしなかった。大半の児童は、地図の意味が伝わっていない。
- ・解答率は、学級と分野にもよるが、5割から9割解答できていた。分野ごとに再検討の材料としてほしい。
- ・文が長いと読まない。
- ・がんばれば3年生でも分かる問題でもよいのでは。

② 問題作成上の課題

- ・展示表記とワークシートの表記が違うと、子どもが戸惑うので、同じような表記にした方がいい。
- ・写真をイラスト化する方が良い。
- ・もう少し易しい問い合わせした方がよいのか判断が難しい。
- ・キャプションを見て答える問題だが、視力の弱い子には、小さくて見えない。

- ・好きかどうかを問う問題は、体験がないものに対しては、難しいのではないか。
- ・見出しの統一が必要。呼びかけの方が探しやすいのでは。子ども達にもとっかかりやすい。
- ・ボリュームがありすぎて何を伝えたいのかわからない。
- ・地図の活用度は前回より良くなってきてている。問題の付近にあるモノのイラストをいれてはどうか。
- ・考える。パネルを見る。などマークで表示してはどうか。
- ・言葉をやさしくするだけで、よいのではないか。自然以外は、そのままでいい。
- ・美工は問い合わせが多いと思う。

3 職場研修受入

学校の校内研修をはじめとする職場の研修を、博物館の教育普及と関連の強い団体に関して、学校受け入れの概要の説明をしました。学校連携事業の中での学校団体観覧で、博物館を利用して学ぶ、学習プログラムを組み立てるなど、学習プログラムの流れを説明しました。また、フリーパスやIPMなどの博物館が取り組んでいる内容の周知を図りました。

(1) 学校職員研修

八重瀬町立具志頭中学校
浦添市立港川中学校
与那原町立与那原中学校
那霸市立真地小学校
西原町立西原東小学校

(2) 校長・教頭研修

那霸地区公立小中学校長会
名護市小中校長会

(3) 教育関係機関

那霸市教育研究所（前期生）
那霸市教育研究所（後期生）

(4) 研究会

那霸地区社会科研究科
沖縄県高等学校地理歴史研究会



平成20年度 第3回博物館体験学習教室

植物標本をつくりよう

植物の観察と採集で、身近な自然に興味をもとう!
植物の標本を作って、整理・保存の方法を学ぼう!

平成20年7月20日(日)・8月17日(日)

(9:00～16:00) (9:00～12:00)

募集期間

平成6月20日(金)～6月29日(日)

定員 男子20組(男女各10組)
親子20組(のぞみ多年生対象)

講 師 日越國昭氏(元石川10年生の家庭教師)

新城和治氏(元出稼少年教育研究)

参 加 費 300円(保護料、材料費)

場 所 未吉公園・例江博物館・美術館博物館実習室

申込み書

氏名	学年
住所	電話番号

III 体験学習教室

1 博物館体験学習教室実施要項

(1) 主旨・目的

沖縄の歴史や文化及び自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に关心を持たせ、先人の知恵等を学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野（自然、人類学、考古、歴史、美工、民俗）の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3日曜日

午前9時～12時までの3時間

場 所：特に指定がない場合は、博物館実習室（1F）

※開館記念特別展関連講座は毎週土曜日を予定。

(4) 受講方法

※ 1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。
(公平を期すため、館長による抽選。)

※ 抽選の場合の当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

定員	期日	題	講師名	内容	定員
1	4月20日	アダン葉サバをつくろう	前盛 弘吉	沖縄の民具の一つであるアダン葉で作るサバづくりを体験する。	40
2	6月15日	和綴じ本をつくろう	當間 巧 表具士(石川堂)	博物館収蔵の古文書にも使われている、古くから伝わる紙の綴じ方について体験する。	30
3	7月20日 8月17日	植物標本をつくろう	日越國昭(元石川少年自然の家所長) 新城和治(元琉球大学教授)	博物館近隣の公園における植物の採集と、採集した資料を標本にする方法を体験する。	20
4	7月	教師のための博物館利用講習会	赤嶺 敏 当館学芸員	校種(小中高)別に、博物館を利用するための手順等を理解する。	60
5	9月21日 10月19日	印をつくろう	前田 賢二 書道家	書や絵画に使われる印の、使い方を学び、制作する。	30
6	11月16日 12月21日	連鳳をつくろう	上運天賢成 おもちゃの会ピノキオ会長	昔ながらの遊びの1つである鳳作りから、実際に広場でのたこあげを体験する。	30
7	1月17日 1月18日	しつくいシーサーをつくろう	奥原 宗典 奥原製陶	博物館の資料も参考にしながら、瓦と漆喰を使って、守り神であるシーサーの製作をする。	40
8	2月15日 3月1日	手びねりでつくる器	本田伸明 沖縄クチャ 赤土造形	博物館の陶器資料を参考にしながら、手びねりができる器作りを体験する。	30

2 体験学習教室 活動資料①

講師紹介

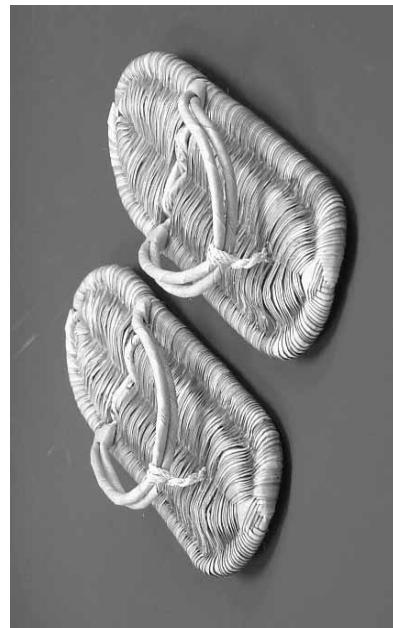
前盛 弘吉先生

平成20年度

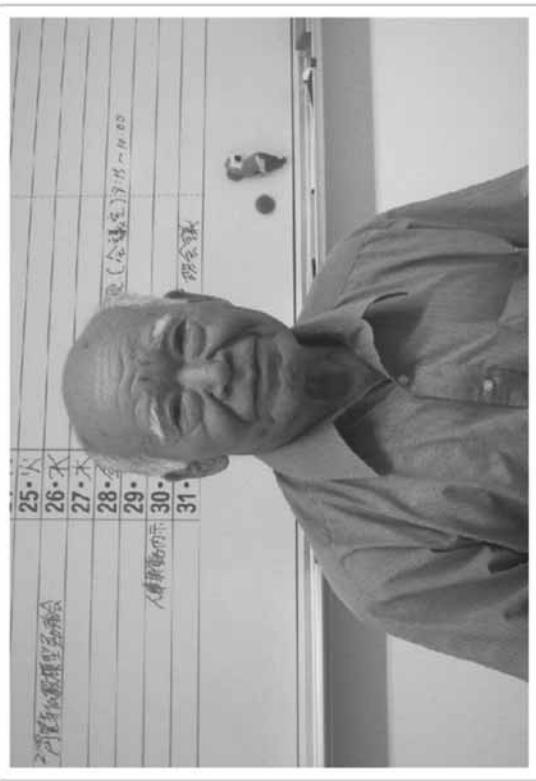
博物館体験学習教室

第1回講座

アダン葉サバをつくろう



H様	受け付け	9:00 ~	9:15 ~
	開講式及び諸連絡	9:15 ~	9:30
	講座	9:30 ~	12:00
	後片づけ	12:00 ~	12:15
	閉講式	12:15 ~	12:30



平成20年度博物館体験学習教室の第一回目に当たる今回は、沖縄の昔ながらの民具の一つであるアダン葉サバを製作します。サバは、草履のこと、沖縄の海岸に多く自生しているアダンの葉を素材にします。

今回の講師である前盛氏は、石垣市の波照間島のご出身で、沖縄県立博物館では、以前にアンク(編み袋)作りの際にもご協力いただきました。仲盛さんは、幼少の頃から実際に製作し、使用されてきたと聞いています。実用のアダン葉サバの制作方法を「手が覚えている」とおっしゃっています。その技術を今回の体験学習教室でご教授願いたいと思います。今回の体験学習に先立ち、実際に使用したことのある方

で、アダン葉サバを作ることがができる方は、ながなが見つかれば幸いでした。このサバ作りは伝統的な技術ではありませんが、若い世代には継承されないのではないかとのことです。

今回の体験学習教室の中で、自然の材料を生かしながら、豊かな知恵を働かせてきた昔ながらの「民具」にも興味を持っていたら嬉しいと思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけることを願っております。

博物館 体験学習教室 「アダ・葉サバをつくろう」実施計画

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する

1 目的

公園のアダハイは許可が必要
若すぎると葉も古い葉も良くな
い。中央から5・6枚目当たりから採集する。

順手製作

① アダムの収集

海岸に自生している
公園のアダンは許可が必要
若すぎると葉も古い葉も良く

2日 時 平成20年4月20日 9:00 ~ 12:30

3 対象者・観察子・一般

4 募集人員 30名(多數の場合)注抽選)

5	日 稲 受付 開講式	9:00 始めの言葉……司会 講師紹介……教育普及担当(赤嶺) 終わりの言葉……司会	～ ～ (文化の杜・安元)	9:15 9:30
	講 座	・製作説明(講師) 9:30 ・製作作業 9:45	～ ～	9:45 12:00
	後片づけ		～	12:15
6	講 師 前盛 弘吉 先生	閉 講 式 始めの言葉……司会(文化の杜・安元) 講師によるまとめ 記念撮影 終わりの言葉……司会	12:15 ～	12:30

① アダンの収集

海岸に自生している公園のアダンは許可が必要すぎる葉も良くない。中央から5・6枚目当たりから採集する。

② アダン葉の仕込み

採集して3日ほど間をおいて少し乾燥させる

- i アダン葉を二つに裂く
- ii アダン葉の内側から素材をとる。
仕分具(三本刃を等間隔)により
裂き分ける。
- iii 葉を平たくする
そのまま乾燥をさせると葉が反り返るので、整形具を使って延ばす。

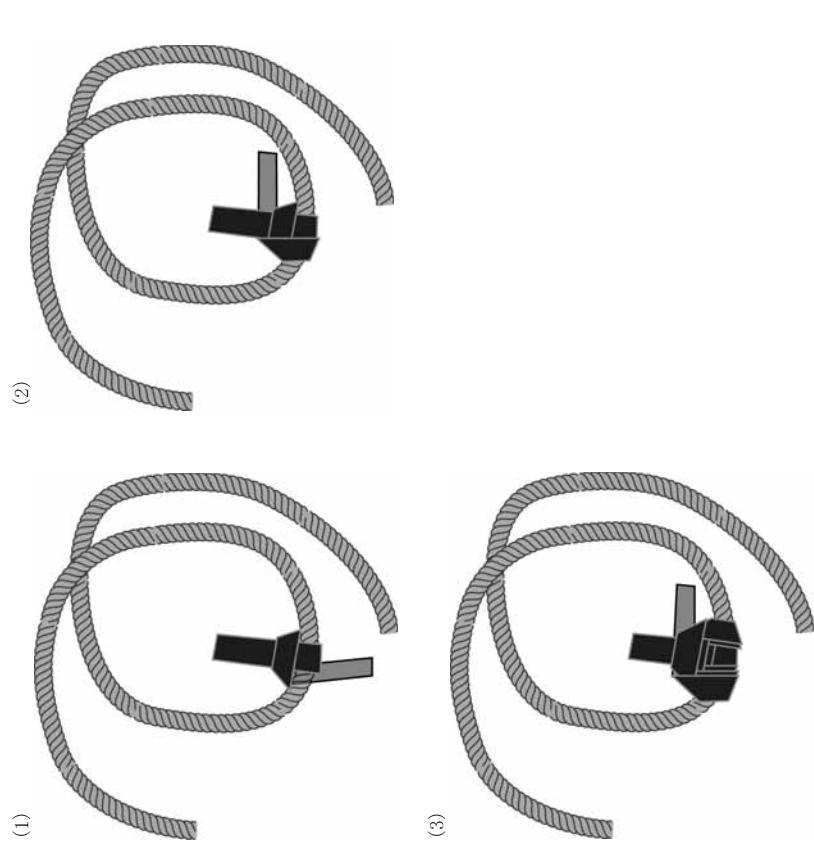
③ 芯紐組

麻紐(直径4mm程度)を芯財として、両足の親指に二重に輪をを作る。

紐の両端は、手前につなぎ、中央にできる輪が、
上になるようにする。

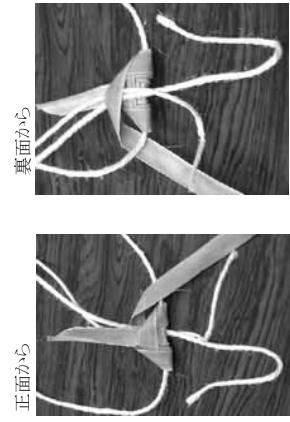
④ アダン葉の組み出し

組み始めの段階は大きく三つの段階がある
 i 組み始め
 ii 両端紐の合流
 iii 四本の芯紐通し(本組)
 i、紐の下から裏返しの葉を7cmほど出し、折り返した葉は、左側の下向きに巻きつき、さらに初めに出した葉の横から巻き戻つて左側に出でてくる。右に出でた葉を、手前に折り返し下方に向巻き上げ、右に出でてくるようにする。さらに出でてきた葉を、初めて出した葉を上横から巻くようにして、左下へ持っていく。
 同様な作業を三回繰り返す。

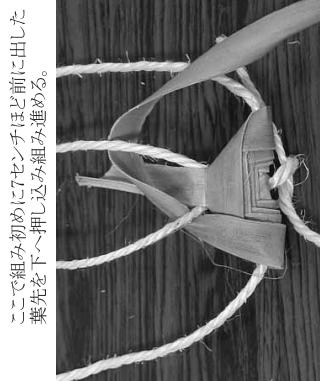
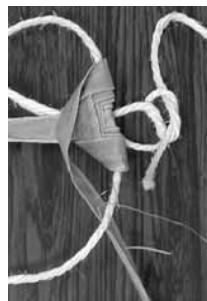


ii、両端紐の合流

組み始めと同様な組み方を進めるが、
 両端紐の合流



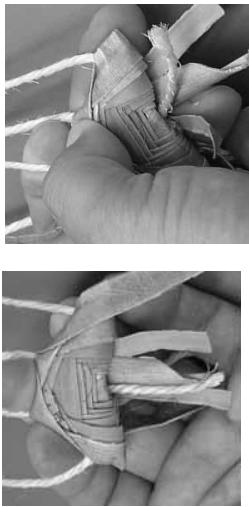
組み始め
 両端紐の合流した後に上下二回組んだあと
 両端のひもを結ぶ(紐が抜けないために)



ここで組み始めに7センチほど前に出した葉先を下へ押し込み進める。

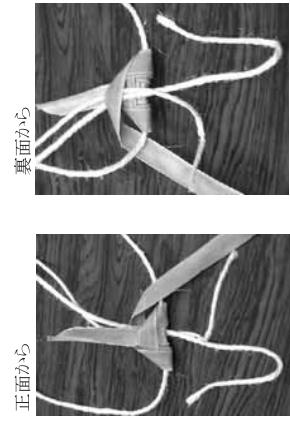
iii 四本のが紐通し(本組)

この後組み方は、基本的には同じように進めしていく。
 本体の幅を狭くする際には、ひもを強くひきながら組み進める。
 特に両端を回り込ませる時に、強く(しっかり)組むと、やるみが少なくなる。
 ※始めて緩くすると、あとでの修正は難しい。

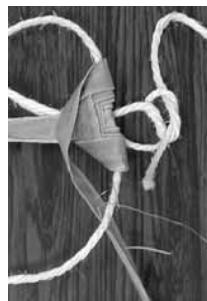


iii、四本のが紐通し(本組)

組み始めと同様な組み方を進めるが、
 両端紐の合流



組み始め
 両端紐の合流した後に上下二回組んだあと
 両端のひもを結ぶ(紐が抜けないために)





一枚の葉が終了するときには、10センチほどかぶせるようにして、継ぎ足していく。



緒のつけ方と仕上げは、実際の講座の中で…

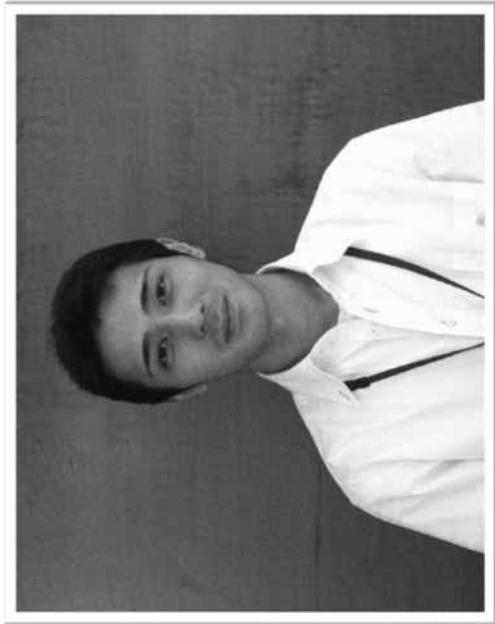
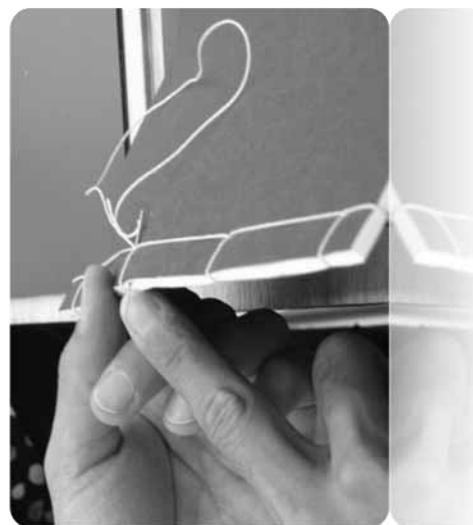
自由メモ

平成20年度

博物館体験学習教室

第2回講座

和綴じ本をつくりう



期日	平成20年6月15日(日)		
時間	午前 9:00～12:45		
場所	沖縄県立博物館 実習室		
日程	受け付け	9:00	～ 9:15
	開講式及び諸連絡	9:15	～ 9:30
	講座	9:30	～ 12:00
	後片づけ	12:00	～ 12:15
	閉講式	12:30	～ 12:45

平成20年度博物館体験学習教室の第2回目に当たる今回は、「和綴じ」による本の作製を体験します。綴じとは、糸などを使って紙をまとめる方法で、和紙を素材として学習します。

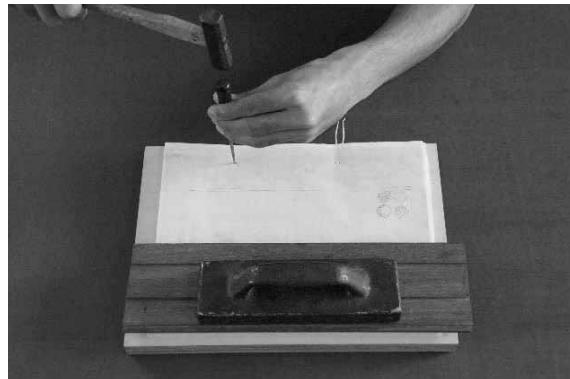
沖縄に和綴じの文書がいつから使われるようになったかは、よく分かっていませんが、博物館に残っているものでは、『中山世鑑』という歴史書が古い資料となっています。

講師である當間氏は、うるま市のご出身で、博物館や公文書館などで昔の資料を修理・修復する表具師として活躍されています。當間さんは、古文書等の修理・修復の技術を、京都で学ばれました。現在は、自らの工房で伝統的な技術による本格的な修理・修復を手掛けられています。

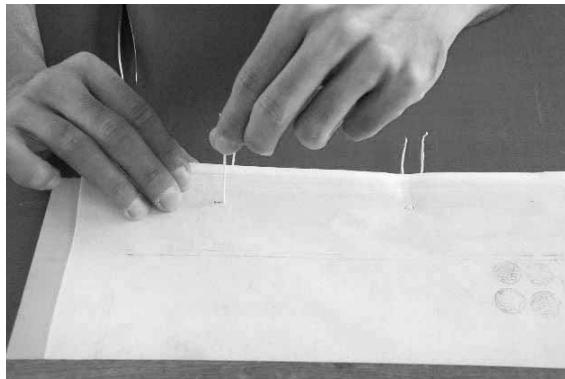
博物館における近年の修理では、展示されている『球陽』や『琉球国物絵図』があります。今回は、當間さんからのご指導により、紙を”綴じる”という観点から博物館資料の理解を深める貴重な体験となると思われます。

今回の体験学習教室の中で、沖縄の文字文化にも興味を持つていただけたら嬉しいと思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の歴史、伝統文化を学ぶきっかけとなることを願っております。

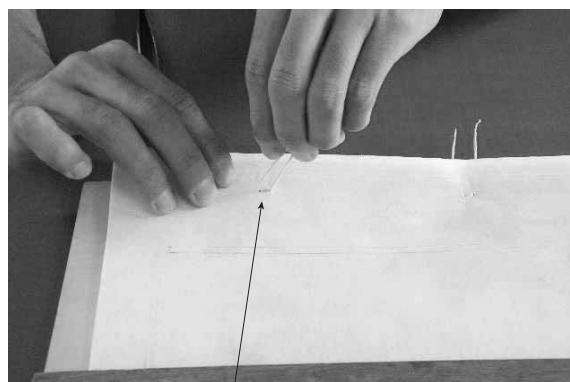
本紙、紙縫で仮綴じ。



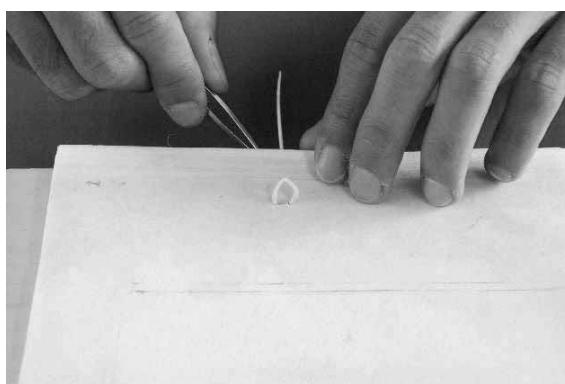
1 天、地、紙縫を通す穴を開ける。



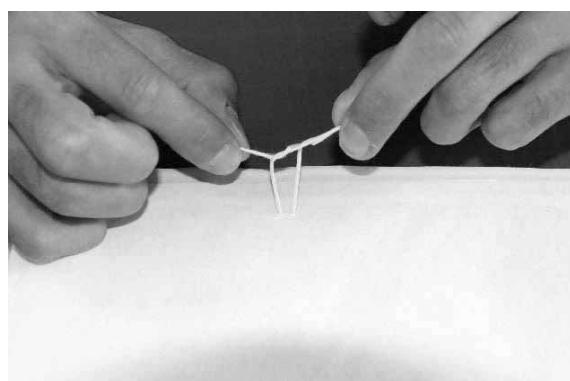
2 紙縫を通す。



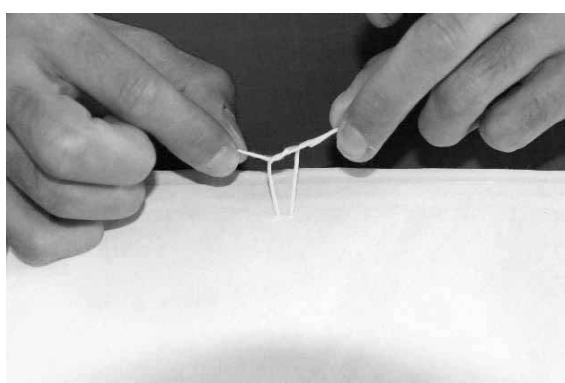
3 天、地に紙縫を通す



4 紙縫を二箇所の穴に通す。



5 冊子を裏に返し、紙縫を一重結びにする。



6 紙縫を一重結びに締め付ける



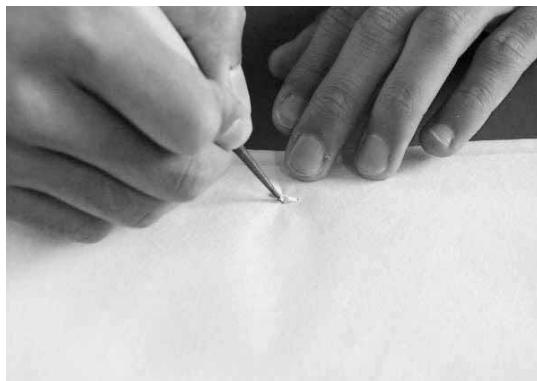
7 一重結びにして、一方に引き寄せる。



8 余分に余った、紙縫を切り取る。



9 余分に余った、紙縁を切り取る。



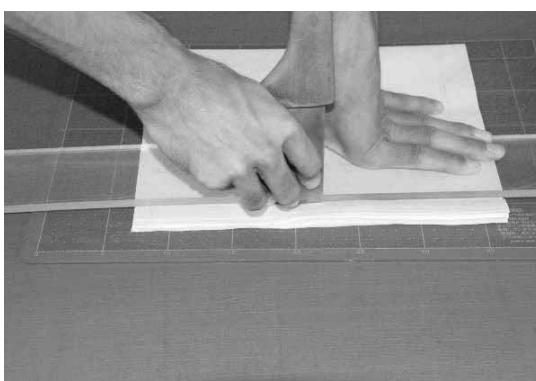
10 切り取った後、糊を付けキリで元穴に押し込む。



11 縫じを終えて、地と背を包丁により裁断
(法量を一定)



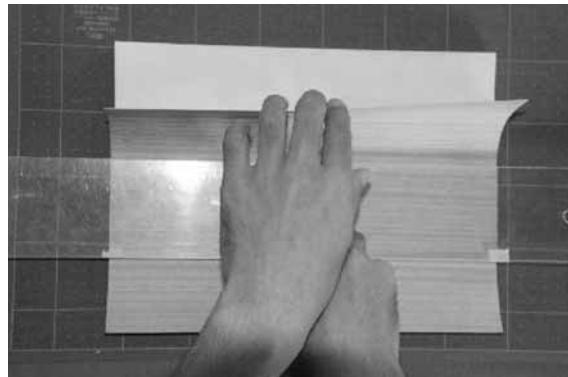
12 背の裁断



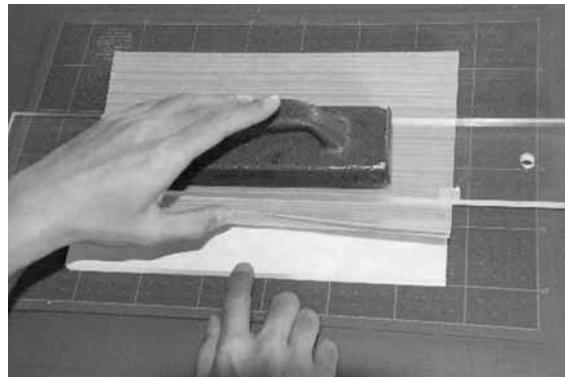
13 仮綴じ、裁断を終えた後に表紙、裏表紙を
糊付け、四つ目和綴じとする。



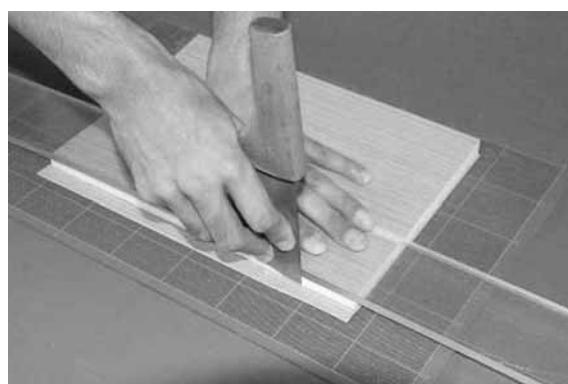
表紙、裏表紙を冊子より 5 mm余分に、糊で背に点付けとする。



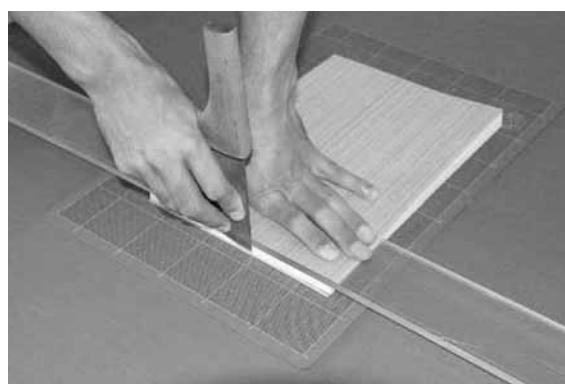
1



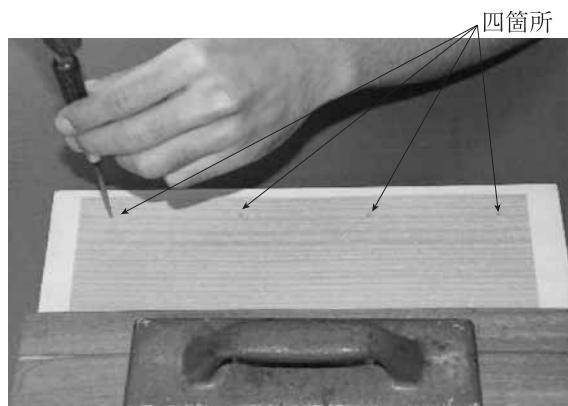
表紙、裏表紙を冊子より 5 mm余分に、糊で背に点付けとする。



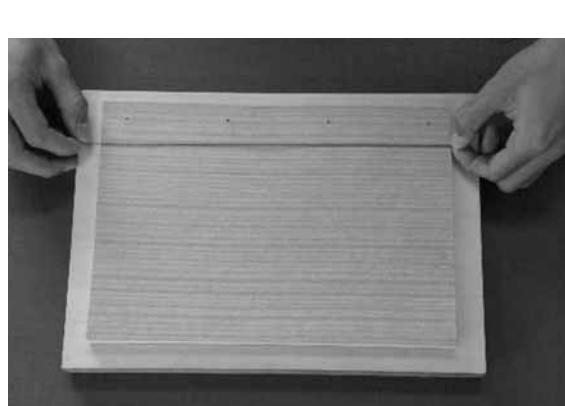
2 余分な天、地、背、を裁断。 背



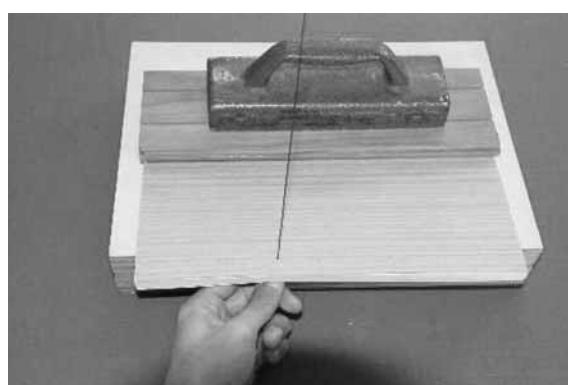
天



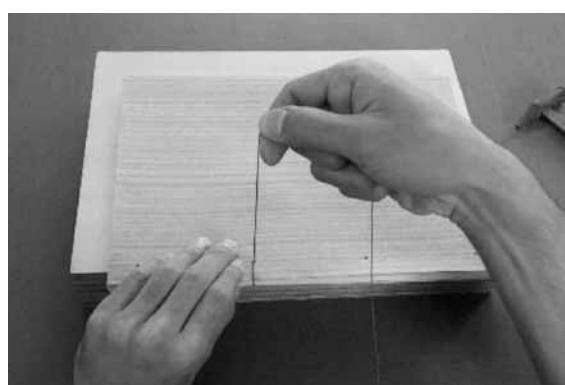
3 穴開け。



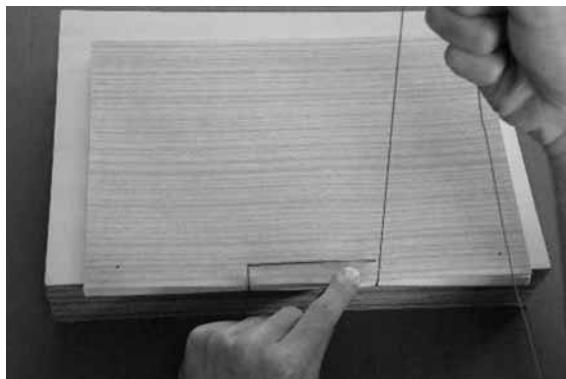
綴じ糸の長さ、冊子の三倍半の長さ。



4



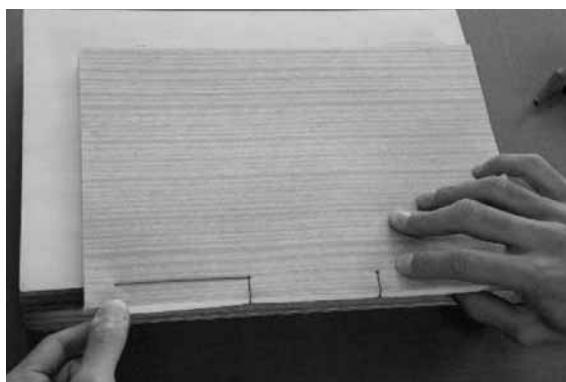
裏表紙を上に、下側から最初の針を通す。



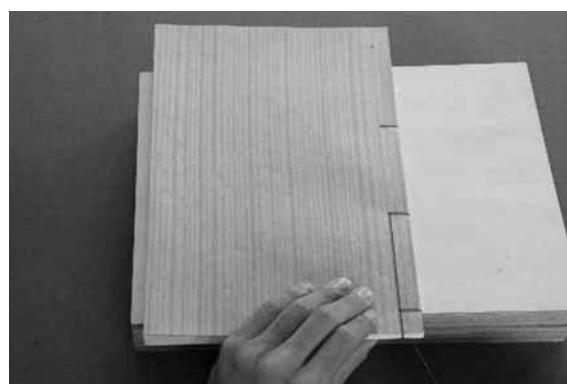
5 右側の目に針を通し背に回し上から針を通す。



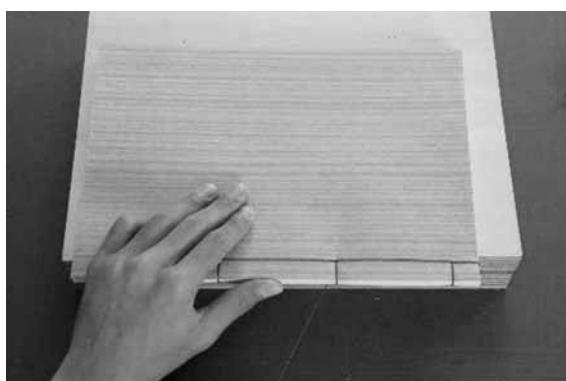
6 針を上から通し、ペンチで引き抜く。



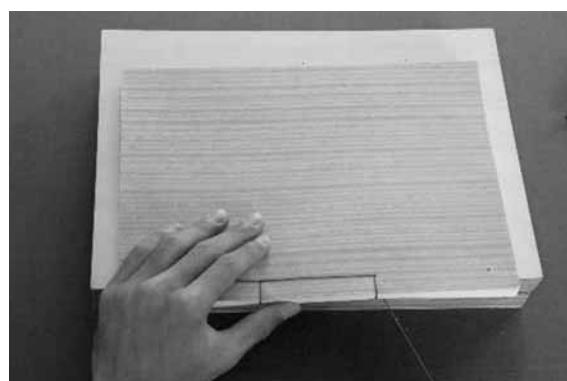
7 冊子を裏返し地の部分の背から回し針を通す。



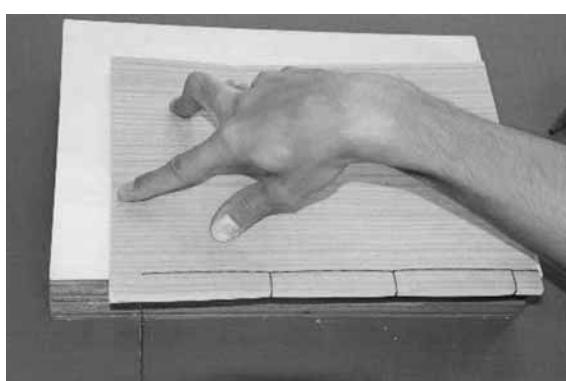
8 冊子を縦にして針を通す。



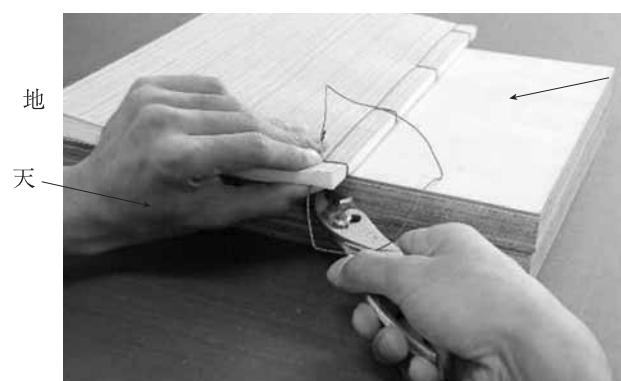
9 裏返して、針を通す。



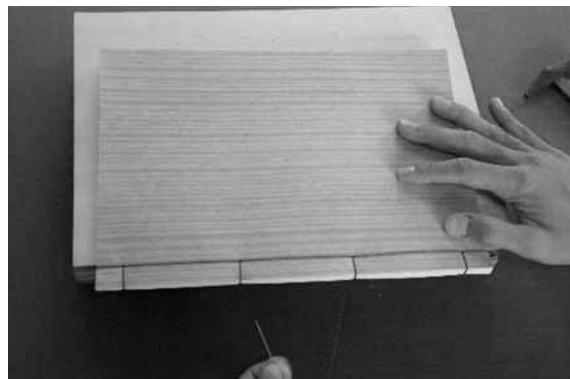
10



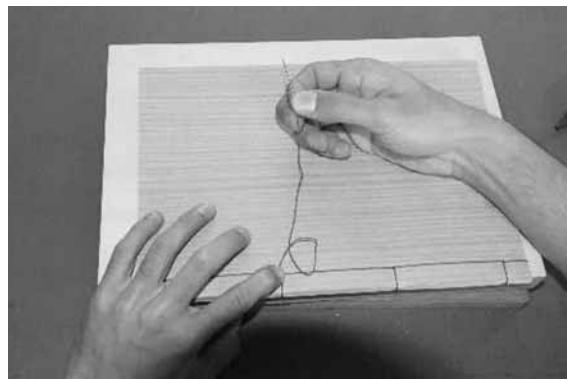
11 冊子を裏返し天の部分の背から回し針を通す。



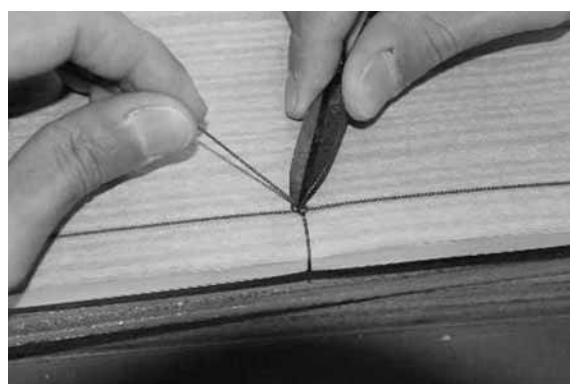
12 天の部分から糸を回し、引き抜く。



11 裏返して最後の穴に針を通す。



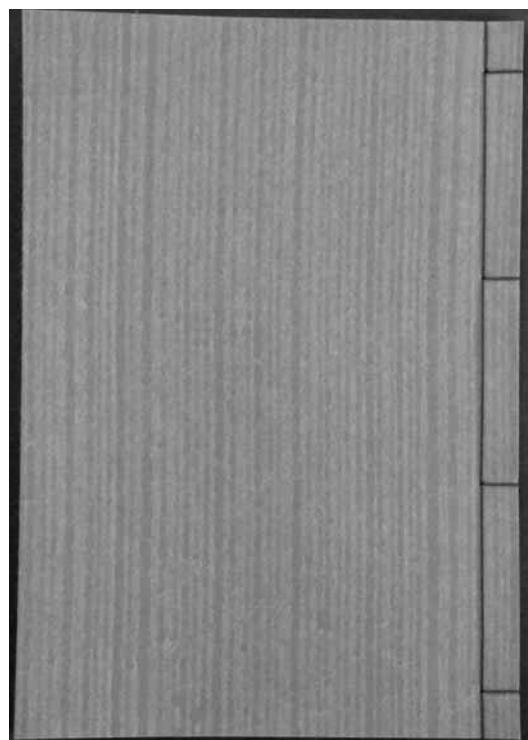
12 更に裏返し、針を一重結びに通し固く結ぶ。



13 結び終えた後、余分な糸を切る。



14 キリに糊を付け、穴に押し込んで完成。



植物標本をつくろう



博物館体験学習教室「植物標本をつくろう」の講師を紹介します。日越國昭（ひこくにあき）先生は、沖縄立博物館の自然史担当の宇芸員と、植物や天然記念物を担当する職員として、多くの野外調査にかかわってこられました。また、石川少年自然の家では、所長としてお勤めになり、たくさんの児童生徒に沖縄の自然に親しんでもらうためにいろいろ取り組みました。現在は退職されていますが、沖縄県立博物館では、自然史のコーナーに展示されている標本をはじめ、末吉公園の植物標本を作成されています。



もうお1人は、新城和治（しんじょうかずはる）先生です。先生は、植物分類の専門家で、琉球大学教授として、理科教育や植物学を指導されてこられました。沖縄の多くの地域で野外調査を実施されており、琉球の自然史にもごくわいしい先生です。沖縄文化財保護への貢献により2001年度沖縄の県文化功労者として表彰されています。新城先生には、館の屋外展示として末吉の森の植物を種え付ける際に、何がよいか選んでいただきました。博物館の庭の植物も後で必ず観察してください。

今回の「植物標本をつくろう」という講座では、身近な沖縄の植物に興味をもつことと、標本作りを通して、整理や保存の方法を学ぶことを目的とした講座です。公團を管理している事務所にお願いして採集が出来る様になりました。今回採集させていただく植物はすべて生命あるものです。最小限必要な範囲で採集してください。また、危険なものとして注意してください。二つめは、「かぶれる」植物です。三つ目は、口に入れてはいけない植物です。それ講師の先生をはじめとする職員の注意を守って活動してください。

期日 平成20年7月20日（日）・8月17日（日）
時間 20日前9時半～午後3時半 17日前9時半～12時
場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

博物館体験学習教室第三回講座
「植物標本をつくろう」実施計画

1 目 的 (1) 身近な植物の観察とその採集を通して、郷土の自然に対する興味関心を持つ。
 (2) 採集した植物を研究するための標本作りと整理・保存の方法を体験する。

2 日 時 (1) 平成20年7月20日 (日) 9:00~12:00 13:30~15:30
 (2) 平成20年8月17日 (日) 9:00~12:00

3 講 師

日越國昭 先生 (元石川少年自然の家所長) 新城和治 先生 (元筑波大教授)

4 対象者

小学校3年生以上の親子

5 募集人員

20名 (多数の場合は抽選)

6 日 程 1

(7月20日)

受付	始めの言葉	9:00
開講式	講師紹介	9:15
班編成	日越班と新城班に分ける	9:45
調査・採集	講師先導のもと調査をしながら採集する	10:00
移動・昼食	講師によるまとめ	11:50
博物館集合		12:00
午後講座	始めの言葉	1:40
	作業説明及び作業	2:45
	片づけ	3:20
	講師によるまとめ	3:30
初回日程終了		3:35

日 程 2 (8月17日)

受付	始めの言葉	9:00
開講式	作業説明及び作業	9:10
標本製作	片づけ	9:15
	講師によるまとめ	11:30
	記念撮影	11:45
終了	運営者まとめ	11:55

7 準備

博物館で準備するもの	受講生が準備するもの	※あると便利
救急箱	長袖の上着	虫眼鏡
扩声器	帽子(つば付)	カメラ
説明資料	運動靴	図鑑(はがきサイズ)
ビニール袋	剪定ばさみ	⑤シダ植物の場合は、胞子のうぐいのついた葉を、胞子葉と普通葉が別になっているものでは両方必ず採集します。また、地中にある地下茎まで採集するようになります。
ビニールひも	水筒	⑥採集した植物は、できるだけ早く標本にします。
新聞紙	雨具	※採集袋はしっかりと閉めて、植物がしおれないようにします。
セロハンテープ	筆記用具	

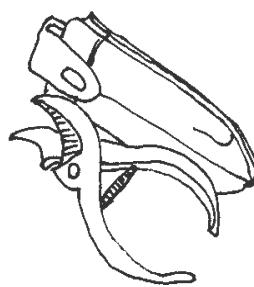
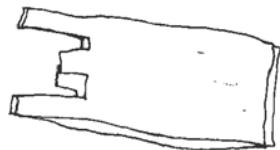
I. 植物のおし葉標本

植物のおし葉標本作りは、1. 採集する、2. おし葉をつくる、3. 台紙に貼る、の3階からなります。

1. 植物を採集する

(1) 用意するもの

- ①せん定ばさみ：木の枝を切ったり、太い根や茎を半分に分けたりするのに使います。
- ②採集袋：採集した植物を入れるために、大きなビニールを準備します。



(2) 植物の採り方

- ①標本はたくさん生えている同じ種類の中から、選んで採集します。
- ②植物の名前を調べるためにには、多くの場合、葉のほかに花や果実が必要です。
- ③草の場合も根からでいいのに採集し、土を落とします。
- ④樹木の場合には、はさみ紙の大きさ(新聞紙の1/4)を考慮して枝を切って袋に入れます。
- ※これやすい花や果実の場合は、小さなビニールに入れて採集袋に入れます。

- ⑤シダ植物の場合は、胞子のうぐいのついた葉を、胞子葉と普通葉が別になっているものでは両方必ず採集します。また、地中にある地下茎まで採集するようになります。
- ⑥採集した植物は、できるだけ早く標本にします。
- ※採集袋はしっかりと閉めて、植物がしおれないようにします。

2. おし葉をつくる

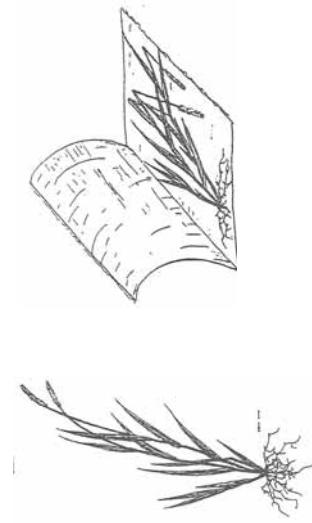
(1) 用意するもの

- ①押し板：ダンボールを使います。参考例をもとに自分で作成してください。
- ②はさみ紙：古新聞を使います。
- ③ひも：ひも・ビニールひも・ゴムひもなどを使います。



(2) はさみ紙にはさむ

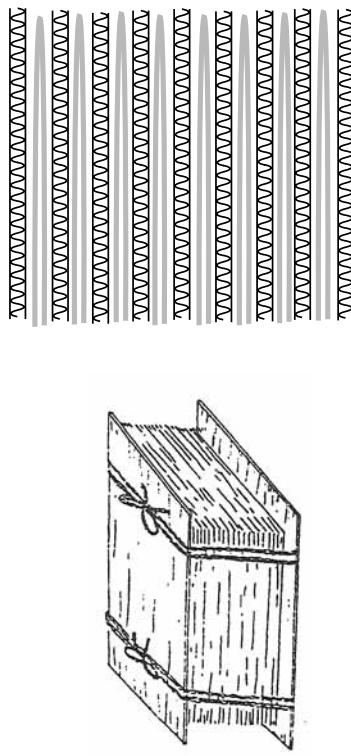
- ①一枚のはさみ紙には一種類のみとします。小さい種類の植物なら大中小いっしょにはさむことができます。



(5) 太い茎や根は、半分にさくと早くかわきます。

※茎の太いや大きな美がある場合は、そこに標本が集まりやすいので、別の新聞紙で高さを調整します。

(6) 押し板とはさみ紙を交互にして、ビニールひもでしばります。



(3) はさみ紙を取り替える

①一晩おくと植物の水分がはさみ紙に移って紙が湿つてくるので、紙を取り替えます。

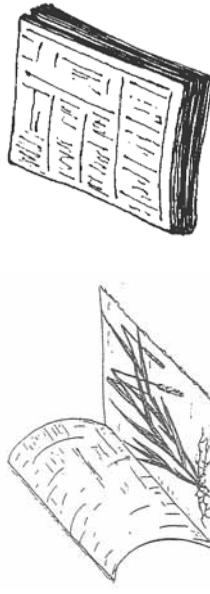
②葉の折れているところがあれば、整えて新しいはさみ紙でおさえます。

③次の講座までの間とりかえ作業を続けて下さい。

※最初の2週間は、毎日はさみ紙を取り替えます。

※取り換えることをおこなうと植物にカビが発生しますので注意しましょう。

※種類によっては、乾くと変色します。(失敗と思って捨ててしまわないようにします。)



②紙からはみ出す植物は、V字やW字の形に折り曲げてはさみます。

※特に大きなものは植物を分割して、記号をつけて保存することができます。

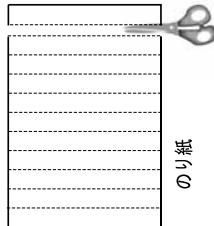
③茎の中空洞となっているものは、斜めに切ったり、数センチ縦に切ってはさみます。

④はさんだ植物は、葉の折れている部分をのばし、葉の裏表が観察できるように整えます。

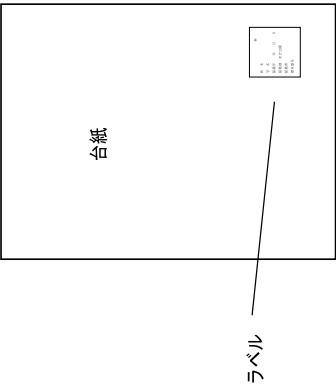
3. 合紙に貼り付ける

(1) 用意するもの

- ①標本台紙：A3判程度の、でこぼこの少ない紙（ケント紙など）を使います。
- ②ラベル：縦10cm横1.2cm程度の紙に、採集場所、採集年月日、採集者氏名、その他の事項を「ラベルの書き方」の注意に従って記入します。
- ③のり紙：ふつうの上質紙に、水で濃くといたアラビアゴムを筆で塗つて乾かしたものを使います。今回は、アラビックヤマトという糊を使用します。
- ※セロハンテープやビニールテープは、まわりを汚したり何年かするとはがれてしまうので、使用しません。
- ④糸と針：茎や枝が太い場合の固定用に、木綿糸を二重にして使用します。
- ⑤ピンセット：のり紙で細い枝などを貼る時に、補助的に使います。
- ⑥ペラフィン紙：乾燥して落ちた花や果実を包みます。



のり紙



ラベル

- (2) 標本を貼る
①ラベルを台紙の右下すみに貼ります。
②乾いたおし葉をのせ、ピンセットなどを使いつながら、要所をのり紙で止めます。
※のり紙が浮かないように注意しましょう。

- ③太い枝や茎は、糸と針を使って固定します。

- ④乾燥させている間に落ちた花や果実は、パラフィン紙に包んで台紙に貼ります。
※ちいさな葉が大量に落ちてしまったら、封筒に入れて台紙に貼ります。



II . 標本の整理

ある植物がどこに生育していたかは、正確な情報が記されたラベルのある標本が根拠となります。そのため、標本には必ず正確なラベルをつけるようにしましょう。

ラベルの書き方

1. 項目

- (1) ラベルに必ず記入する基本項目は、採集年月日・採集場所・採集者の三つです。

※基本項目が記入されないと、標本の学術的な価値がなくなります。

- (2) ラベルには基本項目のほかに、科名、和名、学名、標本番号などを記入します。

科名	和名	年	月	日
採集地	未吉公園	採集年	採集者	
標本番号	備考	ラベルの例		

(3) 採集年月日は西暦で記入します。

(4) 採集地は、できるだけくわしく記入します。

- (5) 標本番号は、古いものから順に数字で示すか、科ごとにまとめて整理する方法もあります。植物のグループ（例えば「種子植物」「シダ植物」など）ごとに記号をつけ、記号と番号の組み合いであります。

※複数の標本に同じ番号をつけてはいけません。

- (6) 備考は、方言名・花の色、在来か外来、などを記入します。

2. 標本の整理・保管

- (1) 標本は、永久に保存できるようになります。

- (2) 標本は、大切に保管すればいつまでもその価値を失いません、むしろその植物が見られなくなったりした場合、大変貴重なものになります。

- (3) 丁寧につくった標本を、乾燥剤・防腐剤を入れた箱に保管するようになります。

- (4) 標本が増えてても一見してどのような標本があるか、わかりやすくするために標本目録を作成することもあります。

体験学習教室 活動資料④

日程（講座プログラム進行表）

教師のための博物館講座 実施要項

1. 目的

沖縄県立博物館・美術館は、昨年度開館し、今年度も県内外の学校団体が、博物館を活用する際の学習等の支援を実施しています。博物館のもつ知的財産を、児童・生徒に効果的に提供するためには、教師の博物館理解を元にした、博物館学習プログラムが必要となります。そこで、本講座では、新館施設・運営体制、展示資料等について講話や展示解説を通して理解するとともに、学習プログラムや学校に適合したワークシート作成を行うことによって、今後の利用計画の立て方を学ぶ機会とする。

2. 主催

沖縄県立博物館・美術館 博物館班

3. 講座日

小学校	平成20年 7月23日 (水)
小学校	平成20年 7月24日 (木)
中学校	平成20年 7月29日 (火)
高等学校	平成20年 7月30日 (水)

4. 時間 9：30～15：30 ※詳細別紙の通り

5. 会場 沖縄県立博物館・美術館 住所：那覇市おもろまち3丁目1番1号

6. 内容

- ①施設見学・展示資料観覧
- ②博物館活動の概要説明
- ③博物館学習プログラム作成・ワークシート作成

7. 対象

- ①沖縄県内の小学校・中学校・高等学校の教職員 各校種定員40名
- ②小学校については希望者が多い場合は、二日に分けて実施する。
- ③各学校2名以内とする。

時間	内 容	答 担	内 容	場 所
9:15	受付	安元・宮平		講座室
9:30	挨拶	山根副館長		
9:45	博物館概要	森尾 赤嶺	新館施設全般 指定管理者	講座室
10:15	施設見学・常設	各分野担当	総合展示 各分野担当	展示室 部門展示
12:00	昼 食	宮平・赤嶺	講堂等の施設案内	
13:00	博物館における 教育普及活動	赤嶺	受付から下見	講座室
13:50	「学習プログラム」 「博物館学習ノート」	赤嶺	フリーパス 観覧	これまでの博物館学習状況 講座室
14:30	実習	赤嶺・宮平	学習プログラム作成	講座室
15:30	連絡	赤嶺	ワークシート作成	

印をつくろう

講

講師紹介及びあいさつ

前田 賢二

平成 20 年度 第五回博物館体験学習教室『印をつくろう』の講師を紹介します。今回の教室では、沖縄の歴史をふまえた印を制作します。昔に使われていた印について理解を深めるため、収蔵資料の摹刻（もこく）をとおして学習します。前田先生は、書の分野の中でも、印を制作する篆刻（てんこく）の分野で活躍されています。皆さんご存知の「沖展」では会員・審査員として活動し、準会員賞 2 回、沖展賞・奨励賞 2 回など入賞・入選の経験があります。また、県外の「諸先書法会」や「西部朝日書道展」、「蘭亭書道展」（らんていしょどうてん）他において役員として携わりながら多くの入賞を果たしており、篆刻を通した書文化の普及に大きく貢献されています。今回の博物館体験学習教室では、印についての理解を、体験学習の中から深めることにより、博物館に展示されている実物資料や「ふれあい体験室」に展示されている「印かんてなあに」に興味を持つ頂きたいと考えております。さらに、印を通して沖縄の歴史・文化に関心を深めて頂けたらうれしく思います。



期日：平成 20 年 9 月 21 日・10 月 19 日（日）
時間：午前 9 時～12 時
場所：博物館実習室

博物館体験学習教室第四回講座
「印をつくろう」実施計画

1 目的

(1) 印の制作を通して、沖縄の歴史、文化に関心を持つ。
(2) 印の歴史や文字等の基本的な知識技能を身につける。

2 日 時 (1) 平成20年9月21日 (日) 9:00～12:00
(2) 平成20年10月19日 (日) 9:00～12:00

3 講師

前田 賢二 (准号 牽牛)

先生 (書家)

4 対象者

小学校高学年以上 一般

5 募集人員

30名 (多数の場合は抽選)

6 日 程 1 (9月21日)

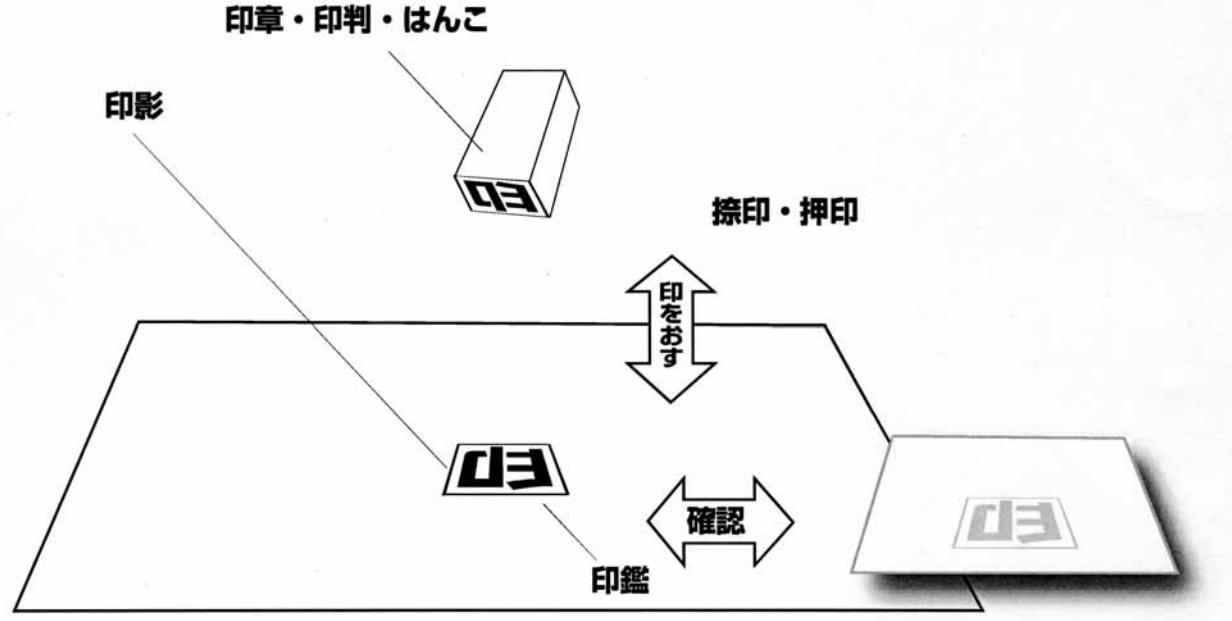
受付	9:00	9:15
開講式	始めの言葉 司会 (赤嶺)	
講師紹介		
講師挨拶		
作業説明	作業説明	
時間配分	(安元)	
転写		
途中経過 I	(安元)	
字形を調整		
途中経過 II	(安元)	
影りはじめ		
本日のまとめ		
片づけ指示		

日 程 2 (10月19日)

受付	9:00	9:10
開講式	始めの言葉	
影りの確認		
押印		
修正影り		
仕上げ		
終了	運営者まとめ	11:55

7 準備

博物館で準備するもの	
印材 (青田石)	篆書辞典
印刀	印台
サンドペーパー	ブラシ
筆	印鉢 (いんばく)
墨・朱墨	印泥 (朱肉)
硯	鏡



①中国の印の始まりは、古代オリエントよりやや遅れて、3,300年以前からはじまるといわれています。印の素材は銅で、鋳型に流し込む方法でつくられ、古代オリエントと同じように封泥（ふうでい）という鍵の用途を持つた印でスタートします。木や竹に書かれた文字板を並べて紐をかけてくくり、結び目を粘土で押さえて印を捺（お）して封をしました。紐の粘土が壊れていなければ、最後に確認したのが印を押した本人であることが分かるようになっていました。

②社会制度が整理されると、印の役割も決められるようになります。春秋・戦国時代（紀元前770年?紀元前221年）ごろには、共同体に力を持つ者が現れ、力を持つもの同士が興亡（こうぼう）を繰り返していきます。この時期になるとさまざまな場面で自分の所有物や役割、義務などを表すために、しるしが重要な役割を果たすようになります。

また、秦の時代には、始皇帝が全國統一を成し遂げ、社会の仕組みが整えられるとともに、印の制度も統一されて行きます。役人の位によって印の材料や大きさ、文字などを見細かく決めました。秦代より以前は印のことを「印」（じ）といいましたが、皇帝が使う印を「璽」（じ）、下臣が使うものを「印」と呼ぶようになりました。

さらには漢の時代には、官職制度（かんしょくせいど）がさらに整備され、印の制度も材質・大きさ・つまりに当たる鉢（チュウ）の形にもランク分けがあり、龜や魚、駿駒（らくだ）が施用されました。また鉢を通す紙の色や素材にも、位による違いが定められるようになりました。

しかし、この時代もまだ紙が発明されていなかったので、木簡・竹簡が記録用に用いられ、それをくるくる泥封のために印が使われていました。

（2）王国の公印

琉球王国の印は、誰がどのように作ったかはよく分かっていません。しかし、公印としての「首里之印」や「国学之印」などが残っていることから、印を制作する役所があつたと思われます。琉球の国をさめる制度ができて、役人を任命したり王府が認めたことを証明するため印が使われる様になり、現在に印影や印章がのこされています。

①「首里之印」

王府が差給あるいは認可した正式の公文書・家譜であることを証明する際に用いられた印そのものは現在していません。印影としては、田名家文書の「渡ビン船宝丸の官舎職補任辞令書」（1523年）が最も古いもので、「首里之印」が尚真王の時代以降に登場したといわれています。琉球王国が統一され中央集権の体制が整った時期から、使われるようになつたと考えられています。「首里之印」は、県の行った調査によると、草刻が10点あることが分かります。しかし、これらの「首里之印」を琉球で作つたか、中国で作つたかは、はつきり分かっていません。

沖縄の印は、（1）中国から授かった印（2）王国の公印（3）書跡や絵画の印（4）印刻師による印の四つに大きく分けることができます。

（1）中国から授かった印

沖縄の歴史の中で印が登場するのは、14世紀になってからで、中国との冊封関係に由来するものです。冊封は、先進国であった中国の皇帝に従うことを求めることです。明の国ができると近くの国に使いを出し、中国に従うように求めました。それぞれの国が同意する上、中国はその国の国王を認め、入国を許し、人々の往来を認めました。冊封を認めた際に授けるものの中に印がありました。このような印は、中国へ送付する公式文書に使われました。

①洪武 16年（1383）中山王 鎏金銀印（ときんぎんいん）『琉球國中山王之印』

↓
②洪武 18年 南山、鎔金銀印『琉球國南山王之印』
③同年 北山、鎔金銀印『琉球國北山王之印』

焼失（1453年）

④鎔金銀印再授受 1453年 『琉球王国之印』か

↓

⑤清王朝の命により改印 1654年 『琉球國王之印』

↓

⑥清朝の印制度改革 1756年『琉球國王之印』

②「国学之印」

この印章は、沖縄県立博物館に所蔵されており、現在常設展示室に展示されています。
板(シダ)という木でつくられた印であるとされています。
す。国学は琉球王国時代最高の学府(学校)であり、現在の首里高校のある場所に
1798年に設立、翌年当歳さらには1801年に移転したとされています。その際に
に「国学」と称するようになつたため、この資料の制作年は、1801年とされています。

(3) 書跡や絵画の印

この印章は、約半分が欠けますが、現在常設展示室に展示されています。専属焼け
跡から昭和22年2月に掘り出され、博物館に収蔵されました。欠落した文字の判読は、
戦後沖縄を代表する書家の謝花景石によって行われました。この四文字は、尚温王に代
わったとき、中国皇帝からおくるられたものです。紙に書かれた皇帝直筆の文字が、海を
渡り琉球で「額」にしあげられました。しかし、額装の「海表恭譜」は、どのような形
であつたかは分かりません。この印章は、額字を大いに喜んだ尚温王が、中国に発
注し制作させたものといわれています。

(3) 書跡や絵画の印

沖縄には、王国時代に中國との関係の中から、中國より贈られた書跡が多く残っています。
また、明・清時代の中國に伝師や役人が留学しており、印についても、多くの影
響を受けたと考えられます。その当時の中國の文人の間で篆刻が、詩・書・画とともに
いたしなむべき芸術の一分野として確立されました。文人は自らが、印を制作すること
が必要となっていました。
さらに琉球を訪れた使者の中には、王文治(おうぶんじ)をはじめとして、当時の
中国の第一級の書家として認められた人も多く含まれています。
留学をして直接指導を受けたり、印影を目の当たりにする機会の多い琉球では、書家
や絵師も自ら趣向を凝らした印を制作したものと思われます。琉球の絵師の家譜の中に
は、中国から印材を仕入れてきたとの記録ものこされています。
博物館に残る鄭嘉訓(ていいかくくん)の印を集めました印譜(いんぶ)の中には、32種
類の印が捺されています。

(4) 印刻師の印

那覇市史 民俗編 生業(なりわい)の項目に、印刻師(いんこくし)という
職業が登場します。この調査が行われた時期から考へると、明治期から昭和初期
にかけて、印を制作する印刻師といいう生業が登場していることが分かります。
沖縄に産する木材(シダ)、牛の角、石、象牙(ぞうげ)を素材にして作られま
した。王国時代に、庶民がこのような印を必要としたことは思われず、おそらく
商業が発達をはじめると、印の需要が出てきたのではないかと思われま
す。

印の種類

1. 白文印(陰刻印)……印を鋳印すると文字が白抜きになる
2. 朱文印(陽刻印)……印を鋳印すると文字が朱で表れる
3. 朱白文相間印……印の中に朱文、白文が相対する

資料 1

印の形式

1. 姓名印……本名を刻った印 名のみの場合もある
2. 字号印……字と雅号のこと
3. 堂号印……自分の住居、書斎などにつけた趣味深い名前のこと
(例)・庵亭軒室堂閣院莊山房など
4. 引首印(關防印)……書幅の右肩に捺す(長方形)
5. 成語印……古今の詩句名言を刻る
6. 収藏印(藏書印)……書画骨董や書物の所蔵を明らかにする
7. 住址印……住所印
8. 肖形印(肖生印)……人物、鳥獸などを刻したもの
9. 干支印……十干と十二支からなる

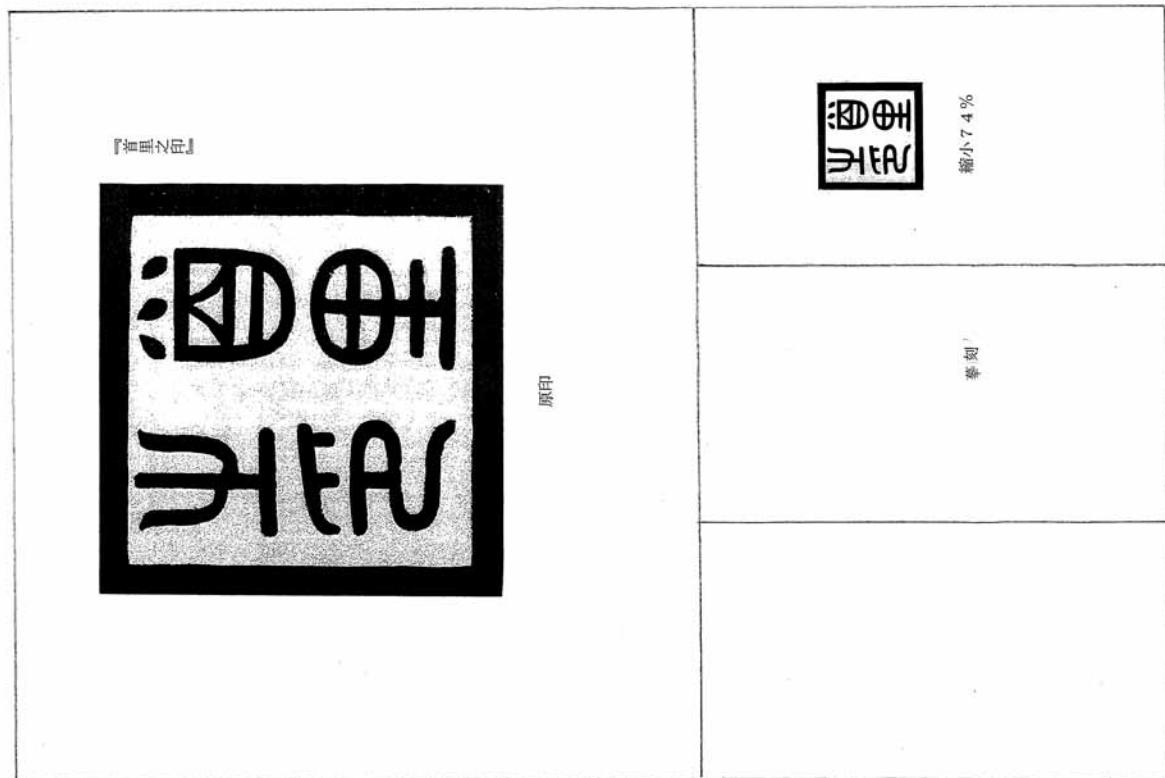
資料 2

いろいろな篆書

1. 甲骨文……3000年以前、殷の時代に使われた最古の文字
2. 金文……殷、周の時代の青銅器に刻られ、鋳込まれた文字
3. 聖文……2,300~2,400年ほど前に使われた文字
4. 小篆……2,200年ほど前に秦の始皇帝が制定した文字
5. 印篆……漢の時代に印の制度が整備された時に使われた文字

篆刻に必要な用具

1. 印刀……印を刻る刀(鎌筆)
2. 印材……印を刻る材料(石印材、木、竹根、陶磁など)
3. 筆……印を刻る筆(印稿づくり、布字=字入れ)
4. 墨……墨のもの(墨、朱墨)
5. 砥……砥(ひ)、二面硯など
6. 印泥……書画、篆刻用の朱肉
7. 印床……印材を固定する台
8. 印箋……印を捺して印影を保存する紙
9. 印矩……印を捺す時に位置を決める
10. 印擣……印を捺す際の下敷き(ガラス板、ゴム板など)



- 1.1. 耐水ペーパー···印面を整えたり、印材を磨く #200 #400 #800 #1500
- 1.2. 手鏡···印模を見ながら印面に逆字を書き入れる
- 1.3. ブラシ···印面の粉をはらう
- 1.4. ガラス板···印面を平らにする
- 1.5. ポロ布···印面の汚れを拭き取る
- 1.6. ハガキ···印模をつくる
- 1.7. 字典···篆刻字典 篆刻字林 漢字大字典など
辞典···四文字熟語辞典など

篆刻の手順

1. 印面の調整···耐水ペーパーを使い印面を平らにする
2. 選文···姓名 雅号 熟語など題材を決める
3. 検字···文字の形、意味を字典で調べる
4. 印模の作成···印の設計図（白文印 朱文印 朱白相間印）
5. 行字···印面に逆に字入れをする
6. 刻印···印刀で刻りこむ
7. 鈴印···印泥をつけて紙に捺す
8. 補刀···印影を見て刻り残しの除去、補正など
9. 側款···印の側面（左側）に作者名、製作年月日などを刻る

※額装・印譜集などで印影を鑑賞する

『海表恭謹』



原印



縮小76%

摹刻

『國學之印』



原印



縮小3.4%

摹刻

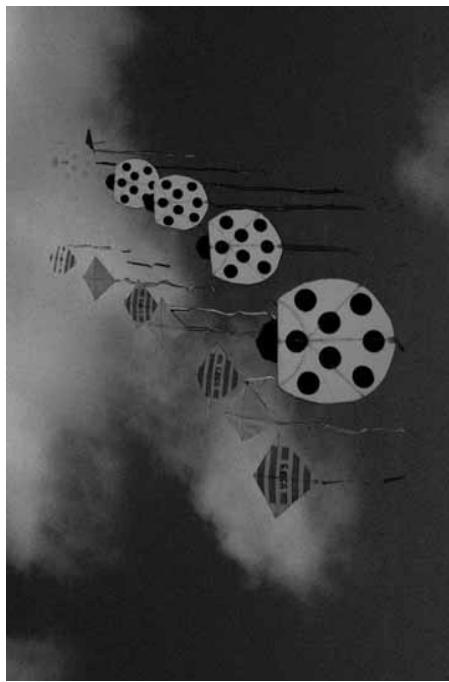
上運天 研成（賢盛）先生 ピノキオ（おもちゃづくりの会）会長

平成20年度

博物館体験学習教室

第6回講座

連鳳をつくろう



期日 :	平成20年	11月 16日 (日)
		12月 21日 (日)
時間 :	AM 9:00	~ PM 0:30
場所 :	沖縄県立博物館	実習室

博物館体験学習教室「連鳳をつくろう」の講師を紹介します。

名前を上運天 研成（賢盛）（かみうんてん けんせい）といいます。先生は、葉っぱを使ったおもちゃや木の実を材料にしたおもちゃづくり、竹を材料にしたおもちゃづくり、カーブヤー風などの研究やいろいろなおもちゃの製作活動をしながら、子どもたちとの触れ合いを大切にした玩具づくりの伝承活動を精力的に頑張っておられます。自然が大好きな先生には、これまでも博物館の体験教室で御世話になりました。今回の講座は、「連鳳をつくろう」です。今日と12月21日の二日間で、二種類の連鳳を制作する予定となっています。

沖縄の鳳は、琉球王国時代にもありましたが、今回は、英國に起源があるとされる「連鳳」に挑戦します。自然を相手に遊ぶ鳳はどのような仕掛けで揚がるのでしょうか。作りながらその秘密を探りだして下さい。さらに絵付けを工夫することによって変化に富んだ表情が生まれてくると思います。

今回の体験学習教室の中で、自然の材料を生かしながら、豊かな知恵を働かせてきた昔ながらの「おもちゃ」にも興味を持つてもらえたなら嬉しく思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の自然や歴史、伝統文化を学ぶきっかけとなることを願っています。

博物館 体験学習教室 「連帆をつくる」実施計画

1 目 的
博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時
平成20年11月16日(日) 9:00 ~ 12:00

平成20年12月21日(日) 9:00 ~ 12:00

3 対象者
親子・一般

4 講師
20名(多数の場合は抽選)

5 日 程
受付 9:00 ~ 9:15
開講式 9:15 ~ 9:30
始めの言葉……司会(中村)
講師紹介……教育普及担当(赤嶺)

講 座
•内容説明(上連天)
•製作作業 9:30 ~ 9:45
12:00 ~ 12:15
後片づけ 9:45 ~ 12:00

•初回の講座後は、次回の連絡
•二回目の講座は、晴天であれば公園にて風揚げ実施予定

開 講 式
始めの言葉……司会(中村)
運営責任者挨拶 (文化の杜:福島)
終わりの言葉……司会 12:15 ~ 12:30

6 講 師
上連天 研成(賢盛)先生 ピノキオ(おもちゃづくりの会)会長

1 風について

風は、竹などで作った骨組み(骨材)に、紙や布(翼面材)を貼り、糸を取り付けて、風を利用して空高く揚げるモノです。風に使われる素材は、骨材に木や竹、翼面材に「木の葉」や「布」、「紙」が使われていましたが、現在では堅くて丈夫なビニールやプラスチックなども多く使われるようになっています。しかし、表面的な形や色は変化しても、風という自然現象を利用してモノを空へと上昇させ、一定の時間空中に維持させるという意味では、原理としては変化していないと言えるでしょう。

現代の私たちに身近な風は、オモチャ屋で販売されている「遊び道具」としての風で、それを購入して、揚げて楽しむことが一般的な目的です。ところが、古代の人たちも今と同じ「遊び」を目的として風揚げを楽しんでいたかどうかについては、記録として残っているもののが少ないために詳しいことは分かっていません。



2 世界の風

風は世界各地でつくられており、風のない地域がないといわれるのはどう発達をみせました。中でもアジアでは、早くから風がつくられていたといわれ、世界各国に広がった風の原型があるとされています。昔の人たちは、風を恐れ、敬(うやま)つたりする心から、風の神の意志を確認する物として風が揚げられていたと考える人もいます。その後風は、魚釣りや距離の測定、時には兵器としても使われるようになりました。中国では、紙が発明されて以降、その利用により風が大きく発展したことから、ほかの国々に大きな影響を与えたとされています。

今回制作する「連帆」は、1749年(英)スコットランドのグラスゴー大学の神学生アレキサンダー・ネルソンとトマス・メルビルの二人によって揚げられたダイヤ型の風が始まりといわれています。

3 中国の風

中国の風には古い歴史があり、漢時代や春秋時代には軍事的な目的のために利用されました。この時代の風は木製で「木轡(もくえん)」と呼ばれるものでした。紙が普及してからは、竹と糸を組み合わせて、軽量な風を作りました。中国では風の強い北部地域と比較的風の弱い南部では、別々の発達をしたといわれ、北部で発達したものを「硬翼」南部では「軟翼」と呼びました。

4 日本の風

①日本の風の歴史
風が日本に伝わってきたのは、9世紀ごろといわれ歴史書には「紙轡(いかのぼり)」という記録が出てきます。これは当時の中国で作っていた紙製の鳥形風の影響を受けたもので、韓国を通して日本へ伝えられたと考えられています。一方で、東南アジアから伝播されたという説もあり、日本の風に様々な形がみられるのは、

両地域からの影響がそれぞれにあつたからであるとも考えられています。その中にあって沖縄は、日本・中国・東南アジアから、それぞれに違う風の影響がもたらされる可能性のある地域と考えられます。

②風のなまえ

風の名前は、中国の古い文献では「鳥」との間わりのある名前で記録されたり、東南アジアでは、現在でも木の葉を利用した漁具としての風があることから、マレーシアの「カオロン」(木の葉製の風)など、それぞれにちなんだ名前で呼ばれていたと考えられます。

日本の平安時代の記録には「いかのぼり」と風を表現したもののが残っていることから、古くは「イカ」と呼ばれていたようです。いつから「タコ」と呼ばれるようになったかなど、風の名前の由来もあり詳しいことが分かっています。一つの説として、江戸時代の明暦元年と二年に連続して公布された「紙鷹(いかのぼり)ヲモテアソビ事禁」とあるが翌年には「タコノボリ堅クアダサセ申用敷…」との記録をとらえて「イカ」が「タコ」へと 1650 年代に、江戸で変化したといいうものがあります。江戸幕府の影響の強い東日本ではタコと呼ばれ、西日本では現在も「イカ」と呼んでいる地域もあるのは、そのためだとされています。風のなまえには、その他にも「ハタ」「タカ」「トビ」などがあります。

5 沖縄の風

①どこから伝わったか

沖縄の風は、どこから伝わってきたかということは、よく分かっていません。しかし、中国や日本、東南アジアとの関係を考えると、それぞれの地域からの影響を受けた可能性があり様々な形の風文化を、沖縄なりにとらえて発展させたと考えられます。中国語の会話を学習する際に使われたことされる、「官話問答便語全訳」によると、中国（福州）での風習としての風揚げは、「①時期：日暦 7 月?日暦 9 月頃 ②目的：娛樂に近いもの。③形：形は不明（風に明かりをつけて揚げることがある）」という記録が残されています。このような当時の中国の風揚げが、沖縄にどのように影響を与えてかは、よく分かっていません。沖縄の風は、日本本土の風が、江戸時代から子供のために行事であったり、豊作祈願、豊作祈願であるのに対し、沖縄では明治ごろまで土族の行う、季節の行事として行われていたところに特徴があります。

中でも八重山は、多くの種類の風が現代にまで伝わっている地域で、古くから伝わる風の種類でも 20 種類近くあるといわれています。

②記録に残る風

沖縄に風があつたことを示す最も古い確実な記録は、1800 年に中国から来た冊封副使・李鼎元の『使琉球記』に書かれたものです。当時の沖縄の様々な風物を記録した旧暦九月一日の記事の中に「この日、初めて紙鷹を見た。…」と出ています。当時の中国では、紙鷹(しえん)を清明祭（シーミー）に揚げるなら習わしがありました。中国（中国）と沖縄を比較して、この時期に揚がるのは違和感があると書きながら、「風の具合が中国と違うのであれば、それは考慮するべき」と述べています。

那覇市史・民俗編には、「那覇の風揚げ」は、旧暦九月九日の菊酒の日に若狭町の丘陵や海岸近くの丘で行われたこととの聞き取り調査がされています。これらの記録から、那覇の近くでは、旧暦の 9 月 ミニーニ（北東季節風）の吹き出す時期に揚げられていたことがあります。また、明治 14 年 1 月 21 日発行の東京日日新聞によると「沖縄で大阪商人の輸送した紙鷹が、從来なかつたモノとして珍重され、子供から大人まで流行。」との記事があります。このことから鹿瀬置県直後の沖縄に日本本土から新しい風が持ち込まれたことが分かります。さらに、久米島町『仲里村誌』では、立冬の「種子取り」の行事として風揚げが行われ、同町『西銘誌』では、四月のアブシバレーという行事で風揚げが行われるなど、同じ島でも、地域によっては、風上げの時期も違つてきました。

③記録から考えられること

7. 時期

このような記録から、沖縄では 18 世紀末には、旧暦 9 月頃那覇を中心に戸籍簿が揚げられていたことが分かります。地域によってはそれ以外の時期に地域の行事に風揚げが行われています。王国時代に那覇で 9 月 ごろ行われていたものが、地域に伝わるうちに季節の地域行事で行われるようになつたようです。また、明治になって本土から送られてきた珍しい風が、新暦の 1 月頃揚げられています。本土の風習として取り入れられたと思われます。

4. 目的

沖縄の風揚げは、どのような目的で行われてきたかを、これだけの記録から判断することは難しいのですが、風揚げが、江戸時代の本土一般の子供の娛樂といつより、地域の季節の行事に密着している様子がうかがえます。日本の神話の中には、船が出港する前に航行に重要な意味を持つ「風」の様子を占うものとして、風が揚げられたというものがあります。現在のように、子供の正月の娛樂としても多くの可能性があります。現在のように、寄留商人の持ち込んだ本土の風とともに広がったとされています。昭和初期までは、首里・那覇の土族・商人、漁師町（村）の一部で娛樂として揚げられたと考えられます。現在のような子供を中心とした娛樂としての風揚げが全県下に広がるのは、経済的な理由からも本土復帰のこととされています。

5. 形状

沖縄にはそれぞれの島に、個性豊かな形と色をした風が残っていますが、それらの風は、いつもごろ持ち込まれたかについてもよく分かっていません。しかし、各島々にはほぼ共通の形をした風が残されており、次に示す真麻・正方形風・風車の三種類の風は、伝統的な風の可能性が高いと思われます。それ以外の形状や多彩な色を多く用いるものについては、絵の具の顏料が比較的安価で手に入るようになる時期からと思われ、明治以降の風ではないかと考えられます。

6 沖縄の風の種類と方言名称 沖縄の代表的な風は、大きく三つに分類することができます。真風と呼ばれる格子状に骨組のなされたもの、弓矢のような骨組で正方形につくられたもの、飛翔している風をつかって遊ぶための風があります。

	真 風	正方形風	風 節
沖縄島	マッタクー	カーブヤー	フータン
宮 古	カビトイ	カーブヤー	ハビツ
八重山	ビキダー アヨー(長方形)	カブヤー	シャクシーメー
竹 富	キカクー	カブヤー	シャクズミ
黒 島	ビキダマ	ハブヤマ	シャクセーン

7 沖縄の風の特徴 (上運天氏聞き取り調査より)

①真風(マッタクー)

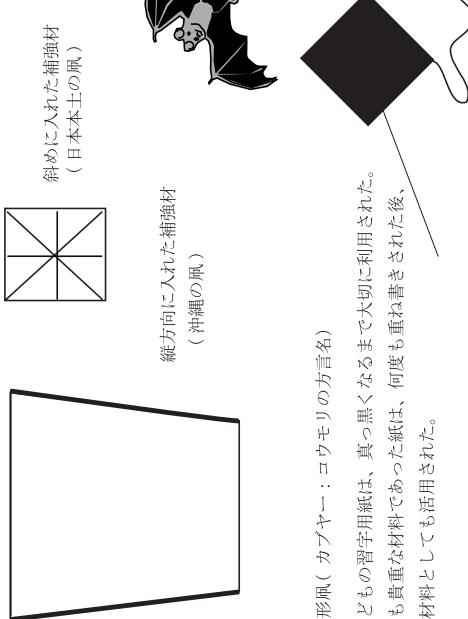
- ア. 横木鉢を側面からみたようになつており、台形の上底が長く下底が短い形をしている。(横木鉢を側面から見た時のような台形)
 イ. 風の補強のために両側面に骨材を加えるが、斜めにはいられない
 ウ. 明治以前までのマダコには、彩色を施さなかつた。
 エ. 石垣のビギダーは、骨数が多い。「重くても揚がる」風に価値を見出した。)

8 風揚げ技術の特徴 (上運天氏聞き取り調査による)

①風の糸目糸が短く、尻尾がY字型である。

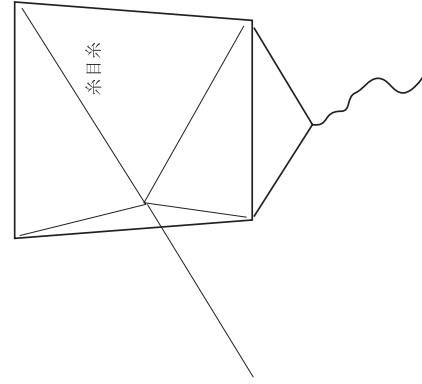
②風の本体と、糸をつなぐための糸目糸というが、沖縄の風では、本土のものと比較して毎く設定されている。糸のバランスがあまり良くない際には、Y字の尾の形を変形させながら調整する。

③尻尾の擺れを楽しむ。
 ※江戸風は、尾なしで揚げることに価値を求め、沖縄では尾の揺れる優雅さに価値を求めたと云われている。



②正方形風(カブヤー：コウモリの方言名)

子どもの習字用紙は、真っ黒くなるまで大切に利用された。とても貴重な材料であった紙は、何度も重ね書きされた後、風の材料としても活用された。



③風弾(フータン)
 風弾は蝶型でハベルフータンともよばれ、仕掛け風のアクセサリーである。聞いた風が風にのって上昇して、トッププレートに当たると羽を開じて手元に戻ってくる仕掛けになっている。紙片をフータンに取り付けておくことで、閉じると同時に紙片を上空で散らせることができ、遊びの要素を多様にすることができる。
 マレーシアやインドネシアの風弾は、沖縄以上に多種多様である。

④その他の風

古くからの風が残る沖縄でも特に八重山には、多くの種類の風が伝承されています。八角風、六角風、字風、セミ風、奴風、絵風などがある。また、与那国には東南アジアの影響を受けた、魚釣り風の形をしたもののがあったとする伝承もあります。

③風弾(フータン)

風弾は蝶型でハベルフータンともよばれ、仕掛け風のアクセサリーである。聞いた風が風にのって上昇して、トッププレートに当たると羽を開じて手元に戻ってくる仕掛けになっている。紙片をフータンに取り付けておくことで、閉じると同時に紙片を上空で散らせることができ、遊びの要素を多様にすることができる。

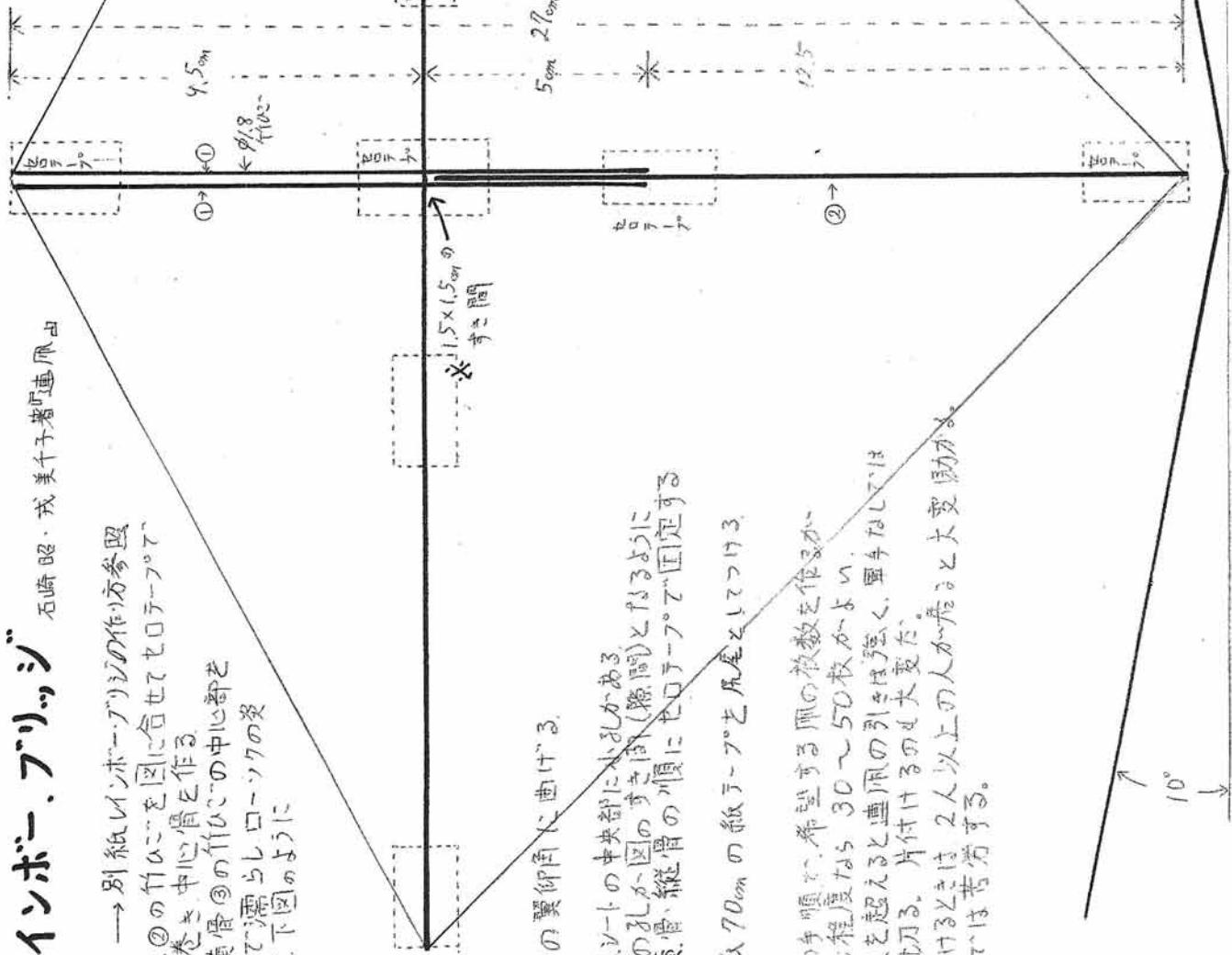
マレーシアやインドネシアの風弾は、沖縄以上に多種多様である。

Vインボーブリジ

石崎昭・成美千子著『連鳳山』

作り方 → 別紙レシピブリジの作り方参照

1. ①と②の竹ひごを図に合せてセロテープアフターナイフで巻き中心骨を作ります。
2. 横骨③の作りこみの中心部を水で濡らしローラーのように下図のようになります。



10°の翼脚間に曲げます。

3. 風シートの中央部に、孔がある。この孔から図のすき間(隙間)と並んで横骨、縦骨の位置にセロテープで固定する

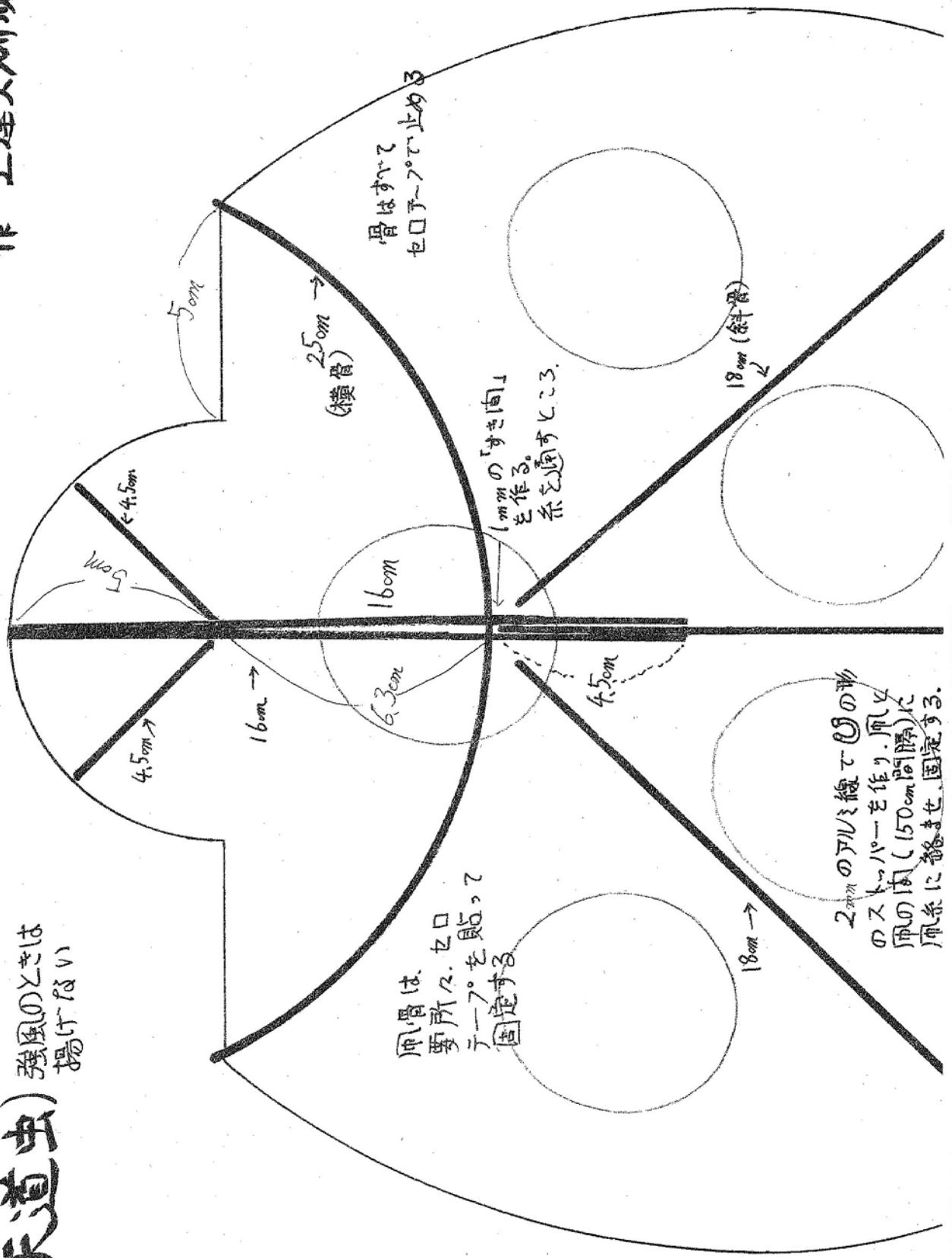
4. 紙70cmの紙テープと尾尾とつけて3.

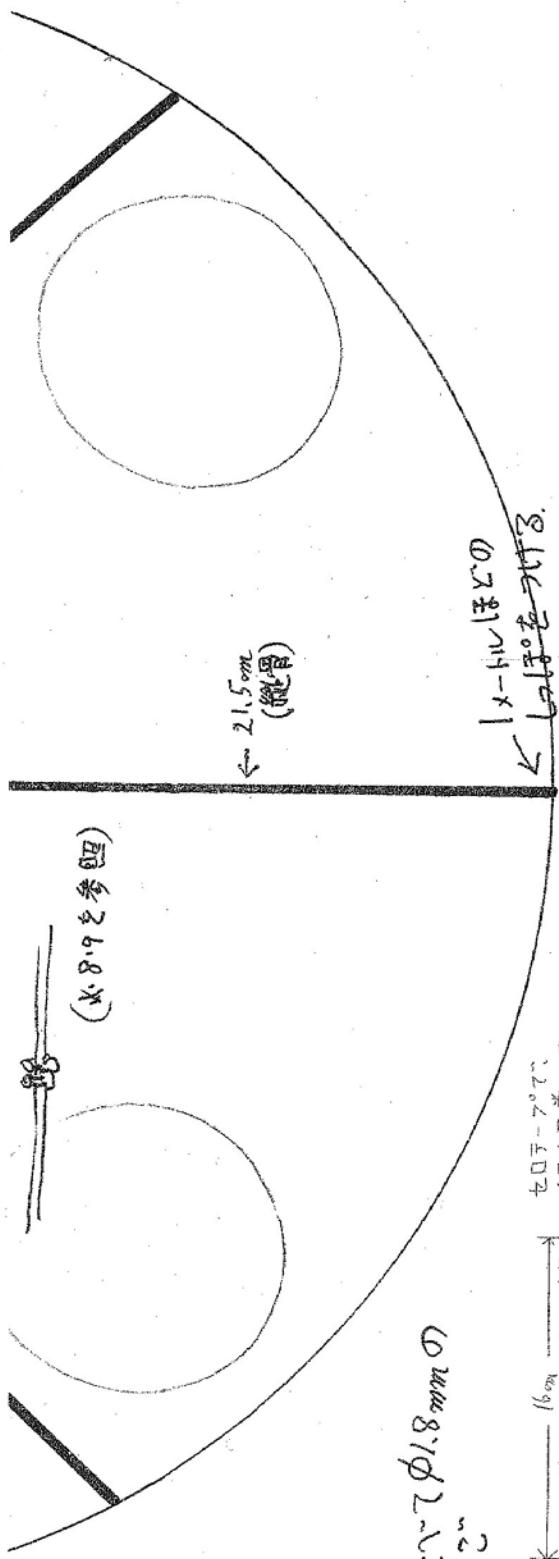
以上の手順で、希望する風の枚数を倍まで乗算も程度なら30~50枚かよい。30枚を超えると遭風の引きは強く、重手なしては手を切る。片付けするのを大変だ。片付け3点は2人以上の人かたと太変助かる。1人では苦労する。

てんとむし連戦 (天道虫)

強風のときはは揚げない

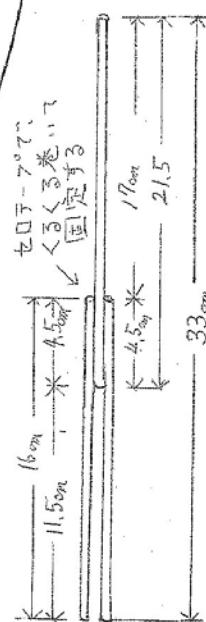
考案・大橋栄二
製作・上野天祐成





風骨は全でφ1.8mmの
竹ひご

[1] 縦骨



[2] 横骨

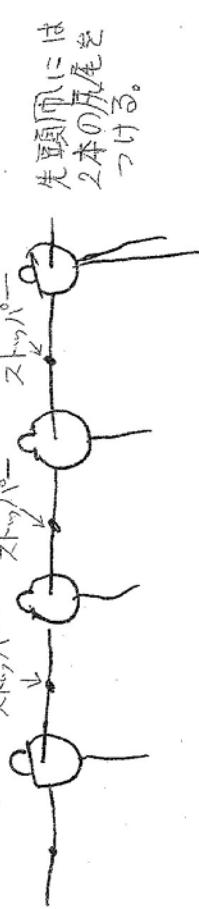
4. 次いで、頭部と下部の斜骨を貼る。
5. 約1メートルの紙テープを尻尾としてつける。
このようだ風を10枚(あるいはそれ以上)
作る。先頭风には2メートル以上の2本の尻尾をつける
6. 風系を準備する

風10枚までなら3kg 張力の糸で十分。

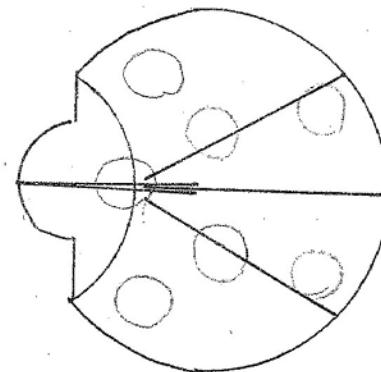
20枚 10kg

30枚 1.5kg

7. 風格は好物によって異なつか、尻尾が
ストップバーは、園芸用のアルミニウムを
リボン型に切って曲げて準備する
8. 連結。すべての風に糸を通す。



- [3] 作り方
1. ポリ袋にてんとうむし
の絵を描く
 2. 絵を描いたら裏返して、設計図
に重ねる。
 3. 縦骨をセロテープで固定し、弓状の横骨を貼りつける。
箭で骨と風骨は全でφ1.8mmの竹ひごの間に、1mmのすき間を作ること。



平成20年度

博物館体験学習教室

第7回講座

しつくいシーサーをつくろう



日時 平成21年1月17日（土）午前 9：00～15：30
平成21年1月17日（土）午前 9：00～12：00

場所 沖縄県立博物館 実習室

日程	受け付け	1/17	1/18
講座（午前）	9：00～	9：00～	9：00～
休憩	12：00～	13：00～	12：00～
講座（午後）	15：00～	終了	12：00



博物館体験学習教室「しつくいシーサーをつくろう」の講師を紹介します。

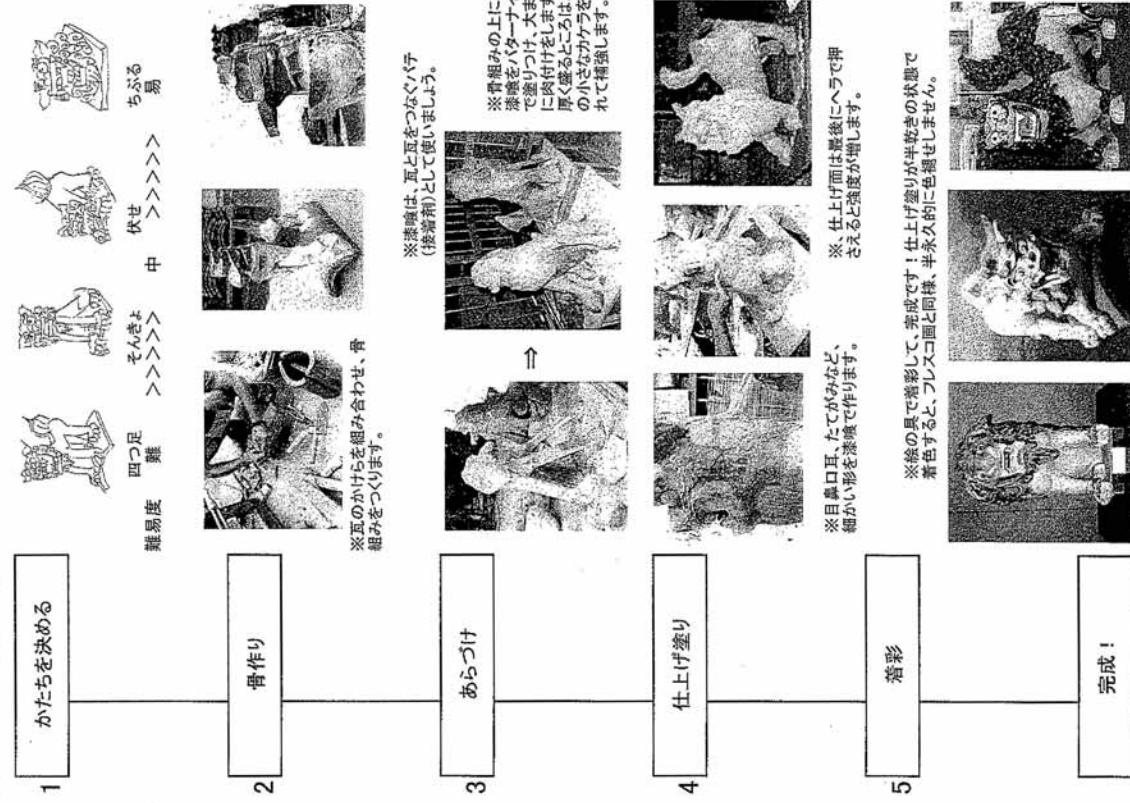
お名前を奥原 崇典（おくはらそうてん）といいます。先生は、与那原町の出身で、台湾の美術関係の大手で、絵を学びました。瓦製作で多くの業績があり、NHKの番組でも取上げられた「首里城復元」にも参加しています。また、焼物だけでなく、水墨画においても個展を開催するなどの活躍をされています。

今回の講座は、しつくいを使ったシーサーを作ります。奥原さんは講師として建築や美術をとおして、中国と沖縄文化のつながりについて研究をされています。

奥原さんの作品や博物館でのシーサーづくりは、昨年に続いて二回目となります。おまかせての博物館でのシーサーづくりは、自分なりのオリジナルなシーサーを作り出して下さい。

今回の体験学習教室の中で、身近な材料を生かし、豊かな知恵から生れた「しつくいシーサー」に興味を持つとともに、石や陶器でつくられたシーサーはじめとする美術工芸品にも興味を持つてもらえたなら嬉しく思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の自然や歴史、伝統文化を学ぶきっかけとなることを願っております。

漆喰シーサー制作の順序



しつくいシーサーづくり

1 材料

①漆喰(しつくい)…沖縄の漆喰は、15世紀建造と推定されている首里城の石垣に使われていたこん跡があるなど、かなり古くから用いられていました。サンゴ石を焼いた石灰に、藁(わら)と泥を混ぜ、発酵させることでできあがります。

②セメント …… セメントは、石灰岩から作られる粉末で、水を加えると化学反応が起こって固まる、接着剤みたいなものです。

③砂 …… 今回は漆喰とセメントの接着力を調整するために砂を利用します。砂はひび割れ防止用としてつかわれます。

④瓦片

⑤水性ペイント(赤・黒・黄・緑・青)

⑥接着剤

⑦ステンレスワイヤ

2 道具

①コテ

②絵筆

③混合用ハケット

2 作業メモ

①形決め 四つ足・そろきよ・伏せ・ちぶるなどの難易度も考案ながら作るものを作ります。

②骨作り 芯になる部分で、瓦を組み合わせて胴体部分を作ります。

③荒付け 荒付けは一層目の漆喰として、直接瓦に吸着するものとなります。

漆喰：砂：セメント=():():()

④仕上塗 仕上げ用の漆喰は、砂をへらし、漆喰にセメントを少しづつ混ぜながら進めます。

⑤着彩 仕上塗が半乾きの状態になつたら、墨や水性ペンキで着彩します。

本田 伸明

平成 20 年度

第八回 博物館体験学習教室



平成 20 年度 第八回博物館体験学習教室『手びねりでつくる器』の講師を紹介します。今回の教室では、博物館に収蔵されている資料を参考にして、器を作ります。沖縄の陶器の中でも焼締といわれる焼物を二日間で2点仕上げる内容を準備してあります。本田先生は、陶芸の分野で活躍されています。現在のお務めは、「沖縄クチャ・赤土造形」というところで、伝統的な沖縄の瓦や偏磁器を、大学などと共同研究しながら、焼窯の製作販売や技術の伝承などを行っています。先生の出身は奈良県で、沖縄県立芸術大学美術工芸学部で、焼物について学ばれました。「泥土会」という自分たちのグループで定期的に作品の展示会も行っています。また、2003年には旧博物館の陶磁器を、新しい博物館に移動するため、資料整理の作業員として参加していただきました。

今回の博物館体験学習教室では、陶器についての理解を、体験学習の中から深めることにより、博物館に展示されている実物資料や「ふれあい体験室」に展示されている陶器に興味を持つて頂きたいと考えております。さらに、焼物を通して沖縄の歴史・文化に関心を深めて頂けたらうれしく思います。



期日：平成 20 年 2 月 15 日（日）・3 月 1 日（日）

時間：午前 9 時～12 時

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

手びねりでつくる器

1. 焼物について

焼物とは、粘土を高い温度で焼いて固くすることで、いれ物などに利用をしてきたものであります。土を水でこねてできた粘土は、固く乾燥しても水を加えると柔らかくなります。いつの頃からか火を使うようになつた昔の人達が、粘土が焼されることで固くなることを発見したと考えられ、それをうまく活用したのが焼物です。焼物に使う粘土の中には、高温（800℃前後）で焼くと溶け出していく元素が多く含まれていて、焼いた後は水を入れても元のように柔らかくなりません。この性質を見つけ出しました私たちの祖先は、道具としても、火を利用した最初のものと考えられています。

2. 沖縄の焼物

沖縄の焼物の歴史のはじまりは、土器が焼かれた約6,000年?7,000年前の頃だとされています。生活で使う道具という面から考えると、古い時代はもろく壊れやすいものから丈夫なものに次第に進歩し、表面の装飾文様は、各時代ごとに流行のようなものがあります。また、宮古・八重山の土器文化は、使用された時期や形が沖縄島とは違い、独自の展開を見せながら発達するなど、地域による違いもあります。さらに、海外に出でていく機会が多くなると、他国で造られた焼物も利用するようになります。沖縄で本格的に焼物が焼かれるようになるには、土器作りと海外から持ち込まれた焼物の影響や、先進技術を持つ國へ留学したり、技術者を招いたり、時代の影響を受けながら、沖縄の風土の中で形作られていきます。

爪形土器
仲原式土器
（約3000年前）
（約7000年前）
アカムヌー
（約50年前）



3. 沖縄の陶器類

沖縄の陶器は、大きく上焼と焼結、さらには瓦とに分けることができます。

上焼： 上焼は、沖縄の焼物の中でも、種類を施したもののことです。上焼は、17世紀ごろに中国や薩摩焼の影響を受けながら、湧田地城で始まり、壺屋の地で発達しました。壺屋のほかにも古知や八重山などにも上焼がありました。上焼には、絵付けが施され、お酒を入れる器、食器、花生け、香炉など比較的小さな生活日用品として造られました。白化粧土を施すことは、焼物の量産体制を整えることと、その上から彩色される釉薬をきれいに発色させるためであったと考えられています。壺屋では上焼の中でも、白化粧土を施して細工をしたものをお白焼（シラヤチ）と呼びました。

上焼の焼かれる窯は、焼き上げるための袋状の部屋をつけた登り窯となっていて、約1230℃の温度で焼くことができました。焼き上げるためには、3日間を要したとされています。

※釉薬（うわぐすり）：焼物の表面に施付けるガラスのようなもの

焼結： 沖縄で造られる900℃?1120℃で焼き上げた陶器のことです。壺屋の焼結は、釉薬をかけず900℃?1120℃で焼き上がる土が使われ、酒を入れたり、水甕（みずがめ）として使う大型の容器と、徳利（とつり）や碗など小型のもののがあります。喜名焼や知花焼にも焼結があり1250℃?1280℃で焼き上がる土の上から、泥軸（どろやう）をかけて焼かれたものが多く焼かれています。古くからある窯場によつて使われる粘土に違いがあり、器の形や表面の質感に少しづつ違いがあります。焼結には土の中から染み出た成分が色を出し、独特な色の感じを出しているものもあります。特に喜名焼や知花焼の中には、近年の歴史から分類法でいう「器（せつき）」に近いものがあると考えられます。焼結の窯は、上焼のように袋状の小さな部屋が連続しながら登るのではなく、トンネル型で下から上までつながっていました。

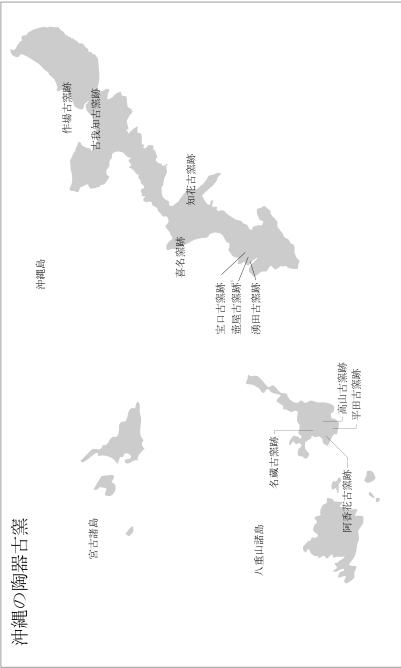
※器： 1950年アメリカ工業協会により、1150℃?1300℃で焼結まる焼物と規定される。

瓦： 瓦は、おもに屋根をふくらために使われます。屋根に瓦が使われる以前は、カヤという植物や板などが使われていました。日差しが強く台風などの多い沖縄では、安定した生活をおくるために瓦屋根が採り入れられたと考えられます。瓦は粘土を一定の型にはめて作り、900℃?1,200℃の温度で焼かれます。沖縄の焼物類の中で、歴史上の製作年代が残されている最も古い資料は、屋根瓦の資料です。浦添城跡などで、焼かれた年が特定できる瓦が発見されたことから、14世紀後半には瓦が焼かれていたとされています。しかし、この瓦が沖縄で焼かれた物かについては、はつきりしません。王國時代の歴史書の中では、16世紀後半に首里王府の役人として「瓦奉行」の記録が登場してくることから、この頃までには、屋根瓦が果たす役割が重要視され、多くの需要をまかなう必要が出てきたものと考えられます。

4. 沖縄の古窯

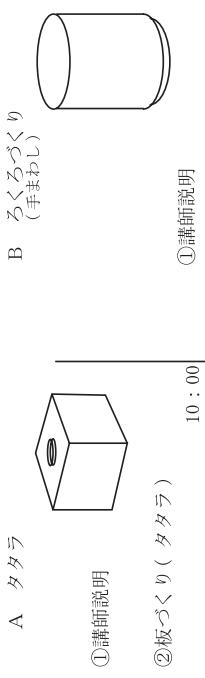
沖縄では、15、16世紀から、いくつかの窯で陶器が焼かれていたことが、古文書や言い伝えによつて残されています。この時期からは、各島々に焼物用の土を求めて、自ら焼き上げるための窯を作ることができました。その大きな要因としては、海外との貿易によつてもたらされた陶器類が、他の競争相手國の進出により、手に入りにくく状況になつてきましたとがあると考えられています。手に入りにくく不便になったことで、独自の焼物を生み出す知恵を働かせたものと思われます。

窯跡として発掘されている窯は、北部から大宜見村の「作湯古窯跡」、名護市の「古我知古窯跡」、読谷・沖縄市「喜名古窯跡・知花古窯跡」、那覇市の「湧田古窯跡」「壺屋古窯跡」、石垣市の「八重山焼」ともいわれる「名瀬古窯跡」「高山古窯跡」などがあります。それらの窯で焼かれた焼物は、「作湯焼」「古我知古窯」「喜名焼」「知花焼」などと呼ばれます。尚、喜名と知花と呼ばれたものもよく似ていることから、まとめて提えられます。



7 作業手順

一日目 (2/15)



5 豊屋焼
沖縄の焼物の歴史の中で、1682年の壺屋統合は一つの大好きな区切りとなります。これまで
湧田、知花、宝口に分散していた焼窯を、合理的に管理するためにまとめた可能性がありま
すが、その意図はよく分かっていません。壺屋が選ばれた理由は、首里や港に近いという交
の便、燃料となる松林、近隣の池といった水源といった環境面で優位性があったといわれて
います。

6 器の種類

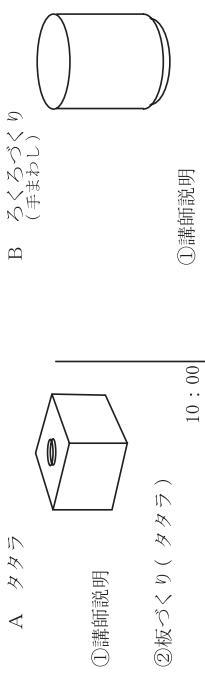
沖縄の陶器には、土の肌のまま焼き上げた荒焼と土で形を造った後に釉薬をかけて焼き上
げた上施とに分けられます。荒焼は壺や甕などの大型の器物が多く、上施には食器類、花瓶
などがあります。

上施



7 作業手順

二日目 (3/1)



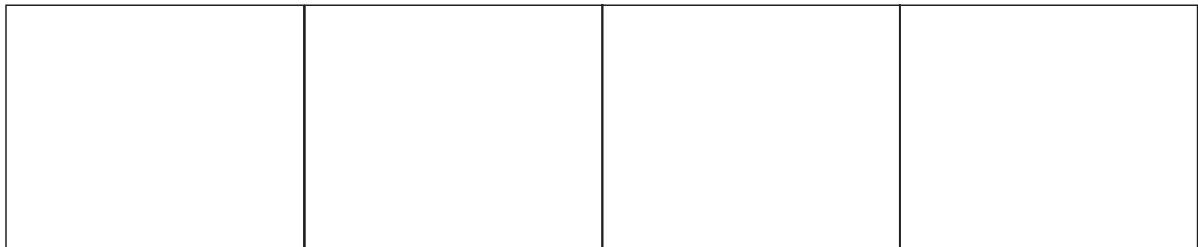
11:00
③ドベによる貼付
④口の細工

11:00
①装飾

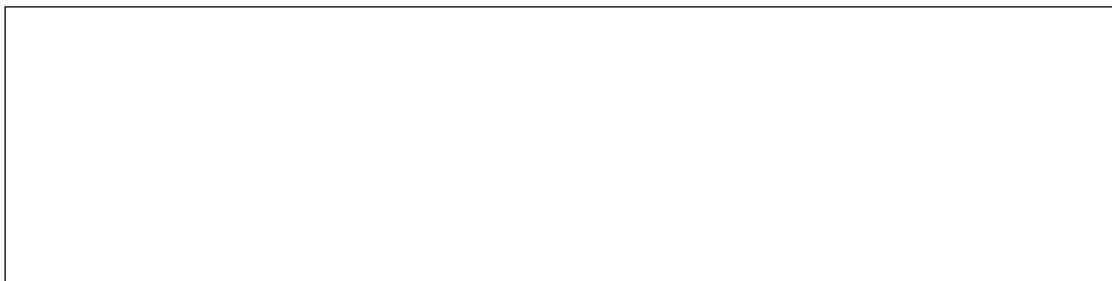
10:00
②施釉 (内側のみ)
11:00
③仕上げ

12:00
博物館にて焼成
作品受取 月 日

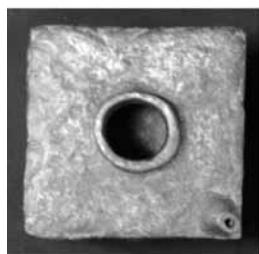
アイデアスケッチ A



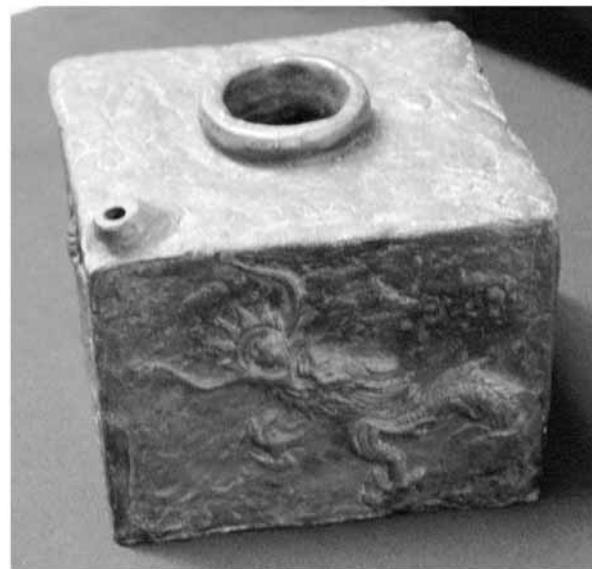
アイデアスケッチ B



南蛮流文角瓶 (なんばんりゅうもんかくびん)



浮彫文壺 (うきぼりもんつぼ)



3 活動の状況

①「アダン葉サバをつくろう」

	目的	場所	講師・サポート者
4月4日	材料収集	中部海岸	前盛氏、松下芳子、松野、具志堅、砂川、風樹館職員(島袋・後藤)、赤嶺、宮平
海浜公園のアダン葉は背丈が小さく、数も少なめであった。また、採集には公園管理者への許可が必要であった。当日、事務所職員と相談。申請書を正式に出す必要があるとのことで断念する。			
		南部海岸	前盛氏、安座間、風樹館職員(島袋・後藤)、赤嶺、宮平
午後は中部方面の採集予定を変更し、島尻方面へと進路を変更。西崎、与根海岸付近も観察するが、昔ほど残っていなかった。海岸に多くのアダンの群生を発見。2時間ほど採集する。博物館に持ち帰り、下ごしらえを始める。採集地を職員で下見をする必要があったと思われる。			
4月6日	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	前盛氏、宮里定典、銘苅、佐久原、金城、砂川、松下武・芳子、吉見、桑江、西川、喜屋武、安元、風樹館(島袋・後藤)、赤嶺、宮平
アダンの葉を二つに裂き、さらに片面から2本の製品を作る。乾燥する前に、繊維が巻き込まないように、正反方向に、引くように繊維にくせをつける。乾燥してしまう前に、2回ほどこの作業を行う。			
同日	演習	博物館実習室	前盛氏、銘苅、金城、砂川、吉見、桑江、西川、喜屋武、渡慶次、風樹館(島袋・後藤)、赤嶺、宮平
アダン葉サバの作業工程の中の、出だしの部分を前盛氏により講義。20日の教室開催時に実際に参加可能なボランティアを対象に演習。理解ができている数名の方は、当日までにサバ製作を宿題として、持ち帰る。基本的な流れは理解できている様子である。			
4月9日	材料採集	南部海岸	金城、安村、職員(岸本、山崎)、赤嶺、宮平
9時過ぎに博物館を出発し、6日に行った海岸を迷いながら探し、10時に到着。早速作業開始。12時頃、20分位休憩し、1時過ぎに終了。昼食後、帰館。			
	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	金城、安村、宮里定典、安座間、西川、町田、安元、赤嶺、宮平
2時半頃、館に到着し、下ごしらえの作業に入る。5時まで行うが、採集した1/3は出来なかつたので、後日に行う。			
4月15日	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	安座間、桑江、町田、宮平
安座間さんは、1時30分から5時ごろまで活動。途中から、桑江さんと町田さんが参加した。			
4月16日	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	久保、桑江、喜屋武
前盛氏来館。当日の見本資料を作成しておきたいとのことで、アダン葉を持ち帰る。ビニールをかぶせたため、少しカビの生えた材料もあるが、十分活用できるとのこと。午後2時以降に、ボランティア3氏により、六時ごろまで下ごしらえを行う。			
4月17日	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	安座間、桑江、砂川、町田
午後2時ごろから、下ごしらえ始める。閉館時間までには終了。			
4月18日	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	安座間、桑江、安座間さんの友達
午後2時ごろから、下ごしらえ始める。閉館時間には終了。			
4月19日	材料準備(下ごしらえ)	博物館実習室横	池宮城、新田、村田、平田、仲村、金城、宮里佐代子、長嶺、安元、稻福、赤嶺、宮平
午後2時より、葉を割く作業と、しごく作業開始。4時から、勉強会を終えた歴史班のメンバーも加わって、作業が速くなつた。一人200本でセットを作ると不足という事で、150本でセットを作ったが、8名分しか作れなかつた。最終的には、それを半分に分け、16セットを作る。以前にカビを生えさせてしまった葉を水に浸け、明日の朝に干し、使用する事になった。			
4月20日	当日	博物館実習室	前盛氏、吉見、木村、西川、佐久原、宮里定典、大嵩、喜屋武、安座間、銘苅、風樹館(島袋・後藤)、赤嶺、宮平、安元
8時半過ぎにはほぼボランティアの方が集合し、講座の全体説明を行つた。講座は、9時から受付を開始し、講師紹介、本日の作業説明のあと、作業に入った。まずは、丸くなっている葉をしごいた。編み始めてから、最初の段階で、カーブを意識しながら編んでいかないと、難しい。その後、編みはじめを先生に実演していただき、各自作業に入った。なかなかカーブが作れず、何度もやり直し、最終的に仕上げることができた参加者はいなかつた。12時には片付けをし、記念撮影をして終了した。定員オーバーで参加できず、傍から見学していた方も2名ほどいた。後藤君は事前学習後に一足仕上げたようで、今回は受講生に指導してもらい、助かつた。			
反省：完成までを想定するとすれば、2時間程度では難しい。下準備2時間、体験教室I(作り方)2時間、宿題として製作、体験教室II(仕上げの工程)2時間として企画するほうが良い。			



割いた葉をしごくボランティア



前盛氏の実演



制作に取り組む参加者

② 和綴じ本をつくろう

	目的	場所	講師・サポート者
5月31日	事前学習	博物館実習室	當間拓・博氏、安座間、松下武・芳子、仲地、喜屋武、泉川、安元、福島、赤嶺、宮平
事前学習ではあるが、どの程度時間が必要なかなどを知るために、本番と同時刻の9時から開始した。作業は、こより作りから始め、丁寧に指導していただいたおかげで順調に進み、12時過ぎには全員仕上げることが出来た。館の材料の準備不足から少し時間をロスしてしまったが、当日は、しっかりと準備を整えていけば、時間内に終了すると思われる。			
6月15日	当日	博物館実習室	當間拓・博氏、喜屋武、松下芳子、安座間、仲地、喜屋武、瀬底、安元、福島、赤嶺、宮平 実習生：我那覇、鶴田杏介・寿子、瀬底、安元、福島、赤嶺、宮平
29名の参加者が集まり、講師紹介の後、すぐに制作に取り掛かった。一人一人に材料が配られ、講師の當間氏の説明を受けながら、または、講師の周りに集合し、細かい作業を見ながら進めていった。ボランティアもノリづけや、材料の配布、作業の手順などで補佐してもらった。 反省：思ったより、時間がかかり、終了時間は30分ほどオーバーしてしまった。工具類の不備（数が少ない）もあり、参加者の進み具合に差が付いてしまった。募集定員は減らし、25名や20名程度でも良かったかもしれない。1テーブルに5名は作業スペースとしては、狭い。			参加者 29人



事前学習の様子



講座の様子



仕上げた作品を手にパチリ

③ 「植物標本をつくろう」

	目的	場所	講師・サポート者
6月19日	事前学習	末吉公園	日越氏、新城氏、潮平、波平、赤嶺、宮平、安元
講師の日越氏と新城氏、文化の杜の安元、ボランティアの波平、潮平、赤嶺、宮平で、7月20日のための末吉公園内のコースの下見を行った。駐車場やトイレ、持ち物など（虫よけスプレー）などの確認をした。当日は事務所側の駐車場に集合し、説明後二手に分かれて回ることにした。採集する標本の種類などについての判断は講師が行うことになった。			
7月20日	1日目	末吉公園 博物館実習室	日越氏、新城氏、潮平、波平、田中、赤嶺、宮平、安元、福島 参加者 18組40人
9時末吉公園集合であったが、8時半過ぎには数名が集まっていた。はじめのあいさつを終え、2班（日越班、新城班）に分かれ、公園内の植物を観察しながら採集を行った。ほとんどの参加者が約20種類の標本を採集することが出来た。午後は各自食事をとった後、1時半に博物館実習室に集合し、標本の押さえ方を教わった。新聞に一標本づつ挿み上下を段ボールで押さえてひもで縛り、持ち帰った。2日目までは、標本にカビが生えない様、各自で毎日新聞を取り換える様に指示された。 反省：公園利用の申請書の提出の際に、公園管理からの採集標本の種類を問われたが、当日にならないと分からぬ部分があり、もう少し詰めが必要だった。また、ミンミンの活動との兼ね合いも考慮しなければならないだろう。ミンミンとしては、採集は控えて欲しいとのこと。炎天下の中での採集だったので、午後にはバテている子もいた。			
8月17日	2日目	博物館実習室	日越氏、新城氏、潮平、波平、田中、赤嶺、宮平、町田 参加者 18組28人
1日目に引き続き、全組参加で、行うことができた。ほとんどの参加者が、新聞を取り換えていたようで、標本もほとんどいい状態であった。二日目は、前回採集して乾燥させた標本の名前を確認し、標本を台紙に貼る作業を行った。事前に図書館などで科名などを調べていた子どももいた。参加者は、一人4枚ずつ配られた台紙に奇麗に張り付けていった。残りの標本は個人で台紙を購入し、仕上げてもらう。ほぼ11時頃には全員が終了することが出来た。講座の最後に、仕上げた標本を手に記念写真を行った。 反省：特にあげることははないが、新城氏から今後も同様な講座を開くのであれば、標本ラベルの科名と和名の表記は和名を上段にした方が良いとの指摘を受けた。対象が子供たち（小学生）であれば、科名より和名の方が身近に聞く名前だからとのこと。			



事前に公園を下見



講座の様子（1日目）



標本の仕上げに入る（2日目）

⑤「印をつくろう」

	目的	場所	講師・サポート者
9月11日	事前学習	実習室	前田氏、上原、玉寄、仲地、桑江、新里、安元、赤嶺、宮平
午後2時から2時間ほど、「印をつくろう」の下準備を行った。事前に先生が印材の片面を磨いてきていたので、そこに朱墨を塗り、筆、または朱墨をそのままつけた。残りの片面を、800番、そして1200番のペーパーで磨き朱墨を塗る作業を行った。摹刻する印影を選んだあと切り取り、印材に固定し、筆、または綿棒でラッカー薄め液を塗りながら、ボルトの頭などで擦り、印材へ転写していった。この転写が大変重要ということだった。この転写の練習を両面に行つた。後半は、開催当日の参加者の印材の片面を削り、作業を終えた。			
9月21日	1日目	実習室	前田氏、桑江、新里、上原、玉寄、安元、赤嶺、宮平
'印をつくろう'は、県内の書家前田賢二（雅号牽牛）氏を招聘して実施した。参加者は小学生から一般の方まであり、体験者の年齢幅の大きな教室となった。講座では、印の基本的な内容から始まり、今回のテーマとなっている博物館の収蔵資料の摹刻（もこく）をするという説明が行われ、参加者には3種類の印影から一つを選んでもらった。今回の制作では、時間を考慮してコピーされた原版を揮発油を使って石面に転写し、写ったものを印刀を使って彫っていた。次回の10月19日には、宿題として制作された印に修正彫りを加えて、仕上げへつなげていく。			
10月19日	2日目	実習室	前田氏、桑江、玉寄、安元、福島、赤嶺、宮平
前回に引き続き、県内の書家前田賢二（雅号牽牛）氏に講師を依頼して実施。前回に与えられた課題を彫り進めてきた受講生の皆さんと、前田氏からアドバイスを受けて修正彫りをしながら作品を完成させていった。前田氏から、「今回は私が講師でしたが、皆さんの本当の先生は『印の実物』資料です。資料から多くのことが学べます。古典資料から学ぶことを大切にして下さい。」と話があった。本教室を通して、博物館の印資料の見方が豊かになったのではないでしょうか。また、今回の体験をきっかけとして、篆刻・書道文化をはじめ、沖縄の文化に興味・関心を持つ方が増えることを期待したい。			



前田氏



まずは、やり方を見よう



集中して彫ってます

⑥「連鳳をつくろう」

	目的	場所	講師・サポート者
8月19日	事前調整	支援会室	上運天氏、赤嶺、宮平
上運天氏が、講座の調整のため来館。鳳は2種類（菱形・テントウムシ）で、10枚づつ作る。手順としては、1日目に菱形を作り、宿題としてポリエチレン袋を持ち帰り、テントウムシの模様を描いてくる。2日目にテントウムシの鳳を仕上げ、公園にて鳳揚げをする。制作する際、一人で5名くらいしか目が届かないで、1か月ほど前には松川さんを中心にボランティア向けに事前学習会を開き、ボランティアをつくる。竹ひご、セロテープ台、ラジオペンチ、針、糸は上運天氏が、セロテープは館が準備する。参加者の人数によって設計図の枚数があるので、早めにわかった方がよい。募集は親子で20組（年齢はナシ）。調整後、アダンのオモチャや、月桃で作るサバの作り方をおそわる。			
10月15日	事前学習	実習室	上運天氏、松川潤・郁子、西川、真貝、喜屋武、安元、町田、新里、赤嶺、宮平
1日目に作成するレインボー鳳の下ごしらえと、製作までを行つた。シートカット、竹ひごカット、竹ひご曲げを行つた。竹ひご曲げは、角度を調整するのが難しかつた。			
11月13日	下ごしらえ	実習室	上運天氏、松川潤・郁子、桑江、安元、中村、赤嶺、宮平
参加者分の材料の下ごしらえを行つた。糸巻き、シート切り、ストッパー作製、セッティング。糸巻き様に改造されたミシンでの糸巻きは、1リールから7人分（約40m/人）取れる。シート切りは、ポリ袋Lサイズ（4枚/袋）からレインボー鳳シートを20名分取る。2日目用のテントウムシは赤いポリ袋大（10枚/袋）からカットした。また、ワイヤーを小さくカット、U字に曲げ、ストッパーを作成（10個/人）。それぞれを1人分づつセッティングし、終了。			
11月16日	1日目	実習室	上運天氏、松川潤・郁子、桑江、喜屋武、安元、中村、赤嶺、宮平 参加者 25人
講座は親子25名が参加して行われた。講師から簡単な説明の後、作業に取り掛かった。各テーブルにボランティアが付き、参加者は作り方を教えてもらいながら、一緒に作成した。最初のシートに竹ひごを貼る作業、糸を通す作業に多少時間がかかるってしまう。糸を通す作業の中で、真結び、引き締め結びがあり、どちらも最初は手間取ってしまった。最後にしっぽのリボンをつけて、レインボー鳳は仕上がった。2日目はテントウムシを作るため、テントウムシのシートを渡して2日目までに模様を描いてくる様に宿題を出し、講座を終了した。2日目の後半は鳳揚げを予定しているので、鳳糸の持参をお願いした。			

12月3日	下ごしらえ	実習室	上運天氏、助手、松川潤・郁子、桑江、安元、赤嶺、宮平		
二日目に制作するテントウムシ凧の骨組みやストッパーの下準備を行った。レインボー凧に比べ骨組みの数やサイズが多かったため、予定の2時間を1時間オーバーしてしまった。また、弓を作るのに時間が多くかかった。					
12月21日	2日目	実習室	上運天氏、松川潤・郁子、桑江、真貝、喜屋武、中村、赤嶺、宮平	参加者	12人
二日目の講座は、5組12名の親子、個人が参加して行われた。1日目に宿題として出されたテントウムシの凧を講師の説明を聞きながら、ボランティアの補助のもと仕上げた。レインボー凧に比べ骨組みが多いため、多少時間はかかったが、全員が無事仕上げることが出来た。12時からは、隣の新都心公園にて上運天先生から凧上げのコツを説明していただき、凧上げにチャレンジした。風が弱く、揚げるのに苦労したが、凧が揚がると歓声があがった。きれいにあがった凧は、他の来園者からも注目を浴びていた。実際に凧を揚げると、サルカンや先頭凧に尾を多めに付ける意味が分かった。参加者もこれを機会に沖縄の遊びに興味、関心を持って頂けたようで、楽しい体験学習教室となった。					



事前に材料を準備



熱心に説明を受ける親子



うまくあがったよー

⑦ 「しつくいシーサーをつくろう」

	目的	場所	講師・サポート者		
1月16日	パネル貼り	実習室前廊下	松下武・芳子、赤嶺、宮平		
午前10時から、松下さんと共に松下さんの撮影した県内の屋根獅子の写真パネルを実習室前の廊下に34枚展示した。12時前に作業終了。					
1月17日	1日目	実習室	奥原氏、助手、松下芳子、安座間、照屋、知念、小野、中村、福島、赤嶺、宮平	参加者	親子2組43人
親子20組、43名が参加して行われた。（2組キャンセル）最初に、奥原氏からシーサーについての解説、作り方の手順説明があり、1. 形をつくる、2. 骨組つくり、3. あらづけの順で作業を行った。シーサーの説明では、しつくシーサーを瓦職人が家主への感謝と安全を願って作ったという事など、興味深いお話もあった。午前は、土台となる瓦に胴や脚などの瓦片を組み合わせながら、粘土や漆喰で固定していく作業を行った。参加者は、顔や尻尾、耳などどのような形で作るか等、皆、いろいろなアイデアを出し合って制作。また、廊下に展示している松下さんの写真パネルを参考にしている方もいた。午後は、午前に作った骨組みの上に肉付けをしながら、形を整えていった。早い方は、仕上げ用の漆喰で仕上げまでもっていった。最後に参加者全員で、片付けをして、1日目を終えた。15時半頃、片付けも終了。					
1月18日	2日目	実習室	奥原氏、助手、本村、照屋、松下、中村、福島、赤嶺、宮平	参加者	人
2日目は、仕上げ漆喰塗りと色塗りを行った。ほとんどの方は色塗りから開始したが、数名は仕上げ漆喰塗りをし、色塗りへと作業を進めていった。作業が早い方は、10時過ぎには終えていたが、最後に、集合写真をするため、時間まで片付けや、ふれあい体験室で時間をつぶしていた。11時半には作業を終了し、福島からのお礼と、奥原先生からの言葉をもらって、講座を終了した。最後に、制作したシーサーと一緒に全員集合して写真に納まった。10人10色という様に、それぞれ個性のあるシーサーが仕上がり、皆、写真に写る顔は満足げであった。12時15分頃には片付け作業終了。					



しつくいで形づくりていきます



講座の様子



奥原氏

②「手びねりでつくる器」

	目的	場所	講師・サポート者
9月21日	事前調整	実習室	本田氏、赤嶺、宮平
自己紹介後に講座の大まかな説明をし、窯や道具等を確認した。当日開催中の「印をつくろう」を見学してもらい、講座の雰囲気を見てもらった。 次回：10月26日（日）13:00～に、当日の見本になる資料のチェックや窯の空焚きをすることを確認。			
11月15日	窯の空焚き	実習室外	本田氏、赤嶺、宮平
講座の前に、窯を試運転させる必要があるため、空焚を行った。本田氏から火の調整の説明を受けながら、10時間で終了するプログラムを設定。当初、球が落ちていたため、電気が来ず、戸惑ったが、中央監視の方に元に戻してもらった。実際に焼く時に気をつけなければならない温度は、270℃前後、550℃前後とのこと。水分の蒸発や釉薬の関係で破裂が起る事もあるという。今回は空焚きのため、それは気にしなくていい。			
1月8日	事前学習	実習室	本田氏、平櫛、松野、松下武・芳子、知念、中村、赤嶺、宮平
午後2時～4時までの予定で行ったが、結局は5時前までかかった。制作にかかる前に、収蔵庫（考古・陶磁器収蔵庫）の前室にて、館の収蔵品の中の手びねりの作品数点を手に取りながら観察。その際に、講師の本田氏から作品についての説明を受けた。実習室に戻り、本田氏の手びねりでの器制作を見た後に、道具の使い方や、ろくろの回し方の説明を受け、実際に制作に取り掛かる。今回は、バーナーで乾燥させながら、高台の削りまでを行った。			
2月15日	1日目	実習室	本田氏、松野、松下武・芳子、我那覇、平櫛、中村、福島、赤嶺、宮平 参加者 22人
親子を含む22人が参加して、行われた。講師紹介後、講師の本田氏から本日の作業の説明があった。まずは、タタラ（板）の作成の仕方、手口クロをを使った器の作り方の実演を見た後、各自制作に取り掛かった。11時位までは手口クロでの器の制作を行い、以降はタタラでの角瓶の制作を行った。一人に2～3Kgの土を渡したせいもあってか、大物を作ったり、数点作る方もいた。角瓶は、タタラの乾燥時間が足りず少しヘタってしまった方もいた。見本として、館の資料を4点展示したが、それを真似て器を作る方がいなかったように感じた。最初の説明でもう少し説明が必要だったかもしれない。しかし、参加者はみな楽しそうに制作していたので、陶器に興味をもってもらえるいい体験教室となった。			



事前学習の様子



講座の様子



口を作るのが難しい



新聞掲載「植物標本をつくろう」（沖縄タイムス 8月22日）

第371回

■■■ 博物館文化講座 ■■■

「琉球円覚寺仏殿の模型製作」

講師：宮城慎平

(沖縄職業能力開発
大学校卒業生)

王府時代に、王家の菩提寺であった円覚寺仏殿の模型制作の取組について、お話ししていただきます。



CGによる
「CGによる旧那覇市街地の町並み再現」

「CGによる旧那覇市街地の町並み再現」

講師：浦崎文佳
(沖縄職業能力開発大学校卒業生)

大正～昭和初期の那覇市の
中心市街地の町並みを、CG
で再現した成果をお話してい
ただきます。

写真より復元した
鹿児島第一銀行



日時：5月17日（土）午前10時～12時

場所：県立博物館・美術館 講堂（3階）

定員：200名（定員に達し次第締め切らせていただきます。）

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館

Tel 098-941-8200

入場無料

第372回

■■■ 博物館文化講座 ■■■

沖縄をたどる

現代・沖縄の思想



沖縄戦後、めまぐるし
い状況の変化の置かれた沖縄を、思想史の觀
点から紹介します。

講師：比屋根 照夫（琉球大学名誉教授）

日時：6月21日（土）午後1時～3時

場所：県立博物館・美術館 講堂（3F）

定員：200名（定員に達し次第締め切らせていただきます。）

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館

Tel (098) 941-8200

米軍ナンバープレート

入場無料

■■■ 第375回 博物館文化講座 ■■■

ずしがめの世界探訪

平成20年

9月20日（土）

14:00～16:00

9月17日（水）より開催の
博物館企画展「ずしがめの世界」に併せて、
博物館で収蔵されている資料を中心に、
厨子裏について
わかりやすく紹介していただきます。

講師：上江洲 均

（久米島自然文化センター名誉館長）

会場：県立博物館・美術館 講堂（3F）

定員：

200名

（定員に達し次第締め切らせていただきます。）



お問い合わせ
沖縄県立博物館・美術館
Tel (098) 941-8200

入場無料

講師：西平 守孝（名桜大学教授）

募集期間 7月23日（水）～8月3日（日）

定員 20名（児童・生徒は保護者同伴となります。
募集中多数の場合抽選になります）

参加費 100円（保険料など）

申し込み方法（Tel, Fax, 電郵にて受付。
氏名、住所、電話番号が必要です。）

※ 沖縄（徳山川河口）集合・解散となります。

お問い合わせ先

沖縄県立博物館・美術館 徳山川むらまち3-1-1

Tel 098-941-8200 fax 098-941-2392

■ ■ ■ 第377回 博物館文化講座 ■ ■ ■

港川人を訪ねて

10月18日(土) 13:00 ~ 17:00



講師

大岡素平(おきなわワールド主催)
藤田祐樹(当館博物館専門員)

山崎真治(かみざきまじ)

内容

港川フィッシャー見学
具志頭歴史民俗資料館見学
玉泉洞窟探検

*博物館・美術館駐車場にて集合・解散。

参加費 1300円(保険料・バス代など)

定員 40名(小学3年生以上、参加可)

ただし中学生未満は保護者同伴。



申し込み受付
9月23日(火)~

港川フィッシャー遺跡

カシガーラの谷

受付時に参加費を徴収します。バス料金との
関係上、返金はできませんので、ご確認のう
え申し込み下さい。
(情報センター窓口にて受付・参加費徴収)

お問い合わせ

沖縄県立博物館・美術館
941-8200(福島・安元)

沖縄県立博物館・美術館開館一周年記念博物館特別展

「中国・北京故宮博物院秘蔵 甦る琉球王国の輝き」関連講座

講演会

2008年11月24日(月)

14:00 ~ 15:30

「故宮の中の金工品」

講師:久保智康(京都国立博物館学芸課工芸室長)
故宮に収蔵されている刀や金工品について、
講演を行います。

会場:沖縄県立博物館・美術館 構堂(3階)

入場無料

シンポジウム

2008年12月6日(土)
14:00 ~ 17:00

「琉球王国と北京」

コーディネーター

高良 貞吉(筑波大学教授)

ハネリスト

田名 貞之(沖縄国際大学教授)

宮里 靖子(那覇市歴史博物館主幹)

真栄田 京昭(神戸女子学院大学教授)

上木州 安厚(首里城公園管理センター主食)

篠原 美季(東京大学研究員)

プログラム

第1部:報告

5名のハネリストが、テーマに沿った
内容で発表します。

第2部:パネルディスカッション

会場:沖縄県立博物館・美術館 構堂(3階)

入場無料

主催:沖縄県立博物館・美術館、沖縄県教育委員会
お問い合わせ:沖縄県立博物館・美術館 TEL (098) 941-8200

お問い合わせください。
お早めにお越しください。

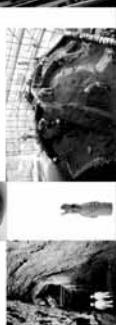


「発掘された日本列島 2008」 ここが見どころ

●2月14日(土) 2時~4時 (講堂) 入場無料!
●2月14日(土) 2時~4時 (博物館講座) 入場料有り!



展示会開催期間
1/9(金)~3/1(日)



島袋 洋(沖縄県教育厅文化課 記念物班長)

「中躍考古学ニユース」展の展示
されている展示品について、また、
近年の沖縄考古学の現状について
講演します。



お問い合わせ
沖縄県立博物館・美術館
那覇市おもろまち3-1-1 tel: 098-941-8200 fax: 098-941-2392

■ ■ 第382回 博物館文化講座 ■ ■ ■

沖縄と奄美の文化を語る

2月21日(土)
午後2時~4時

講師:津波 高志
(琉球大学教授)



奄美・沖縄では火葬の普及によって、葬送儀礼が地域社会の人びとの手から外部の専門家(葬祭業者)にゆだねられるようになる。それを一つの例として奄美と沖縄の共通点と相違点を見てゆきたい。

博物館・美術館講堂(3F)

定員: 200名

入場無料 ※ 当日先着順となります。

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 tel: 098-941-8200 (中村)
開館時間: 9:00 ~ 18:00 (金曜日・土曜日は 20:00まで) 休館日: 每週月曜日(月曜日が祝日の時は、火曜日)

IV 博物館文化講座・学芸員講座 等

1 博物館文化講座実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3土曜日 午後2時～4時までの2時間

※野外観察(第375回、第377回)については、別途日程を設定する。

場 所：特に指定がない場合は、講堂（3F）

※企画・特別展関連講座は日程は確定しているが、内容は調整中。

(4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約受付はしない。

※ 講堂の収容人数（210名）の定員とする。

回数	期日	演題	講師名	内容	定員
371	5月17日	「琉球円覚寺仏殿の模型製作」・「CGによる旧那霸市街地の町並み復元CGについて、それぞれの実習の成果を発表する。」	宮城慎平・浦崎文雄 沖縄職業能力開発大学校卒	円覚寺の模型制作と、旧那霸市街地の町並み復元CGについて、それぞれの実習の成果を発表する。	210
372	6月21日	沖縄をたどる －現代・沖縄の思想－	比屋根照夫 琉球大学名誉教授	沖縄戦後、めまぐるしい状況の変化の置かれた沖縄を、思想史の観点から紹介する。	210
373	7月26日	特別展関連シンポジウム 「りゅうきゅうときょうりゅう」	平山廉 早稲田大学教授	最新の恐竜研究に関する知識の普及。	210
374	8月2日	恐竜は本当に絶滅したのか？	長谷川善和 群馬県立自然史博物館館長	1億6000万年間もの間、地上で繁栄した恐竜たちの進化の謎について普及講演する。	210
375	8月16日	干潟の観察	西平守孝 名桜大学教授	干潟の生き物たちの営みを観察し、干潟の重要性を考える。	20
376	9月20日	ずしがめの世界探訪	上江洲均 久米島自然文化センター名誉館長	ずしがめの諸相について、わかりやすく紹介する。	210
377	10月18日	港川人を訪ねて	大岡素平 沖縄ワールド主任	沖縄島南部の港川フィッシャー遺跡や周辺の化石出土地をめぐるツアー	40
378	11月15日	故宮の中の金工品	久保智康 京都国立博物館学芸課室長	故宮博物院の沖縄関連文化財調査の報告	210
379	12月13日	特別展関連シンポジウム	高良倉吉 琉大教授 他5名	中国と琉球の交流史にかかる各々の研究分野からの視点を提示	210
380	1月17日	銀が繋ぐ二つの世界遺産	仲野義文(石見銀山資料館長) 真栄平房昭(神戸女学院大教授)	東アジアの交流史の中で銀のはたした役割など	210
381	1月24日	沖縄考古学の現状	島袋洋 沖縄県教育庁文化課記念物班長	沖縄考古学の現状	210
382	2月21日	沖縄と奄美の文化を語る	津波高志 琉球大学教授	沖縄と奄美の文化について最新の研究成果を踏まえて紹介する。	210
383	3月28日	ベルリン博物館所蔵の沖縄の染織	祝嶺恭子 県立芸術大学名誉教授	ベルリン博物館所蔵の沖縄の染織調査の成果を報告する。	210

2 文化講座の実施状況

第371回 「琉球円覚寺仏殿の模型製作」・「CGによる旧那覇市街地の町並み再現」

日時 2008/5/17 14:00~16:00 参加者110名

講師 宮城慎平（職業能力開発大学校卒）、浦崎文佳（職業能力開発大学校卒）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

今年度最初となる当講座は、今年3月に沖縄県職業能力開発大学校を卒業した宮城慎平氏、浦崎文佳氏の両氏をお招きして開催しました。講演は、宮城氏に「琉球円覚寺仏殿の模型製作」、浦崎氏に「CGによる旧那覇市街地の町並み再現」という演題でお話をいただきました。宮城氏からは、禅宗寺院の建築物の特徴や、旧円覚寺の模型の製作をする中で、治具（じぐ）や組物を工夫した点など映像を見ながら分かりやすい解説がありました。また、浦崎氏からは、土地に刻まれた歴史や文化を知る重要性から、戦前の旧山形屋周辺から大門前通りをCG再現した経緯の説明がありました。制作する際に行なった聞き取り調査や、当時の景観を残す写真資料からCGを作っていました工程や工夫したところなどの説明のあと、製作したCGの映写がありました。休憩時間には、会場に展示した宮城氏等製作の旧円覚寺の模型を聴講者の皆さんに見ていただきました。今回の講座に合わせて、昨年、一昨年の学生が制作した「旧円覚寺山門」やパネルも講堂前ホワイエに展示し、多くの方々に見ていただきました。



浦崎氏の講演の様子



琉球円覚寺仏殿模型を見る聴講者



ホワイエに展示された「旧円覚寺山門」

第372回 「沖縄をたどる－現代・沖縄の思想－」

日時 2008/6/21 14:00~16:00 参加者 83名

講師 比屋根照夫（琉球大学名誉教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は「沖縄をたどる－現代・沖縄の思想－」と題して、琉球大学名誉教授比屋根照夫先生をお招きして行なわれました。講演では、多くの文献資料をひもときながら、明治政府による琉球処分からソテツ地獄、沖縄戦、米軍占領、米軍統治への抵抗運動、復帰とその苦難の歴史をたどりました。とりわけ米軍統治への抵抗を通じて、復帰に至る過程で沖縄住民の「人権」・「自治」・「平和」思想を根本で支えていたものが、沖縄戦をめぐる戦争体験であったこと等が解説されました。

博物館の展示室にあるPCコンテンツも活用しながら、多くの文献や画像を活用した分かりやすい内容となり、多くの方々に満足のいく講演になったと思われます。



講座の様子



比屋根氏



興味深く聞き入る参加者

第373回 シンポジウム「りゅうきゅうときょうりゅう」

日時 2008/7/26 14:00~16:00 参加者 105名

講師 高桑裕司（群馬県立自然史博物館学芸員）、平川康（早稲田大学教授）

佐藤たまき（東京学芸大学准教授）、三枝春生（兵庫県立人と自然の博物館学芸員）

知念幸子（沖縄県立博物館・美術館主任学芸員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

「恐竜ミュージアム2008—失われた地上最大の生物たち—」関連催事として同展への関心を高め、恐竜への理解を深めてもらう目的でシンポジウム「りゅうきゅうときょうりゅう」を開催しました。県内外の研究者が恐竜研究について紹介しました。その中で、県内でも首長竜発見の可能性を示唆し、若い世代への期待を語りました。

**首長竜発見
若者に期待**

「恐竜シンポで研究者
08—失われた地上最大の
生物たち」（主催・沖縄
タイムス社、沖縄文化の
杜・特別協賛・琉球銀行な
ど）の「りゅうきゅうとき
ょうりゅう」と題したシン
ポジウムが二十六日、那覇
市おもろまちの県立博物館
・美術館で開かれ、県内外
の研究者が恐竜研究について
紹介した。恐竜の誕生から絶滅まで
を解説した早稲田大学の平
山廉教授は「絶滅の原因と
して隕石落下が有力な説と
されるが、カメや昆虫など
小さな生物は生き残ってい
る」と指摘した。

兵庫県立人と自然の博物館の三枝春生学芸員は、今年五月に発見された哺乳類の化石について語った。恐竜ミュージアム

県立博物館・美術館の知念幸子学芸員は伊是名、伊平屋の西島に恐竜が生息していた中生代の地層があることを強調。「首長竜などが見つかるかもしれない。興味を持つ若い世代が発見してほしい」と期待を寄せた。

7月27日 沖縄タイムス朝刊

第374回 「恐竜は本当に絶滅したのか？」

日時 2008/8/2 14:00~16:00 参加者 150名

講師 長谷川善和（群馬県立自然史博物館館長）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

「恐竜ミュージアム2008—失われた地上最大の生物たち—」関連催事として、群馬県立自然史博物館館長長谷川善和氏を講師にお招きし、「恐竜は本当に絶滅したのか？」という興味深い演目で講演会を開催しました。講座では恐竜研究の歴史などを紹介した他、恐竜が絶滅したという説を否定され、様々な定説があることや恐竜研究の広がりを説明しました。

**「恐竜は生き残っている」
長谷川館長が進化など解説**

3月3日 日曜日 1版 社会 26

長谷川善和館長

「恐竜ミュージアム2008—失われた地上最大の生物たち」（主催・沖縄タイムス社、沖縄文化の杜・特別協賛・琉球銀行など）の特別講演会「恐竜は本当に絶滅したのか？」が二十六日、那覇市おもろまちの県立博物館・美術館講堂であつた。親子連れなど約百五十人が詰め掛け、恐竜研究の歴史や絶滅したとされる恐竜と、鳥の進化とのかかわりなどについて耳を傾けた。

群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長は「隕石などのように、恐竜が絶滅したといつ説があるが信していらない」と指摘。「大型の生物は滅びているが小型の生物は生き残っている」と根拠を説明した。

「恐竜ミュージアム2008—失われた地上最大の生物たち」（主催・沖縄タイムス社、沖縄文化の杜・特別協賛・琉球銀行など）の特別講演会「恐竜は本当に絶滅したのか？」が二十六日、那覇市おもろまちの県立博物館・美術館講堂であつた。親子連れなど約百五十人が詰め掛け、恐竜研究の歴史や絶滅したとされる恐竜と、鳥の進化とのかかわりなどについて耳を傾けた。

群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長は「隕石などのように、恐竜が絶滅したといつ説があるが信していらない」と指摘。「大型の生物は滅びているが小型の生物は生き残っている」と根拠を説明した。

「恐竜ミュージアム2008—失われた地上最大の生物たち」（主催・沖縄タイムス社、沖縄文化の杜・特別協賛・琉球銀行など）の特別講演会「恐竜は本当に絶滅したのか？」が二十六日、那覇市おもろまちの県立博物館・美術館講堂であつた。親子連れなど約百五十人が詰め掛け、恐竜研究の歴史や絶滅したとされる恐竜と、鳥の進化とのかかわりなどについて耳を傾けた。

「恐竜ミュージアム2008—失われた地上最大の生物たち」（主催・沖縄タイムス社、沖縄文化の杜・特別協賛・琉球銀行など）の特別講演会「恐竜は本当に絶滅したのか？」が二十六日、那覇市おもろまちの県立博物館・美術館講堂であつた。親子連れなど約百五十人が詰め掛け、恐竜研究の歴史や絶滅したとされる恐竜と、鳥の進化とのかかわりなどについて耳を傾けた。

第375回 「干潟の観察」

日時 2008/8/16 14:00~16:00 参加者 20名
講師 西平守孝（名桜大学教授）
場所 金武町 億首川河口

当講座では、名桜大学西平守孝教授を講師にお招きして干潟の観察会が行われ、新館が開館して初めての館外での講座となりました。金武町億首川下流の干潟を中心に、親子20名が参加して行われました。当日の天候は不安定でしたが、講座が行われた午後2時から4時は、天気に影響されず終了することができました。講座は、「ネイチャーみらい館」側の護岸の方からスタートし、西平氏からの解説の後に受講生が観察するという流れで行われました。シオマネキの数をかぞえたり、石を裏返してルーペで観察するなど、地形・小動物・マンガロープを中心とした干潟の生態系を、分かりやすく丁寧に説明していただきました。講演の内容には、満足をいただけたようで、受講生の中から今後もこのような文化講座の企画を増やしてほしいとの要望もありました。



マンガロープとは…



河の中州の石を裏返す参加者



ヒルギについて解説する西平氏

第376回 「ずしがめの世界探訪」

日時 2008/9/20 14:00~16:00 参加者 142名
講師 上江洲均（久米島自然文化センター名誉館長）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、久米島自然文化センター名誉館長である上江洲均氏をお招きして、開催中の企画展「ずしがめの世界」と関連した内容で実施し、142名の参加がありました。演題は「ずしがめの世界探訪」で、葬法の歴史と骨を入れる物としての厨子甕について、分かりやすく解説をいただきました。講演の中では、琉球政府立県立博物館（現沖縄県立博物館・美術館）在任中の、厨子甕収集にまつわるエピソードを交えての解説もあり、資料の歴史的背景に思いをはせることもできました。また、厨子甕の編年や分類などの専門的な内容にも触れ、研究者の方にも興味のある内容もあり、多くの方々に満足のいく講演になったと思われます。



上江洲氏



熱心に耳をかたむける参加者



講座の様子

第377回 「港川人を訪ねて」

日時 2008/10/19 13:00~17:00 参加者 41名

講師 大岡素平（沖縄ワールド主任）

場所 八重瀬町立歴史民俗資料館・港川フィッシャー・ガンガラーの谷

当講座「港川人を訪ねて」は、博物館を午後1時に出発し、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館、港川フィッシャー遺跡、ガンガラの谷を廻り、5時に帰る4時間コースで行われました。

八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館、港川フィッシャーでは、八重瀬町教育委員会の新里氏から、港川人が発見された経緯や遺跡での解説をいただきました。発掘当時の新聞記事や発掘された資料、遺跡を解説を聞きながら見学することで、港川人発見の重要性を知ることが出来たのではないかでしょうか。ガンガラの谷では、沖縄ワールドの大岡氏、高橋氏のガイドで、鍾乳洞（約50万年前に形成）や鍾乳洞の屋根が崩落して出来た谷を巡りながら、「古代の人々も同じ景色を見ていたかもしれない」と、説明を受け、遙か昔に思いを馳せながら見学することが出来ました。現在分かることから、沖縄に昔住んでいた人々の生活を想像することの楽しさを体感できました。

また、見学コース最後の武芸洞では昨年から発掘を担当している当館の藤田、山崎から発掘の状況や出土した資料からこの洞窟がどのような場所として利用されてきたのか、今後の発掘についてなどの説明がありました。この講座への参加をきっかけに沖縄の歴史や文化、自然に興味・関心を持って頂けたらと思います。



職員の説明を受ける



武芸洞内



大岡氏、高橋氏

第378回 「故宮の中の金工品」

日時 2008/11/24 14:00~16:00 参加者 215名

講師 久保智康（京都国立博物館学芸課工芸室長）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、開館一周年記念博物館特別展「中国・北京故宮博物院秘蔵 甦る琉球王国の輝き」関連講座として行われました。講師には京都国立博物館学芸課工芸室長久保智康先生をお招きして、「故宮の中の金工品」と題して講演いただきました。久保氏は、沖縄県の実施した北京故宮博物院沖縄関連文化財調査に参加しており、今回の講演では、この調査によって見出された成果の報告となりました。その主なものは、琉球関係の刀剣に施された細工や付属品から、日本、琉球、中国の需要と供給の関係を背景にして、どこで製作されたかなどの可能性を探りました。また、東道盆（トゥンダーボン）の銀皿の文様の変遷から、特別展で展示されている漆工品の製作時期を推測しました。調査の際に撮影された画像も多く活用されており、金工品や漆工芸の専門の方や一般の方にも満足のいく講演になったと思われます。



講座の様子



久保氏



多くの方が参加されました

⑨第379回 シンポジウム「琉球王国と北京」

日時 2008/12/6 14:00~16:00 参加者 525名

講師 高良倉吉（琉球大学教授） 他5名

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂・博物館講座室・美術館講座室

当講座は、開館一周年記念特別展「中国・北京故宮博物院秘蔵 甦る琉球王国の輝き」の関連シンポジウムで、琉球大学教授高良倉吉氏をコーディナーターとして、沖縄国際大学教授田名真之氏、那覇市歴史博物館主幹宮里正子氏、神戸女学院大学教授真栄平房昭氏、首里城公園管理センター主査上江洲安亭氏、東京大学研究員渡辺美季氏の6名による討論が行われました。

シンポジウムはそれぞれの分野より、現在の琉球与中国の関係史について、故宮から里帰りしたものや文献を軸に、文献や美術史などの分野を超えた議論がなされました。更に、今後はこの展示会を初めとして、北京の故宮博物院と沖縄との共同研究の必要性が述べられました。



開場前の長蛇の列



講座の様子



パネルディスカッションの様子

第380回 「銀が繋ぐ二つの世界遺産～琉球と石見～」

日時 2008/1/17 14:00~16:00 参加者 100名

講師 仲野義文（石見銀山資料館館長）、真栄平房昭（神戸女学院大学教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、企画展「発掘された日本列島展2008」・「沖縄考古学ニュース」の関連催事として実施されました。講師には、石見銀山資料館館長の仲野義文氏と神戸女学院大学教授真栄平房昭氏を招聘して、仲野氏の基調講演と、両氏の座談会を行いました。講座は「銀が繋ぐ二つの世界遺産～琉球と石見～」という主題で行われ、「石見銀山遺跡とその文化的景観」と題した講演と、「16世紀～17世紀における東アジア世界の交易と琉球、石見」についての座談会となりました。

仲野氏からは、古文書にのこされた銀をめぐる当時の状況、真栄平氏からは、交易の中で“スーパー貨幣”としての銀の果たした役割についてなど、これまであまり焦点の当てられていないかった銀をめぐる当時の東アジアの状況について、新たな視点を提供するものとなりました。また、銀に随伴して出土する銅、文献に出てくるスズにも話が及ぶなど、研究者の方にも興味のある内容もあり、多くの方々に満足のいく講演になったと思われます。



仲野氏



前栄平氏



座談会の様子

第381回 「沖縄考古学の現状」

日時 2008/1/24 14:00~16:00 参加者 50名
講師 島袋洋（沖縄県教育文化課 記念物班班長）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

企画展「発掘された日本列島展2008」・「沖縄考古学ニュース」の関連講座として「沖縄考古学の現状」を、県教育文化課記念物班長島袋洋氏を講師として開催しました。

多くの発掘現場と関わりのあった島袋氏からは、「発掘現場の内側からの見方の提示」に主眼を置いた講演内容となりました。「遺跡の意義」「何故、発掘調査を行うのか」「発掘の方法」「発掘調査の成果」「発掘調査成果の活用」を柱に、専門家の立場から分かりやすく解説していただきました。また、遺跡の大切さを一般の方々へ伝えるために、当時の形ができる限り復元するような試みも、今後は必要になるのではないかというお話をありました。

参加者の中からは、「縄文期の人口はどれくらい?」、「最近発掘された武芸洞の人骨の年代は?」、「沖縄島西海岸に遺跡が多い理由は?」などの質問がありました。

今回の講座では、考古学の基本的なことから、今後の遺跡の活用まで含めた内容もあり、多くの方々に満足のいく講演になったと思われます。



島袋氏



映像を使用して分かり易く解説



満足した様子で会場を出る参加者

第382回 「沖縄と奄美の文化を語る」

日時 2009/2/21 14:00~16:00 参加者 80名
講師 津波高志（琉球大学教授）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、「沖縄と奄美の文化を語る－葬送儀礼の外部化を中心に－」と題して、琉球大学法文学部教授 津波 高志氏を招聘して行われました。講座の内容は大きく「奄美における火葬の普及」「風葬から土葬へ」「沖縄と奄美」といった三つの講話が行われました。10年以上にも及ぶ奄美の現地調査の中で見えてきた葬送の内容を、文献資料や画像を使って紹介していただきました。近世以降に違う歴史を持つこととなった沖縄と奄美の間に存在する差異を、「行政命令」、「業者の介入」などを手がかり講話されました。葬送儀礼一つをとらえても、400年の間に異なる支配をうけることとなった沖縄と奄美では、大きく違う展開を見せてきたことが指摘されました。これまで単に「琉球文化圏」として単純にくくられがちであった考え方には、新たな視点を提供するものとなりました。聴講者の中からは、「骨のDNA鑑定」や「風葬のある地域は」などの質問もありました。画像も多く活用され専門家のみならず一般の方々に満足のいく講演になったと思われます。



奄美の墓の映像を見ながら解説



熱心に聞き入る参加者



津波氏

第383回 「ベルリン博物館所蔵の沖縄の染織」

日時 2009/3/28 10:00~12:00 参加者 112名
講師 祝嶺恭子（県立芸術大学名誉教授）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、「ベルリン博物館所蔵 沖縄の染織」と題して、沖縄県立芸術大学名誉教授祝嶺恭子氏を招聘して行われました。講座は大きく「琉球の染織が欧州で収集された経緯」「琉球の染織調査の概要」「調査の方法と内容」について講話が行われました。ドイツをはじめとするヨーロッパの国々が、琉球王国の資料の収集を、どのような目的で行い、戦争を経てどれくらいの資料が残されているか報告されました。半年間の限られた調査期間の中で、1日に6件程の詳細な資料調査をこなしていくなど、厳しい条件に熱意をもってあたられた様子も報告されました。ベルリンのほかにも、オーストリアやイギリスなどにも残された資料があることが報告され、染織資料が裂地（きれじ）として分断され、複数の博物館が所蔵しているなど、総合的な調査だからこそ分る興味深いお話をありました。博物館の講堂には、祝嶺氏によって再現された多くの資料も展示し、解説されていたことから、専門家ののみならず一般の方々に満足のいく講演になったと思われます。



講座の様子



祝嶺氏



調査書を見る参加者

3 学芸員講座・展示解説会・バックヤードツアー

学芸員講座は、本年度から新設された講座で、博物館文化講座の中で、博物館職員の担当していた講座を学芸員講座として位置付けて実施し、今年度は190名の参加があった。次年度からは、博物館の全学芸員が年に一講座を受け持つ形で開催する予定となっている。

展示解説会は、常設展の展示解説と、特別展・企画展の展示解説とを開催している。展示解説会では、博物館の展示内容に関する資料など、学芸員の広い視点から分かり易く解説している。また、展示資料がどのようなねらいのもと、展示されているかを知り、総合博物館の資料のつながりを理解できるような内容となっている。今年度は530名の参加があった。

バックヤードツアーは、博物館をより知ってもらうことをねらいとして開催した。普段入ることの出来ない展示準備室などの部屋を学芸員が施設案内し、好評を博した。今年度は126名の参加があった。

(1) 博物館学芸員講座等実施要項

① 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

② 内容

当博物館の自然・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う展示品解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画する。

③ 実施日と場所

学芸員講座 偶数月の第1土曜日 14:00~16:00 場所：博物館講座室

展示解説会 毎月第2・第4日曜日 10:00~11:00 場所：常設展示室

バックヤードツアー 毎月第4日曜日 11:00~12:00 場所：博物館内(展示準備室や室工作室などの諸室)

※学芸員講座の内、第3回夏休み子ども相談週間については別紙4参照（P86）

④ 受講方法

※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

（公平を期すため、館長による抽選。）

※抽選の場合、当選者には、すぐに当選の連絡通知を行う。

学芸員講座

回数	日 程	分 野	講師名	内 容	定員
1	4月27日	考 古	羽 方 誠 (当館学芸員)	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う。	100
2	6月7日	歴 史	稻 福 恭 子 (当館学芸員)	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う。	100
3	8月2日～8月8日	夏休み子ども相談週間	当館学芸員	博物館の機能を紹介し、館を通した沖縄の自然、歴史、文化についてレファレンスサービスを行う。	
4	10月4日	自然史	知 念 幸 子 (当館学芸員)	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う。	100
5	12月6日	美術工芸	平 川 信 幸 (当館学芸員)	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う。	100
6	2月7日	人 類	山 崎 真 治 (当館学芸員)	学芸員研究成果の報告や収蔵品の紹介を行う。	100

展示解説会

分野	日 程	講師名	内 容	定員
自然史	4/13 7/27 10/26 2/8	田中 聰(当館学芸員) 知念 幸子(当館学芸員)	総合展示自然部門展示室の展示解説をする。	15
人 類	6/22 10/12 1/25	藤田 祐樹(当館学芸員) 山崎 真治(当館学芸員)	総合展示の人類についての展示解説をする。	15
考 古	4/5 8/10 11/9 2/22	羽方 誠(当館学芸員)	総合展示考古部門展示室の展示解説をする。	15
美術工芸	6/8 9/28 1/11	平川 信幸(当館学芸員)	総合展示美術工芸部門展示室の展示解説をする。	15

歴史	5/11 11/23	8/24 3/8	稲福 恭子(当館学芸員)	総合展示歴史部門展示室の展示解説をする。	15
民俗	5/25 12/14	9/14 3/22	岸本 敬(当館学芸員)	総合展示民俗部門展示室の展示解説をする。	15

バックヤードツアー

期 日	講師名	内 容	定員
4/27 10/26	赤嶺 敏(当館学芸員)	普段見る事の出来ない博物館内の各部屋を見学する。	12
5/25 11/23	萩尾 俊章(当館博物館班長)		12

(2) 学芸員講座実施状況

第1回学芸員講座「首里城発掘」

4月27日 分野：考古 参加者：27名
担当学芸員：羽方誠

状況

学芸員講座は、本年度から新たに設けられた講座です。旧館時代に文化講座として、外部の専門家や研究者等をお招きして講和いただく内容と、博物館学芸員の行う講座を文化講座の中でまとめて実施してきたが、新館移転にともない、本講座を文化講座と分けて実施することとしました。今回はその第一回目となる講座となりました。「首里城発掘」と題した講座は、当館主任羽方誠により、自らが沖縄県埋蔵文化財センター在任中に担当した発掘現場の解説を、写真を活用しながら解説を行いました。講座の内容は、首里城の概要、発掘調査の概要、発掘調査の成果、といった解説が行われました。解説に用いられた画像の中には、発掘現場の普段公開されていないものも含まれており、現場に立ち会った担当者であるからわかる発掘に関する内側からの報告で興味深いものとなりました。また、出土した遺物についても一つ一つ説明もあり、考古関係者以外の参加者にもわかりやすい内容となりました。

第2回学芸員講座「博物館展示資料から歴史を探る」

6月7日 分野：歴史 参加者：34名
担当学芸員：稲福恭子

「博物館展示資料から歴史を探るー歴史分野を中心としてー」と題された今回の学芸員講座では、当館学芸員稲福恭子により、博物館新館に至るまでの資料調査の中から、古い地図とのろし(火立)を中心に二部構成の解説が行われました。一部では博物館所蔵の「琉球国惣絵図(間切集成図)」から見える近世琉球の一端として、絵図の概要、現存数、内容等について説明が行われました。二部では、近世火立のネットワークから見える首里王府の政策として、海上監視のシステム、情報の受け継ぎ、火立所の場所、最近の火立所、について解説がありました。いずれの解説資料も、博物館総合展示室の中で使われている資料で、講座の内容が直接的に展示資料と結びつく内容となりました。

第3回学芸員講座「地球の履歴書」

10月4日 分野：自然史 参加者：32名
担当学芸員：知念幸子

「地球の履歴書」と題した今回の学芸員講座では、地質分野の中でも太陽や地球の誕生からといった、太古の時系列をたどる、地質学のガイダンスといった内容となりました。当館の自然史地質分野を担当する知念幸子主任学芸員により、講座のはじまりで提示した、履歴書の中に地球の名称や年齢等を書き込みながら進められた講座には、参加者が地質学という難しそうな文字や数字を、身近な人間の来歴にたとえながら、理解していただくというねらいが込められていました。

講座内容は、「太陽」「地質時代」「大気組成」「白亜紀は…」「隕石の落下地点」「類人猿から人の出現」「温暖化の与える影響」「環境家計簿」等それぞれの時期に起こった大きな変化

を話題としながら、ゆるやかに移り変わってきたこれまでと、産業革命以来の急激な変化にも触れ、人類が自然環境に与えていることまで触れる内容となりました。今回は展示資料や研究成果の報告という内容というよりは、地質学の概要と、環境問題への提言というものとなり、地質学の専門家以外にもわかりやすいものとなりました。

第4回学芸員講座「琉球をとりまく絵画の世界」

12月13日 分野：美術工芸 参加者：44名
担当学芸員：平川信幸

「琉球をとりまく絵画の世界」と題して、当館学芸員平川信幸により美術工芸の講座が行われました。「琉球絵画」という分野の定義について解説があり、古琉球期、近世琉球期、王国末期それぞれに活動した絵師を中心に残された絵画作品から解説を行いました。絵画作品の解説は、博物館所蔵の「江戸上り行列図」「奉使琉球図」「雪中雉子の図」「花鳥図」等を中心に、いつ、どこで、何のために、なにを、だれが、いかにしてといった観点で行われました。参加者の中からは、現在開催中の特別展に関する染織品や漆器などについての質問も多く出され、展示会と関連する講座ともなりました。今回の講座を通して「琉球絵画」という一つの分野があることを、美術工芸の関係者以外にも伝わる内容となりました。

第5回学芸員講座「武芸洞の6000年—沖縄の人類史を掘るー」

2月7日 分野：人類 参加者：30名
担当学芸員：山崎真治

「武芸洞の6000年—沖縄の人類史を掘るー」と題して、当館専門員山崎真治による講座が行われました。講座のはじまりでは、考古学の時代区分、遺跡の種類、日本・沖縄・世界の洞穴遺跡についての分かりやすい解説があり、本題の武芸洞の概要について説明がありました。平成19年度と20年度に実施した武芸洞調査では、掘り出された遺物の出土状況やその遺物や人骨の特徴が、他地区から出土しているものと比較しながら報告されました。また、石棺墓が南部地区ではじめて見つかったことや、貝のアクセサリーが腕に巻かれたと思われる状況で見つかるなど、これまでにない発見のあったことが発表されました。受講者の中からは、「港川人の年代判定」「港川人がどこからきたか」「洞窟・洞穴の使い分け」などの質問がありました。今回の講座では、沖縄県立博物館・美術館と沖縄更新世遺跡調査団の行っている武芸洞発掘調査の二年間分の結果について、初心者の方にもわかりやすい講座となり、多くの参加者が満足されたと思われます。



展示解説会の様子



学芸員講座の様子①



学芸員講座の様子②



学芸員講座の様子③



学芸員講座の様子④



バックヤードツアーの様子

(3) 展示解説会実施状況

	年月日	分野	担当	参加者（名）
1	H20. 4. 5	考古	羽方	4
2	H20. 4. 13	自然史	知念	14
3	H20. 5. 11	歴史	稻福	16
4	H20. 5. 24	企画展	全学芸員	73（4回）
5	H20. 5. 25	民俗	岸本	14
6	H20. 6. 8	美工	平川	29
7	H20. 6. 22	人類	藤田	12
8	H20. 7. 27	自然史	田中	25
9	H20. 7. 27	企画展	知念	65（3回）
10	H20. 8. 10	考古	羽方	15
11	H20. 8. 24	歴史	稻福	29
12	H20. 9. 14	民俗	岸本	18
13	H20. 9. 27	企画展	岸本	9
14	H20. 9. 28	美工	平川	15
15	H20. 10. 12	人類	藤田	12
16	H20. 10. 26	自然史	知念	23
17	H20. 11. 9	考古	羽方	10
18	H20. 11. 22	特別展	平川	37
19	H20. 11. 23	歴史	稻福	12
20	H20. 12. 14	民俗	岸本	7
21	H21. 1. 11	人類	藤田	9
22	H21. 1. 24	特別展	羽方	17
23	H21. 1. 25	美工	平川	10
24	H21. 2. 8	自然史	田中	8
25	H21. 2. 22	考古	羽方	11
26	H21. 3. 8	歴史	稻福	17
27	H21. 3. 22	民俗	岸本	14

(4) バックヤードツアー実施状況

日時	平成20年4月27日	10時～11時
状況	親子参加4組	一般4名 ボランティア1名 合計13名 萩尾・安元・宮平
質問	収蔵庫は、今後増えていくであろう資料にどのように対応するか？ 資料室の図書の閲覧はできるか？ 港川人骨は、どの部屋に保存されているか？	
日時	平成20年5月25日	11時～12時
状況	親子・夫婦2組	一般5名 ボランティア1名 合計10名 萩尾・安元・宮平
質問	大型収蔵庫にて・・・地震対策は？ 冷凍室にて・・・はく製にするには幾らかかるの？ 展示準備室にて・・・展示替えはどのくらいの期間で行うの？ 展示準備室にて・・・美術館の資料数は？	
日時	平成20年6月22日	11時～12時
状況	一般10名	ボランティア1名 合計11名 赤嶺・安元
質問	トランクヤードにて・・・どのような資料がここから入ってくるか？ 図書資料はどのように整理を進めようとしているか。ボランティアは？ 修理修復室で行われる修理には何があるか？	

日時	平成20年7月27日	11時～12時
状況	一般11名 友の会ボランティア1名	合計12名 萩尾・町田
質問	冷凍庫・・・死体の内臓は入った状態か？ 撮影室・・・カメラの種類は？	
日時	平成20年7月27日	11時～12時
状況	一般9名 友の会ボランティア1名	合計10名 赤嶺・福島
質問	博物館の職員の構成は…教育委員採用の学芸員4人と高校3人中1人の職員で構成。 施設で想定外はあるか…倉庫スペースがかなり小さくなってしまった。 学芸員採用の見通しは…今のところは情報として聞いていない。	
日時	平成20年9月28日	11時～12時
状況	一般1名 友の会ボランティア7名	合計8名 萩尾・宮平・町田
	一人、収蔵庫の壁や部屋の作り、エレベーターなどを隈なく見る方がいた。 写真には映らない様に避けるなど、少し怪しい動きをしていた。	
日時	平成20年10月26日	11時～12時
状況	一般1名 友の会ボランティア4名	合計12名 赤嶺・安元
	ツアーに、共有部分の熱源機会室2を加えた。（節電・外への排気なしを解説） 展示室とバックヤード比較して何倍あるかの質問。(およそ三倍近くと返答) HPへの掲載の効果があつてか、希望者多数につき抽選となる。	
日時	平成20年11月23日	11時～12時
状況	一般6名 友の会ボランティア6名	合計12名 赤嶺・中村
質問	共有部分の熱源機械室2の解説。（節電・外への排気なし他） 写真パネルはどこでだれが作成するか。 「港川人骨」はどこに収蔵されているか。	
日時	平成21年1月25日	11時～12時
状況	一般12名 ボランティア1名	合計13名（内・幼児2名、子供3名）抽選選出。 萩尾・宮平・玉城
質問	ボランティアはキャンセルが入ったので、追加参加。（事前申し込みをしたようだが、受け付けられていなかった）また、展示解説会に参加していた方がここも参加したいということで、1名追加。 幼児の参加については、説明しているそばで、おしゃべりしたりするので、他の参加者の迷惑を考えると3歳以下の参加は検討を要する。 1階の後ろにも展示準備室はあるのか？	
日時	平成21年2月22日	11時～12時
状況	一般4名 合計4名 赤嶺・中村	
質問	当初予約してあったグループのキャンセルにより、4名でのツアーとなった。小人数であるため、その都度質問を受けながら巡回したため、いつもより10分ほど長いツアーとなった。 液浸標本の液は、昔からのモノか入れ替えがあるのか。	

4 夏休み子ども相談週間

(1) 趣旨、目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化についてレファレンスサービスをおこなう。

(3) 実施日と場所

実施日 平成20年8月2日(土)から8月8日(金)まで

時間 午前は9時30分～12時、午後は1時～3時30分までとする。

場所 特に指定のない場合は、博物館実習室

(4) 相談方法

- ① 応募用紙を作成し、事前に質問事項を提出する。
- ② 相談希望者が、博物館に来館して相談を受ける。
- ③ 各分野の担当学芸員日程表を表示する。
- ④ 一般的に応対のできない相談は、担当分野の学芸員が対応する。
- ⑤ 相談内容によっては、博物館ボランティアの活動の場とする。
- ⑥ 分野が異なる質問は、記録を取り、後日担当者が返答する。

	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日
	土	日	月	火	水	木	金
午前	考古 人類 民俗	自然史 歴史	休館日	自然史 美工	歴史 自然史	民俗 考古 人類	美工 自然史
午後							



岩石の質問



植物の質問

季節風

○…小中学生の疑問に博物館学芸員が答える「博物館子ども相談会」が2日、那覇市おもろまちの県立博物館・美術館で始まった=写真。

○…初日は事前に予約した那覇市立前島小学校5年の喜納泰寛君と弟で同3年の景大君が来館。「沖縄の城・グスクを知りたい」と、それぞれ考古と民俗担当の学芸員から個別で丁寧な説明を受けた。



○…夏休みの自由研究などもアドバイスする同相談会は無料。4日の休館日を除き8日まで。希望者は午前9時半から正午、午後1時から同3時半まで受け付ける。

新聞掲載

V ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の施設について

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示展開される“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。

この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や屋外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」を触れる・見る・聞くなどの五感を通して体験できる操作や組立てるなどの遊びを通して学ぶことで、展示資料を深く学ぶことが出来ます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてがふれることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料にふれあうことで目的が達成されるものとして準備されています。来館者が資料に主体的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“「自然のしくみ」や「先祖の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

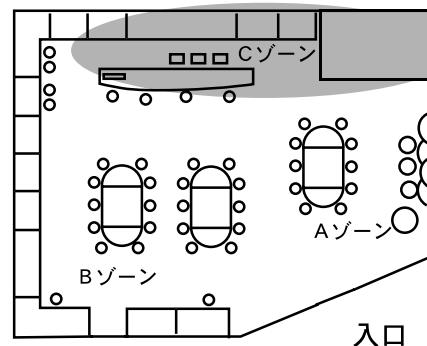
(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用する事を基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室内では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

キットの分類

キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループA	<ul style="list-style-type: none">直接的に（一見して）内容が分かる。 (見る、触る 等)安全性、耐久性が高い。	<ul style="list-style-type: none">来館者が自由に出し入れ出来る。 *来館者への手助けは少ない。
グループB	<ul style="list-style-type: none">簡単な操作で内容が分かる。 (聞く、比べる、開ける、押す 等)安全性がある程度確保されている。 耐久性がある。	<ul style="list-style-type: none">来館者は自由に出し入れできる。来館者によっては、手助けが必要な場合もある。
グループC	<ul style="list-style-type: none">作業を通して仕組みや内容が分かる。 (組み立てる、作る、分類する 等)細かい部品や安全面での指導、管理を要する。破損、磨耗しやすい等、耐久性が低い。	<ul style="list-style-type: none">スタッフを介してキットを受け渡し、介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者への手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル	
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ?	1	サインを見逃すな!	自然史
			2	小さな世界～小さないのちの大きな仕事～	
	地史	自然のすがた	3	耳をすませば	
			4	この骨だれの?	
			5	サンゴと生きる	
	地史	地下にねむる歴史のなぞ	6	いろいろなタネ	
			7	いろいろな木と草	
			8	いろいろな石と砂	
			9	見える星座・見えない星座	
	人々のくらし	食の知恵	10	化石～生きていた証～	考古
			11	港川人	
			12	土層と出土品からわかること	
			13	石で築く	
			14	ヌチグスイ	
	人々のくらし	食の習わし	15	イノー～海の食料庫～	民俗
			16	御三味(ウサンミ)	
		生活のくふう	17	いろいろな道具	
		沖縄のコトバ	18	島のコトバ	
		シマの心	19	いろいろな玩具	
			20	いろいろな楽器	
	人々のくらし	色のひみつ・形のふしぎ	21	衣からわかること	美術工芸
			22	焼物～かたちのわけ～	
			23	漆～飾るたのしみ～	
	人々のくらし	国のかたち	24	印かんってなに?	歴史
			25	島のかたち	
			26	記録のくふう	
			27	国々のおつきあい	



No.18 島々のコトバ



No.13 石で築く



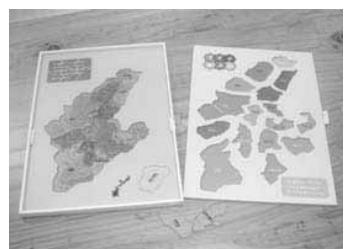
No.1 サインを見逃すな！



No.17 いろいろな道具



No.22 烧 物



No.25 島のかたち(コチズエホン)



No.16 御三味 (ウサンミ)

3 スタッフの配置状況

常駐職員1名と、1日3交替のボランティアスタッフ1~2名で運営しています。今期のボランティアスタッフは、曜日別の班で活動を行っており、班内で連絡調整をすることにより、安定した運営を維持してきました。

また、ボランティアスタッフは、職員では対応しきれない豊富な知識や経験を活かし、熱心に活動する姿が見られました。ふれあい体験室は、ボランティアスタッフのサポートなしには、成り立たなかったと言えるでしょう。

4 利用者状況

今年度のふれあい体験室は、開設より1年を迎え、利用者のニーズや問題点なども見えてきた年でもありました。

利用者のニーズという面では、リピーター対策が挙げられます。何度も来ても楽しめるような環境づくりと、利用者の多くを占める未就学児童にも適応できるよう、新しいキットの開発も課題となっています。

一方、キットの劣化・破損・欠損に対する修繕や補充が追いつかないことが問題点として挙げられます。

そのため、11月には「ふれあい体験室講座」（※1）と題した工作教室を開催し、収益がキットの修繕費用に充てられました。このような企画は"飽きない環境づくり"という点でも、企画開発や運営に役立てる事ができる内容である上、今後は定番化を目指していきたい。

夏休み期間中には、企画展「恐竜ミュージアム2008」との相乗効果もあり、多くの利用者がふれあい体験室に集中したため、入場制限（定員30名）を行いました。

また、多くの養護学校の利用や、琉球大学教育学部の学生による研究授業への利用も実施しました。

ふれあい体験室は、当初の目的以上に様々な活用方法があり、多くの可能性を持った場所だといえるでしょう。

5 その他

タイトル：ふれあい体験室講座

内容：マーニー細工を作ろう

日時：11月3日（祝）①10:00～11:00 ②14:00～15:00

講師：上運天研成氏（おもちゃの会ピノキオ会長）

定員：各回親子20組（当日先着順）

参加費：500円

参加人数：合計25組（午前10組、午後15組）



VI ボランティア養成事業

1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項 平成20年2月13日 館長決済

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第2条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第3条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票（第1号様式）により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長（以下「館長」という。）が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第2様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証（第3号様式）を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

(研修)

第4条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、隨時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第5条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第6条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則

この要項は、平成5年7月1日から実施する。

この要項は、平成12年8月1日から実施する。

この要項は、平成20年2月13日から実施する。

2 博物館ボランティア活動養成事業実施要項

(1) 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場を提供するため、博物館支援活動を計画する。この活動は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かで適切なサービスへも寄与する。

(2) 主催 沖縄県立博物館・美術館

(3) 内容

- ・ 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア実施要項に基づき実施する。
- ・ 常設展示や企画特別展示の案内ならびに普及部門の支援ができるように養成講座を実施する。

(4) 場所 沖縄県立博物館・美術館講堂及び博物館講座室

(5) 対象

- ・ 「沖縄博物館友の会」のボランティア部会とともに活動できる方。
- ・ 沖縄県立博物館・美術館において養成講座を受講後、ボランティアとして活動に参加する意欲のある一般成人。
- ・ 月曜日をのぞく、火曜日から日曜までのいずれかの曜日で二週間に半日以上活動できる方。

(6) 申込期間及び方法

- ・ 平成20年4月9日～4月25日
- ・ 電話連絡による申込（定員を超える場合は、先着順とする。）

(7) ボランティア講座・登録日程

- | | |
|-------------|--------------------|
| ・ 蓋集期間 | 平成20年4月9日～25日（金）まで |
| ・ 説明会 | 平成20年5月 |
| ・ 基礎講座 | 平成20年5月～6月 |
| ・ ボランティア任命式 | 平成20年8月 |
| ・ 正式登録 | 平成20年8月 |
| ・ 専門講座 | 平成20年9月～10月 |

(8) 講座内容

回数	内 容	日 時		担 当
1	博物館活動について	5月16日(金)	養 成 講 座	萩尾班長
2	博物館ボランティアについて	5月23日(金)		赤嶺
3	歴史・民俗	5月30日(金)		稻福・岸本
4	考古・美術工芸	6月6日(金)		羽方・平川
5	自然史・人類	6月13日(金)		田中(知念)・山崎(藤田)
6	ボランティア実習	5月～6月	実習	赤嶺・宮平

3 平成20年度 博物館ボランティア専門講座実施計画

(1) 目的

本講座は、博物館の登録ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点にしながら、ふれあい体験室の体験キットや『博物館学習ノート』の意図を理解し、ボランティア活動を円滑に行えるようにする。

(2) 対象 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア

(3) 期日・時間

平成20年9月12日（金）～10月31日（金）
18:00～20:00（2時間）

(4) 場所 沖縄県立博物館・美術館講堂及び講座室

(5) 内容

第一回目：講座は、講堂で実施する。

第二回目：以降は、講座室、ふれあい体験室、展示室の三ヶ所でそれぞれの学芸員が解説し、受講生は40分単位で班別に移動する。

◎ 講座室・展示室：『博物館学習ノート』の解説を行う。

◎ ふれあい体験室：体験キットの解説を行う。

回数	期 日	分 野・内 容			講師
1	9月12日	教育普及活動（学校団体受入）			赤嶺
		講座室	ふれあい体験	展示室	
2	9月19日	歴 史	考古	美工	稻福・羽方・平川
3	9月26日	美 工	地質/化石	生物	平川・知念・田中
4	10月 3日	考 古	美工	民俗	羽方・平川・岸本
5	10月10日	地質/化石	生物	人類	知念・田中・山崎
6	10月17日	人 類	民俗	歴史	藤田・岸本・稻福
7	10月24日	生 物	人類	地質/化石	田中・藤田・知念
8	10月31日	民 俗	歴史	考古	岸本・稻福・羽方

※『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。

※台風時の講座については、バスの運行があれば実施します。

※飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。（ガムを含む）

※今回の専門講座の補講は、設定できません。

4 博物館ボランティアのてびき

沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア

(1) 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

(2) 活動の方針

- ① 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- ② ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- ③ 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- ④ ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

(3) ボランティアの活動内容

① 活動内容

学校向け展示ガイドと体験サポート及び新聞等資料整理

② ボランティアの担当する職務

ア 展示ガイド

「常設展示室」における展示解説、質問対応など

イ 活動支援

「誘導」「ふれあい体験」「体験学習教室」における体験学習サポートなど

ウ 企画調整

ボランティアへの連絡 新聞資料整理

③ ボランティア活動の場所、人員の配置予定

	活動の内容	場所	指定管理者担当	ボランティア
ア	常設展示対応	ふれあい体験室	1人	2~3人
イ	学校団体対応	総合・部門展示室	1~2人	各室1~2人
		民家・実習室		実習室5~8人
ウ	体験学習教室	民家・実習室	1人+外部講師	5~8人
エ	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	なし	2~4人

④ 運営体制

- ア 博物館ボランティアは、友の会員の希望者と養成講座履修のボランティアとします。
- イ 博物館職員に人文系、自然史系、教育普及の正副担当者をおきます。
- ウ ボランティアに正副会長及び各分野正副の世話係をおきます。
- エ 登録初年度のボランティアに曜日担当世話係をおきます。
- オ 博物館担当者・分野及び曜日の世話係・友の会・文化の杜によるボランティア運営委員会を月一回開催します。
- カ 友の会は、ボランティア活動を支援します。（連絡・調整等）

⑤ 経費

- ア 博物館において、ボランティア活動の保険に入ります。
- イ 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。

⑥ 活動日、時間、回数

- ア 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- イ 活動時間は、9時から閉館時間までとします。
- ウ 活動回数は、2週間に半日以上とします。

⑦ 遵守事項

- ア 博物館の諸規則には従ってください。
- イ 博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
- ウ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。

エ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないでください。

⑧ 活動中の事故

- ア ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアまたは他人が怪我した場合は、ボランティア保険の対象となります。
イ ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身がその責を負うことになります。

(4) ボランティア活動の組織

① 役割分担

- ア 総括 教育普及担当
イ ボランティア担当

		主担当	副担当
ア	教育普及班	赤嶺	宮平
イ	自然科学班	山崎	田中
ウ	人文科学班	羽方	稻福

② ボランティア担当の役割

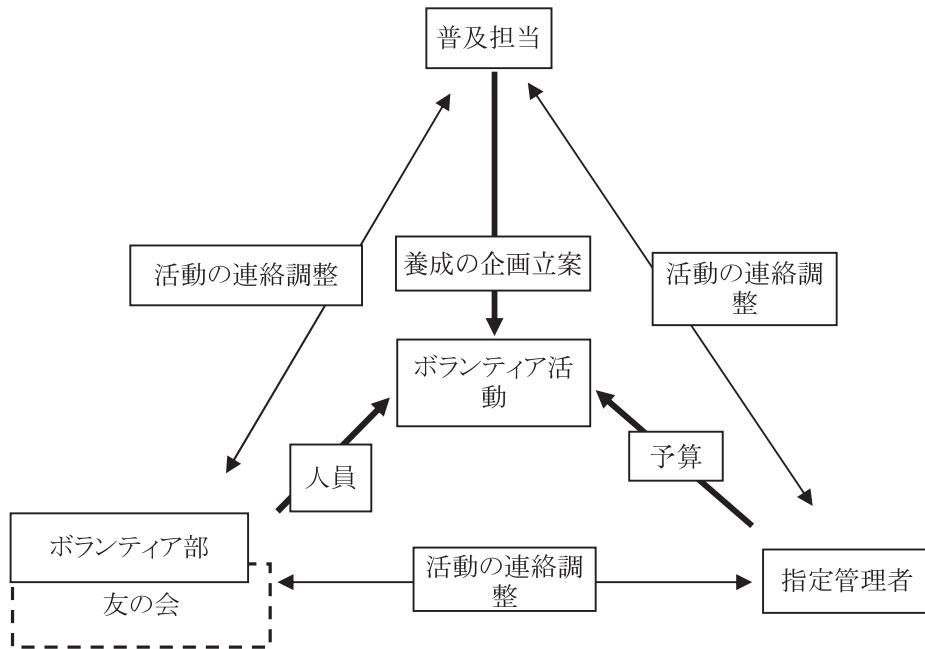
- ア ボランティア応募にかかるそれぞれの班の受付、班員の推薦文。
(決定後の通知用紙は、教育普及担当が準備。)
イ それぞれの担当の講座の際の、会場、放送機器取扱、会場整理、出席点検等。
外部講師等の場合については、教育普及が担当。
ウ ボランティア養成後の活動に関する企画、調整の補助。

③ ボランティアの分野別役員

- ア ボランティアの活動を活性化させるために、ボランティア部長・分野に正副の世話係を置きます。
イ ボランティア部長は、ボランティア活動を総括し、副部長は部長を補佐します。
ウ 正の世話係は分野を代表し、各分野の学芸員と連携を取り、副の世話係は正を補佐します。
エ 世話係は、学習会の企画をし、ボランティア室において、全ボランティアに告知する。
オ 曜日世話係は、「ふれあい体験室」をはじめとする活動の連絡を行います。

	正	副
ボランティア部会長	松川潤一郎	
人類		
自然史	潮平	吉見
考古		安村
美術工芸	平田	渡慶次
民俗	宮里	銘苅
歴史	新田	當間
ふれあい体験	仲地	池原
体験学習	喜屋武	真貝・具志堅
曜日世話係(火)	高嶺	
〃(水)	渡久地	
〃(木)	知念	
〃(金)	屋良	
〃(土)	佐々木	
〃(日)	西田	

(5) ボランティア組織図



(6) 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- | | |
|-----------|--|
| (1) 養成講座 | 応募者については、資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。 |
| (2) 登録 | 養成講座受講者のうち、当館が定めるボランティア養成講座を終了した者で、館長の認定した者を正式登録者とします。 |
| (3) 登録の更新 | 登録の活動期間は1年とします。但し、継続を希望し所定の更新研修を終了した者は再登録とします。 |
| (4) 登録の抹消 | 登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は登録を抹消することがあります。 |
| (5) 登録カード | 登録者には登録カードを交付します。活動時は携帯してください。
ボランティアの継続が出来なくなった際には、カードは返却するものとします。 |

(7) ボランティア活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らして、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それにもとづいてボランティア活動を改善計画の作成に資することを目的とします。（評価様式は別に作成する）

- (1) 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- (2) 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
- 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- (4) 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。

5 ボランティア活動の細則

(1) 活動内容

各活動区分における活動の主な内容は以下の通りです。

① 展示解説ボランティア

ア 学校団体向け常設展示解説補助

　　総合・各部門展示解説補助

イ 特別・企画展解説補助

　　特別・企画展示室における解説補助

② 活動支援ボランティア

ア 誘導

イ 体験学習補助

　　体験教室・講座・観察会・移動博物館等における指導補助

ウ ふれあい体験室

　　ふれあい体験室における活動補助

エ 各種行事の際の指導補助

オ 屋外展示室の活動補助

③ 企画調整

ア ボランティアへの連絡 新聞資料整理

(2) 研修プログラム

① 養成講座……1日2時間で10日間 合計20時間

　　例：館長講話、副館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座

② 専門講座……1日2時間で2日間 合計4時間

　　例：博物館学習ノート、体験キット解説、施設の見学等

③ 更新研修……1日2時間で2日間合計4時間

④ 臨時研修……必要に応じて随時実習

　　例：企画展の解説等

(3) 表彰及び昇格規程

① ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰します。（評価の方法は今後検討）

② 最初に正式登録された時点でボランティア初級に認定し、その後2度登録を更新したものを中級とします。

(4) ボランティア活動時の服装等について

① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書としてボランティア登録カードを交付します。

② ボランティア活動を行う場合は、原則として県職員の身なりに準ずるものとし、ボランティア登録カードを身につけるものとします。

(5) ボランティア室の使用について

① ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。

② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。

ア 日程、連絡等のボランティア活動の掲示

イ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用

ウ 来館者を発見へと向わせるような発問研究

エ ボランティアのための休憩

③ ボランティア室には勝手に私物をもちこまないでください。

（個人の持ち物は、自己の責任で管理してください。）

④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時間までとします。

⑤ ボランティア室は原則として使用したものが清掃するものとします。

6 博物館継続ボランティア 登録証交付式

(1) 趣旨

- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営面で更改された事項を確認する。
- ・新職員の紹介をする。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

(2) 日時

平成20年4月30日（水） 博物館講座室 18時から

(3) 場所

博物館講座室

班長 副館長 館長

司会

(4) 式順

- | | |
|--------------------|----|
| ① 館長あいさつ | |
| ② 登録証 交付 | |
| ③ 新職員あいさつ | |
| 副館長 | |
| 岸本 | |
| ④ 本年度のボランティア活動について | 赤嶺 |
| ⑤ 友の会の活動紹介 | 宮城 |
| ⑥ 質疑応答 | |
| ⑦ 事務連絡 | |

継続ボランティア 登録証 交付 館長挨拶

ボランティアの皆さん、今年度も継続ボランティアとして活動されるということで感謝申し上げます。昨年度ボランティアの皆さんには、展示ガイドや誘導、体験サポートと学校団体を中心とした支援活動にご援助いただき大変感謝しております。皆さんのおかげをもちまして、特に博物館を利用した学校へのアンケートでは、ボランティアの対応が大変すばらしいとの声が多く寄せられております。今年度は、新館が開館したことが周知され外部からの期待も、さらに大きくなるものと考えられます。これまで新館に向けて準備されてきた展示やスタッフの対応の真価が問われる年度になるともいえると思います。

さて、博物館ボランティアのねらいは、大きく三つあります。ひとつは、自己研鑽です。生涯学習の一環で、大いに博物館を通して学習してください。二つ目は、社会への還元です。学習したことを支援活動としてその力を発揮してください。その活動の中からまた、疑問点が見えてくると思います。そこからまた本来の学びの深化へつながっていきます。三つ目は、仲間作りです。博物館を通して人的なネットワークを構築し、楽しく学習してください。沖縄を学ぶために本館以上に実物資料をはじめとする資料が準備できるところはありません。たくさん実践し、博物館を通して学ぶ県民の橋渡しとして大いに活動してください。

また、博物館のボランティア活動の中で、友の会との位置づけがどのようにになっているのかという疑問を、多くの皆様からお聞きしております。新館での活動に向けて、友の会とボランティアの皆さんのが、両組織を一元化するということで、話し合いが進められてきたことは、館としても承知しております。早急に一元化における運営の在り方を関係機関と連携を取りながら検討していきます。

生涯学習の場として、博物館にたくさん足を運び多くの情報を得て、多くの友人をつくる機会もつことが、友の会の原点であると考えます。ボランティア活動に参加されながら、友の会の勉強会や事業に賛同できる方は、できるだけ友の会に入会していただき、活動していくことをお願いいたします。

これからますます博物館が発展していきますよう、皆様のお力添えをお願いしたい考えています。来館者の皆様に、まさに博物館と県民をつなぐ窓口として、良きアドバイザーとしての活躍を期待しております。

7 博物館ボランティア 登録証交付式

(1) 趣旨

- ・博物館ボランティアの登録にあたり、運営面の方針等を確認する。
- ・職員の紹介をする。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

(2) 日時

平成20年9月5日（金） 18時から

(3) 場所

沖縄県立博物館・美術館 講堂

(4) 式順

- | | |
|----------|---------|
| ① 館長あいさつ | 代表者（　　） |
| ② 登録証 交付 | 副館長 |
| ③ 職員の紹介 | |

(5) 全体会

- ① 本年度のボランティア活動について
- ② 友の会の活動紹介
- ③ 質疑応答
- ④ 事務連絡

新規ボランティア 登録証 交付 館長挨拶

本日ボランティア登録証を交付されたボランティアの皆さんおめでとうございます。5月16日にスタートした博物館ボランティア養成講座は10回の講座と実習を行ってまいりました。皆さんからの申請を受けて、職員で審議したところ、今回登録が認められたボランティアは61名になります。

皆さんの先輩にあたる第一期のボランティアのみなさんは、展示ガイドや誘導、体験サポートと学校団体を中心とした支援活動に大いに活躍しております。学校の子供たちから寄せられるお礼状の中にも、多くの子供たちからスタッフへの感謝の言葉が述べられております。子供たちに一番接している方が、まさにボランティアの皆さんであり、子供たちからの博物館への感謝は、ボランティアの皆さんへの感謝と言いかえていいと考えております。

さて、博物館ボランティアの皆さんにお願いしたいことが、大きく三つあります。ひとつは、活動の実践です。博物館のボランティアは、支援活動あってのボランティアです。活動の中から見えてくる疑問点に本当の『宝』があります。その疑問を自己学習や勉強会を活用しながら糸口を見出して下さい。そこが二つめのお願いは「自己研鑽」です。さらに、三つ目は、仲間作りです。博物館を通して人的なネットワークを構築し、楽しく学習してください。沖縄を学ぶために、本館以上に実物資料をはじめとする資料が準備できるところはありません。たくさん実践し、博物館を通して学ぶ県民の橋渡しとして大いに活動してください。

博物館はやがて、開館一周年を迎えるとしております。新館が開館したことが周知され外部からの期待も、さらに大きくなるものと考えられます。これからますます博物館の展示やスタッフの対応の真価が問われる年度になるともいえると思います。

この会場におられる一期生のボランティアの皆さんには、どうぞ二期の皆さんを、博物館のボランティア活動に溶け込むことができるよう、リードをお願いします。博物館の学芸員も、ボランティア専門講座や学習会の補助をしていきます。また、沖縄博物館友の会も、皆さんの活動への連絡等で大いにサポートしていきますので、御安心ください。

これからますます博物館が発展していきますよう、皆様のお力添えをお願いします。県民と博物館をつなぐ窓口として、しばらくの間は、特に支援を必要とする学校団体と「ふれあい体験室」での、良きアドバイザーとしての活躍を期待しております。

* ボランティア全体会のお知らせ *

ボランティアの全体会は、4月30日（水）18:00から、会場は1階講堂です。

* 2008年度展示会情報 *

5/13（火）～6/15（日）
 「新収蔵品展～平成19年度収蔵資料～」
 近々、博物館・美術館の年間スケジュールが
 出来るまで、詳しい年間行事はそちらをごらんください***

* 博物館職員の紹介（異動）*

転出	転入	副館長	山根 義治（県教育庁福利課課長）
主任学芸員	主任学芸員	新垣 隆雄（糸満青年の家 所長）	主任学芸員 岸本 敏（那覇高等学校教諭）
主任学芸員	主任学芸員	久場 政彦（県立普天間高等学校教諭）	主任学芸員 園原 謙（城崎中学校教諭）
主任学芸員	主任学芸員	与那嶺 一子（城崎中学校教諭）	主任学芸員 新名 悟（西原中学校教諭）
学芸員	学芸員	園原 謙（平和祈念資料館）	新垣 隆雄（沖縄県立博物館・美術館）

* 5月から事務局体制が充実！ *

「沖縄博物館友の会」の事務局に常駐職員を5月1日から配置することになり、博物館友の会おおよび博物館ボランティアへの連絡業務を一元化することになりました。これまでボランティアからの問い合わせに充分に対応できなかつたことにお詫びをするとともに、これから博物館へのご協力をあらためてお願いしたいと思います。

なお、「沖縄博物館友の会」への連絡及び問い合わせは際は次のとおりとなりますのでよろしくお願いします。

曜日：火曜日から日曜日 時間：午前9時から午後6時
 休日：休館日及び祝祭日 電話：098-868-2722
 e-mail: okhaku-tomonokai@titan.ocn.ne.jp

* 博物館ボランティア登録簿 *

登録番号	氏名	登録番号	氏名	登録番号	氏名
1	赤崎 義房	23	具志堅 直子	42	當間 チズ子
3	安里 審哉	25	久保 好子	43	當銘 直美
4	安座間 正子	27	瀬河 新福	44	徳嶺 楓子
6	新崎 和子	28	柳 節子	45	渡慶次 洋子
7	池原 興和	29	崎山 豪一	47	友利 克実
10	上地 雅子	30	佐久原 好勇	48	中島 邦雄
11	上原 ひとみ	32	瀬平 瑞代	49	長田 由美子
12	大嵩 シゲ	34	嶋袋 浩	50	仲地 フミ
13	大澤 茉莉子	35	眞貝 敏子	51	長嶺 昌代
14	小河内 京子	36	砂川 尚子	54	仲村 枝美子
17	神村 吉次	37	平良 光子	55	名嘉山 美智子
19	北川 佐和枝	38	立崎 昌子	56	波平 恵子
20	木村 桃子	39	田場 勝子	57	西川 恵子
21	喜屋武 稔子	40	玉寄 恵子	59	新田 宗秀
22	金城 きみ子	41	知念 曙子	60	野村 力

* 博物館ボランティア登録簿 *

登録番号	氏名	登録番号	氏名	登録番号	氏名
79	宮良 信男	80	宮良 百合子	81	村田 実
83	銘苅 清貴	84	屋慶名 智絵	85	安村 重博
86	前田 政子	87	前田 利一郎	88	都子 真利子
89	吉見 繼乃	90	与那嶺 彰	97	又吉 健
72	松下 武	73	松野 均	74	宮城 隆
75	名嘉山 美智子	76	宮里 定典	77	宮里 佐代子
78	宮良 友子	79	野村 力	80	野村 康

以上、計71名のみなさんが継続して活動することになりました。今年度もよろしくお願いします！

* ボランティア養成講座が始まりました

今年も新たにボランティアを養成するための講座が始まり、現在75名の希望者が勉強を始めています。5回の基礎講座と実習を経て8月ごろ正式登録し、新しく仲間に加わります。今回は養成講座の中で実習を組み込んでいます。現在どういう活動をしているのかを知つてもらいため、学校の誘導やガイド、ふれあい体験室などで、皆さんのが活動しているのを見学していく内容の実習となっています。7月まで実習期間となっていきますので、先輩方のご協力よろしくお願ひします！

※昨年受けない講座など、養成講座を受講したい方は、受講するところも出来ます。席や資料の関係もあるので、前もってご連絡下さい。
 問い合わせ…電話 851-5401 博物館 赤嶺・宮平

ふれあい体験室をお手伝いしてください
 ふれあい体験室は、展示と運動しているキットへの説明が欠かせません。来館者のみなさんにより深く展示を理解してもらうためにも、ふれあい体験室をお手伝いしてくださる方を募集しています。

* ボランティアの選考から

「ボランティアは楽しい！」友の会副会長 館野厚昭さん

3月の始め、自然室の説明を小学生にして欲しいとの話があり、4年生を対象にボランティアの活動を始めた。しかし、何回か説明をしているうちに、それもピックリしたのは15分で「自然室」を説明してくれることである。しかし、何か説明をしているうちに、それも気にならなくなつた。5月になると急に忙しくなつた。毎週のように小学校か中学生の見学が入つた。小学生はよく説明を聞いてくれるし、また質問も多い。しかし中学生は説明がないでの楽かと思つたら以外と氣疲れする。それに見学態度も一生懸命の子と興味なさそうな子に分かれ、全体として見学の効果がういような印象を持つ。今後の見学方法の問題だ。

新しい組織になっての「友の会」であるがボランティア活動をする人は全体的にまだ少ない。私も初めての活動であるが、意外と面白いものである。一人でも多くの会員の皆さんのが、ボランティアを経験してみることをお勧めします。呆け防止にもなりますよ。

※このコーナーではボランティアとして活動するみなさんの声を紹介していきます

* ボランティアお知らせ

今年も新たにボランティアを養成するための講座が始まりました
 今年も新たにボランティアを養成するための講座が始まります。恐竜ミュージアム2008... 7/15(火)～9/7(日)
 相田みつを全貌展... 9/13(土)～10/13(火)
 すしがめの美と技... 9/17(水)～10/13(火)
 聖なる琉球王国の輝き展... 11/1(土)～12/2(日)
 発掘された日本列島展... 2009/1/9(金)～3/1(日)

このほかに、展示会と関連した文化講座も開かれます！

* 免強会のお知らせ

民俗部門勉強会 6月14日（土）午後2時～4時
 場所：3階会議室

美工部門勉強会 6月15日（日）午前10時～12時
 場所：美術工芸部門展示室

展示内容の勉強会です。定員がありますのでボランティアの募集中に記入して下さい。

* 新聞スクラップ作業が始まりました

5月20日から、新聞記事を切り抜いてスクラップする作業が始まりました。好きな時間に好きなだけ活動できます。場所はボランティア室です。みなさんどしどしが参加下さい！



* 館からのお知らせ *

第2期ボランティア養成講座は終了

今年度のボランティア養成講座は、毎回約60名の受講生が参加し、6月13日をもって無事終了しました。7月末までは、実習を行つてもらい、8月に本登録する予定です。13日現在で、36名の方がボランティア申し込み申請を出しています。今回、学校への実習を入れていただきましたが、見学校が少なかったのでほとんどできませんでした。そこで、ボランティア養成講座受講生を案内するという形で、ボランティア養成講座の皆さんにガイド、説明、実験などをしていくべきだとき、学校対応の方を体験していただこうと計画していました。日時は、6月20日(金)18:00～20:00です。次回の通信で、報告したいと思います。

* * * 受講生から * * *

第2期ボランティア養成講座受講生 山城代子さん
○ふれあい体験室に入つて○
初めての実習は、やはり緊張しましたが、先輩ボランティアさんのおかげで、次から次へと来室してきた方々へいろいろなキットを紹介しながら、私自身とても楽しくあつと言う間に美智初日を終了することが出ました。特に、外国の方が長時間在室し三線や民具などを見たり、触ったり身につけたりしていたのが印象に残っています。宝物がいっぱいいました“ふれあい体験室”、機会を作つて、又参加出来たらと思っています。

* 館からのお知らせ *

館内消毒 6/30(月)～7/11(金)

上記期間中は館内には立ち入りできません。
ご注意ください

* 7月の行事 (博物館) *

《展示会》 恐竜ミュージアム 2008.7.15(火)～9/7(日)
《講座、解説会など》 恐竜展シンポジウム・... 7/26(土)
恐竜展シンポジウム・... 7/27(日)
常設展示自然史部門解説会・... 7/27(日) 10時～
《ワークショップ》 植物標本作りワークショップ・... 7/20(日) 8/17(日)

* 7月の勉強会 *

歴史部門勉強会 7月12日(土) 午前10時～12時 場所：研修室
民俗部門勉強会 7月12日(土) 午後2時～4時 場所：3階議論室 定員30名
美工部門勉強会 7月20日(日) 午前10時～12時 場所：3階議論室 定員15名
定員がありますので、参考希望の方は
ボランティア室の募集用紙に記入して下さい。

* ボランティアの現場から *

「文化ボランティア部長を、友の金剛金長、松川潤一郎さん命じられて」

沖縄は時雨の季節とはいえ、毎日暑い日が続いておりますが、会員の皆さまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。ところで私は去る6月の運営委員会において、星会長から文化ボランティア部の部長を命ぜられ受諾致しました。星会長の意図するところは、「今年度のボランティア養成講座も終了し、新しくボランティア活動に情熱をもつて参加する新会員も迎えたところで、君のボランティア活動の実績(平成10年から今日まで、県立博物館ボランティア活動を続けております)を生かして、ボランティア活動のより活性化を図つてくれ」との想いからのご指名だと受け止め、責任は重いが微力を尽くして頑張りたいと思います。つきましては会員各位のご支援、ご協力下さるようお願いします。

ボランティアは楽しくなければ永くは続きません。また強制観念では面白くありません。楽しく、自由に、自分に出来るこどから無理なく活動することがポイントです。ボランティア活動を通して自己啓発を図り、新しい仲間をつくりいきましょう。



* お知らせ *

○夏休みを迎える方を大募集しています。展示室およびふれあい体験室でサポートをしてください。そんな短い時間でもかまいませんのでどんどんご参加下さい。
○新聞スクラップが始まりましたが、数年分たまつた新聞は大量で作業がなかなか進みません。企画調整ボランティアで実施してますが、協力できる方の参加をお願いします。

* 8月の行事 (博物館) *

《特別展》 恐竜ミュージアム 2008.8.1～9/7(日)
《講座・解説会》 文化講座「恐竜は本当に絶滅したのか？」
常設展示考古部門解説会・... 8/10(日) 10時～
常設展示歴史部門解説会・... 8/24(日) 10時～

* 8月の勉強会 *

歴史部門勉強会 8月9日(土) 午前10時～12時 場所：研修室(3F)
民俗部門勉強会 8月9日(土) 午後2時～4時
集合場所：ボランティア室／勉強会：民俗展示室 定員30人
美工部門勉強会 8月17日(日) 午前10時～12時
参加希望の方はボランティア室の募集用紙に記入して下さい。

* ボランティアの現場から *

「展示ガイドを楽しく」解説がランティア 宮里 定典さん

サークルのシオリマを小学校生がガイドするとの役割をいただき、さてどう説明するかと考えると、楽しさと難しさが交互に頭の中を駆け巡った。事前の準備として、まずシオリマを丁寧に観察することから始めた。次にキャラクションを読みこなし、関連する資料を理解できる範囲で調べ、また、サークルと一緒に他の展示物もあることを確かめ、オを作成し現場に臨んだが、結果は準備した順序で進まず、肝心なことですが、個人の方に負担がかかりすぎないように、年度ごとに交代する方法を考えたいたいと思います。皆さんのがボランティア活動を皆さんで支える体制をつくりましょう！

今回シオリマやキャラクションが良く出来ていることに気付かされました。展示ボランティアは多くの展示物を丁寧に観察し、何時でもガイドできるようキャラクション読みこなしておきたいものです。良い勉強の機会でした。次回はもう少し良い内容にしたいものです。

* 恐竜ミュージアム2008の観覧について*
チケットを割り引きで購入することができます。大人券 860円(当日券 1200円)になります。展示会をご覧になられた方は、文化の社(941-8200 福島・安元)までお問い合わせください。また、数に限りがある様なので、お早めに！！

* * ボランティアの皆様、いつもありがとうございます * *

- ◎ふれあい体験室でサポートをしてくださる方を大募集しています！子供にも大人にも大人気で、来館者と最も交流の持てる「ふれあい体験室」ですが、慢性的に人手足りません。どんな短い時間でもかまいませんのでどんどんお手伝い下さい。
- ◎新聞スクラップも引き続きお手伝いを募集しています。座ってできるボランティアです。

信からのお知らせ

第一期ガラニンノ作用

5月から養成の始まった第二期ボランティア61名が、9月5日の登録証交付式をもって正式登録となり、新しく仲間に加わります。一期生とあわせてボランティアは約130名になります。今後とも、皆様のご協力お願いします。

交付式には一期生の皆さんもご参加下さい。

9月5日(金)は18時より「博物館学習ノート」を配布します。18時半より学芸員が展示室に居りますので質問などありましたら声をかけて下さい。

18:00～「博物館学習ノート」配布

博物館講座会場前=18:30～ボランティア会議室交付・会員会

10

*出席簿の記入の仕方が変わりました
8月から出席簿の様式が変わり、活動した場所、
内容（ふれあい体験室、展示ガイド説明、体験学
習室）の所に日付の記入をするようになります。
出席簿は友の会に置いてありますので声をか
けて下さい。

Digitized by srujanika@gmail.com

解説ボラシティア 平柳 紀代子きん

夏休みになって「ふれあい体験室」は大勢の子ども達や家族連れでにぎわっている。民具を身につけたり、三線や手玉を練習したり、おじいやおばあの方言に聞き入ったり・・・と、それでお気に入りのキットを楽しんでいる。特に人気のあるのは色画用紙での馬グター作り。難しい作業をやりとげ、できあがった馬グターを手に笑顔いっぱいの子ども達。私たちまで嬉しくなってしまう。

キット使い方の説明や質問への対応、一緒に遊んだり声か



お知らせ してください方を大募集しています！

ノヨ月ひ門」事（寺物語）

企画展
「すしかめの世界」 9/17(水) ~ 10/13(水)
講座・解説会
「すがめの世界探訪」 講師・上江洲
文化講座「すがめの世界探訪」 9/20(土) 14時~16時 3F
当日前着200名 入場無
常設展示民部門解説会 9/14(日) 10時
常設展示美工部門解説会 9/28(日) 10時
企画展示解説会 「すしかめの世界」 9/27(土) 3F企画展示室
当日前着15名 入場券が
「ツクヤードツアーアート」 9/28(日) 11時~19時
(事前申込) 入場券が

小△アリヤナガ

歴史部門勉強会 9月13日(土) 午前10時～12時
場所:研修室(3F) 《ボランティアによる展示ガイド》
民俗部門勉強会 9月13日(土) 午後2時～4時
場所:民俗展示室 《ボランティアによる展示ガイド》

ପ୍ରକାଶନ କମିଶନ





発行日：2008年10月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

* ますます問題ないヒントを提供するボランティアの皆様へ

1期生の班長、2期生の世話係の皆様へ

博物館からのお知らせ

「ボランティア専門講座」終えました！

ボランティア専門講座参加、お疲れ様でした。

今年度は解説を中心に行い、活動により結びついたことを思いました。

次年度以降も、ボランティアの実践活動を通して、多く見てくる疑問や要望に対応できる内容の講座を企画してまいります。

今後も学校団体も多く見学に来ています。

活動として、講座での学びをぜひ活動にきてください。

11月の勉強会

歴史部門勉強会 11月8日(土)
午前10時～12時 場所：3F会議室

※ボランティアによる個人研究発表会

民俗部門勉強会 11月8日(土)
午後2時～4時 場所：ボランティア室
参考希望の方はボランティア室の募集用紙に記入して下さい。

※勉強会資料は申し込みの方のみ準備します。当日参考や個人的に欲する場合は情報センターにてコピーして下さい。

出演：中国を代表する二胡奏者 周霞ほか
日時：11/5（水）（昼の部）14時～（夜の部）19時
受付開始：9/23

* 文化の社です〈2〉*

今回は「文化の社さんと県の学芸員さんの位置付けの説明をお願いします」との要望がありました。分かりやすく説明しますと、博物館大きな柱となる教育普及活動については、県の教育普及担当学芸員（赤穂敏学芸員）が立案し、それに基づいて、文化の社が実施することになっています。

皆さん方が参加され、文化の社がボランティア養成事業についても、そのように展開しています。

ご理解とご協力ありがとうございます。

11 目の勉強会

歴史部門勉強会 11月8日(土)
午前10時～12時 場所：3F会議室
※ボランティアによる個人研究発表会
民俗部門勉強会 11月8日(土)

午後2時～4時 場所：ボランティア室
参加希望の方はボランティア室の専用紙に記入して下さい。
*勉強会資料は申し込みの方のみ準備します。当日
参加や個人的に欲しい方は情報センターにてコピー

卷之三



* *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます*



発行日：2008年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

モラシティードの依頼*

2009/2/15と3/1に参加出来る方

からのお物語

今年も残すところ、あと1ヶ月となりましたが、ボランティアの皆さんには日々、館の諸活動にご協力頂きありがとうございます。皆さんのおかげで来館者の方々から喜びの声も聞こえてきています。さて、以前から要望がありました、ボランティア向けバックヤードツアーですが、下記の日程で行います。参加希望の方はボランティア室に掲示している参加申し込み用紙にご記入下さい。奮闘が実現します。

12月 10日、11日	14:00～15:00
13日、14日	11:00～12:00

12月の勉強会

自然勉強会	11/29(土)	10:00~	田中 学芸員
歴史勉強会	12/13(土)	10:00~	ボランティアによる
民俗勉強会	12/13(土)	14:00~	参加希望の方はボランティア室の募集用紙 にして下さい。

ボランティアの現場から

12目の勉強会

ボランティアの皆さんと一緒に学校団体の受け入れなどの教育普及を担っている文化の杜のスタッフは、元安佐和子、中村愛、町田恵美、福島輝一の4人です。

4人で美術館の教育普及活動もサポートしています。

今年11月から12月にかけては、県内の小学校の体験学習や修学旅行などの予約が目押しです。大変な数ですが、ボランティアの皆さんのご協力を得て、来館者に喜んでもらえるように頑張っていきたいと思います。

南国・沖縄も朝夕なくなっていました。ご自愛ください。

の喜らしに思いを馳せ、「体験学習」は準備! ボランティア 松野均さん

「エ～うっそ、これはボリュームです。深かあい井戸ですよ」



* *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます**



博物館副館長 山根 義治

2009年、新年あけましておめでとうございます。
ボランティアの皆さんには、昨年まで多大な御協力をおきましたが、今後ともお力添えをお願い致します。

さて、「三つ子の神100まで、「慶良間見ーいん寝毛見ーらん」…。いよいよ開館2年目足かけ3年、新館の道しるべは今年中にとの思いと、そのためにも着実な歩みを願って、諺を引用しました。多分に「…自主性・公益性・無償制…」云々

ボランティア活動をどう理解するか。10年前、教育庁生涯学習振興課の社会教育施設ボランティア養成講座でお話しした経験がありましたが、何を話したかは忘却しました。お話ししたのではないか…。

今年4月以来、ボランティア活動を拌見させて貰いて想うことは、それぞのボランティアの皆さんとのライフスタイルが、それぞれの心を豊かにするものであつて欲しいこと。そして、現職の小生としては、各ボランティア活動を展開している皆さんに、心を入れて感謝。

最後に、ボランティア活動についての、一つの答えとして、「人生即教育、教育即生活」…。その理解で、小生は、ボランティア活動を生涯学習の一環として考えています。



博物館ボランティア活動に想うこと』

2009年、新年あけましておめでとうございます。
ボランティアの皆さんには、昨年まで多大な御協力をおきましたが、今後ともお力添えをお願い致します。

さて、「三つ子の神100まで、「慶良間見ーいん寝毛見ーらん」…。いよいよ開館2年目足かけ3年、新館の道しるべは今年中にとの思いと、そのためにも着実な歩みを願って、諺を引用しました。多分に「…自主性・公益性・無償制…」云々

ボランティア活動をどう理解するか。10年前、教育庁生涯学習振興課の社会教育施設ボランティア養成講座でお話しした経験がありましたが、何を話したかは忘却しました。お話ししたのではないか…。

今年4月以来、ボランティア活動を拌見させて貰いて想うことは、それぞのボランティアの皆さんとのライフスタイルが、それぞれの心を豊かにするものであつて欲しいこと。そして、現職の小生としては、各ボランティア活動を展開している皆さんに、心を入れて感謝。

最後に、ボランティア活動についての、一つの答えとして、「人生即教育、教育即生活」…。その理解で、小生は、ボランティア活動を生涯学習の一環として考えています。

館からのお知らせ

新年 明けまして おめでとうございます。
昨年は皆さんのご協力のおかげをもちましてふれあい体験室 学校団体対応、体験学習教室等博物館活動が活発に運営できましたと感謝しております。特に学校からは博物館見学・体験が楽しめたのでまた来たいと言う感想も寄せられました。これからも子供達に夢を持たせるこの出来る博物館でありたいと思います。皆様のより一層のご協力よろしくお願ひします。

新年 明けまして おめでとうございます。
昨年は皆さんのご協力のおかげをもちましてふれあい体験室 学校団体対応、体験学習教室等博物館活動が活発に運営できましたと感謝しております。特に学校からは博物館見学・体験が楽しめたのでまた来たいと言う感想も寄せられました。これからも子供達に夢を持たせるこの出来る博物館でありたいと思います。皆様のより一層のご協力よろしくお願ひします。

2月の行事 (博物館)

《展示会》

2/6(金)～2/8(日)

第1回 沖縄県立博物館・美術館 移動展
場所・東村立山と水の生活博物館

開催時間・10時～18時 入場無料
《芸芸講座・文化講座》
2/7 (土) 学芸員講座 (人類)
時間・14:00～16:00 場所・博物館講座室
入場無料 定員・100人 (当日先着)
2/21 (土) 博物館文化講座 「沖縄と奄美の文化を語る」
講師 津波 高志 (琉球大学教授)
時間・14:00～16:00 場所・3F講堂
入場無料 定員・200人 (当日先着)

文化の社です (5)

「お正月開館」に協力いただきましてありがとうございます
いました。オープンして初めての元日開館でしたが、おかげさまで三が日ともスムーズに運営することができました。これも、「ふれあい体験室」等で、対応していただいた皆様のおかげだと思っております。ちなみに三が日の総入館者は 2730人。連日 900人を超える人達が来館しました。幸先のいいスタートをきった当館ではしつくいシーサーをつくり、「17・18日」もボランティアの皆様の協力を得て、好評のうちに終了することができました。2月は、6日から8日まで車両で初の「移動展」が開催されます。15日は「手びねりでつくる器」の体験教室もあります。会場でお待ちしております。

ボランティアの現場から 『故宮ボランティアに参加して』 田場 勝子さん

博物館開館1周年記念として琉球王国と中国の交流の歴史を巡る故宮展ボランティアガイドとして参加させて頂いた。日頃の活字離れ、勉強不足を悔し、久しぶりに図書館通いして準備し緊張の中で何度も説明発表の経験をした。「説明を聞いて理解出来た。」と来館の方々の声が聞けた時は嬉しかった。

私は漢文が読めず、質問に的確に答えられず反省の日々であった。琉球の歴史にも詳しく、中国の廣東外語外資大で教諭を執られた高里盛國先生から幸運な事に詳しい資料を頂き、先生の専門的説明も拝聴させて頂いた。感謝！感謝！です。

ボランティアガイドの方々の知識の深さと熱意ある説明にも感動した。沖縄の先人の功績の偉大さと御苦労に改めて敬服し、今回のガイドの機会を頂いた事で糸山勉強させてもらい感謝と御礼を申し上げたい。



博物館ボランティア活動に想うこと』

2009年、新年あけましておめでとうございます。
ボランティアの皆さんには、昨年まで多大な御協力をおきましたが、今後ともお力添えをお願い致します。

さて、「三つ子の神100まで、「慶良間見ーいん寝毛見ーらん」…。いよいよ開館2年目足かけ3年、新館の道しるべは今年中にとの思いと、そのためにも着実な歩みを願って、諺を引用しました。多分に「…自主性・公益性・無償制…」云々

ボランティア活動をどう理解するか。10年前、教育庁生涯学習振興課の社会教育施設ボランティア養成講座でお話しした経験がありましたが、何を話したかは忘却しました。お話ししたのではないか…。

今年4月以来、ボランティア活動を拌見させて貰いて想うことは、それぞのボランティアの皆さんとのライフスタイルが、それぞれの心を豊かにするものであつて欲しいこと。そして、現職の小生としては、各ボランティア活動を展開している皆さんに、心を入れて感謝。

最後に、ボランティア活動についての、一つの答えとして、「人生即教育、教育即生活」…。その理解で、小生は、ボランティア活動を生涯学習の一環として考えています。

館からのお知らせ

新年 明けまして おめでとうございます。
昨年は皆さんのご協力のおかげをもちましてふれあい体験室 学校団体対応、体験学習教室等博物館活動が活発に運営できましたと感謝しております。特に学校からは博物館見学・体験が楽しめたのでまた来たいと言う感想も寄せられました。これからも子供達に夢を持たせるこの出来る博物館でありたいと思います。皆様のより一層のご協力よろしくお願ひします。

新年 明けまして おめでとうございます。
昨年は皆さんのご協力のおかげをもちましてふれあい体験室 学校団体対応、体験学習教室等博物館活動が活発に運営できましたと感謝しております。特に学校からは博物館見学・体験が楽しめたのでまた来たいと言う感想も寄せられました。これからも子供達に夢を持たせるこの出来る博物館でありたいと思います。皆様のより一層のご協力よろしくお願ひします。

1月の勉強会

自然勉強会 1/10 (土) 10:00～3F研修室

(ガイドに向けての田中學芸員の解説)

民衆勉強会 1/10 (土) 14:00～3F研修室
歴史 (新年会を兼ねた勉強会)
1/10 (土) 11:00～
参加希望の方はボランティア室の募集用紙に記入して下さい。

博物館企画展

「発掘された日本列島展」… 1/9(金)～3/1 (日)

《解説会など》
1/11(日) 常設展 (美術工芸) 展示解説会 10:00～11:00
1/25(日) 常設展 (人類) 展示解説会 10:00～11:00
1/28 (水) 三線鑑定会 15:00～17:00 博物館実習室

*「故宮展」が終わりました。ボランティア展示ガイドの皆様、お疲れされました。

*冬休みに入り「ふれあい体験室」が忙しくなりますのでお手伝いお願いします。

*1月のボランティア会議は1/20 (火) 15:00～ボランティア室

* *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます *

* *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます *

VII その他

1 移動展

名称：第1回 沖縄県立博物館・美術館 移動展

会期：平成21年2月6日（金）～8日（日）

開催地：東村

主催：沖縄県立博物館・美術館

共催：東村、東村教育委員会

(1) 趣旨

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見ることによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。旧博物館で過去30回開催した「移動博物館」を引き継いで開催する。

(2) 展示会

会場：東村農民研修施設（博物館資料）

東村立山と水の生活博物館（美術館資料）

会期：平成21年2月6日（金）～8日（日） 午前10時～午後6時

対象：一般

観覧料：無料

(3) 展示内容

博物館資料：「大むかしの生物」 恐竜の骨格標本

「沖縄の自然、歴史、文化」 沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示

美術館資料：沖縄北部地域出身の作家の作品を展示

(4) 関連イベント

会場：東村農民研修施設

会期：平成21年2月7日（土）・8日（日） 午後2時

名称：「勾玉を作ろう！」

材料費：500円

対象：一般

定員：1日あたり20名

(5) 入場者数

博物館資料展示会場：808名

美術館資料展示会場：484名

勾玉を作ろう！：50名



ポスター・チラシ



新聞掲載



開会式でのテープカット



東村立第一保育所園児によるエイサー



サウロロフスの骨格標本模型



港川人の復元模型



観覧状況



美術館資料展示会場の様子

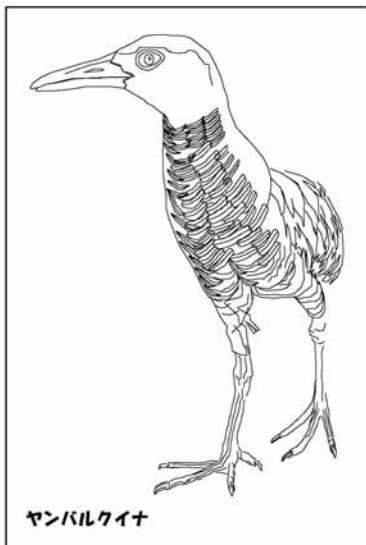
2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらいたい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成を小・中学校に依頼しています。

「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で作成し、裏面に校長印を押印します。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄を基本としますが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり来館の際にスタンプが押印出来る形になっています。

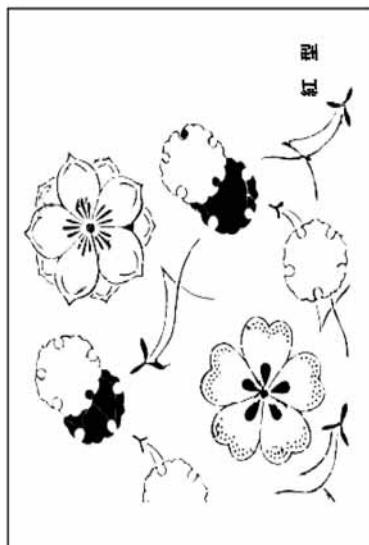
利用の対象は、県内の小中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用します。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどして、配慮を行っています。

【表面】



【裏面】

沖縄県立博物館・美術館フリーパス					
<input type="radio"/> 1年	<input type="radio"/> 2年	<input type="radio"/> 3年	<input type="radio"/> 4年	<input type="radio"/> 5年	<input type="radio"/> 6年
氏名 沖縄 博					学校名 沖美小学校 校長印
スタート!!					
					10
					ちょうど 半分だよ!
					20
					もう少し!
					30 ゴール!!



沖縄県立博物館・美術館フリーパス

沖縄県立博物館・美術館フリーパス					
<input type="radio"/> 1年	<input type="radio"/> 2年	<input type="radio"/> 3年			
氏名 沖縄 博					学校名 沖美中学校 校長印
スタート!!					
					10
					ちょうど 半分だよ!
					20
					もう少し!
					30 ゴール!!

「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」実施要項

1 目 的

- (1) 沖縄県立博物館・美術館について、県内の小中学生が知る機会とする。
- (2) フリーパスを自ら作成することで、同館を身近に感じてもらう。
- (3) 県内の小中学生は、開館時より無料入館となるが、県内と県外の児童生徒をパスを提示により確認することができる。

2 内 容

沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄を基本とし、以下の仕様に合わせて、沖縄県立博物館・美術館をイメージする表紙のパスを作成する。

3 作成方法

- (1) パスのサイズは8cm×12cmを基本とし、画用紙等の厚紙を使用する。
- (2) 表紙に使う図柄は、自らデザインした形を表現するか、もしくは、別添サンプルの図柄を用いて、内部の彩色を工夫したものとする。
- (3) 裏面には、別添サンプルの様式のとおり、来館時押印用のマス目を作成すること。
- (4) サンプル図柄やマス目はコピーして使ってもかまいません。
- (5) パスの裏面には学校長の公印を捺印して下さい。

4 対 象

沖縄県内の小中学校の児童生徒

5 実施方法

- (1) 県教育庁文化施設建設室より義務教育課・文化課の協力を得て、県教育長から県内小中学校へ「フリーパス」の実施を知らせ、協力を依頼する。
- (2) 11月以降に来館した際に、博物館・美術館の受付案内にて、持参したパスに押印する。遠距離や離島地域の児童生徒については、押印の数を調整の上、配慮する。
- (3) パスをすべて（30回）使い切った児童生徒に対しては褒賞を準備する。
- (4) パスをすべて使い切った場合は、上記の要領で新たにパスを作成する。

3 職場体験

学校の計画する就業体験学習を受け入れています。平成15年度より学校現場からの要請により、博物館においても受け入れを実施しておりましたが、新館移転の準備のため平成19年度までは、休止していました。開館にともない受け入れ体制も整備された事から、平成20年度より再開しております。

体験の内容や実施期間等については、学校からの希望を博物館の状況と合わせながら調整しております。また、希望体験の内容によっては、博物館を運営管理している文化の杜共同企業体の業務を実施することもあります。

本年度実施校

- ① 沖縄県立ろう学校 1名

期間 平成20年5月26日～30日 (5日間)

内容 教育普及事業 資料整理 総合案内補助 ショップ補助 等

- ② 沖縄県立浦添工業高校 1名

期間 平成20年8月18日～20日 (3日間)

内容 教育普及事業 資料整理 等

- ③ 那覇市立鏡原中学校 2名

期間 平成20年9月9日～11日 (3日間)

内容 教育普及事業 資料整理 総合案内補助 等



実習準備室の片づけ



総合案内補助



ショップ補助



印刷物移動



体験用具作り



先生の訪問

4 教育普及資料貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出しています。貸し出し可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等です。教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援します。積極的に活用してください。

団体名：沖縄市立高原小学校

行事名：とうふを作ろう

貸出期間：平成20年11月14日～11月20日

貸出資料：豆腐作り用具（石臼・アジマー・タライ）

団体名：沖縄県立糸満青年の家

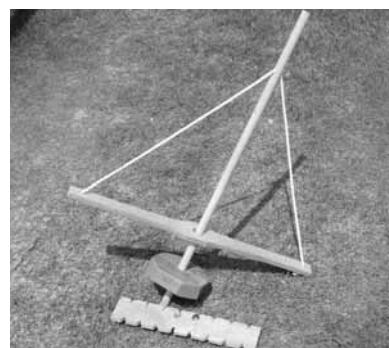
行事名：親子黒糖づくり

貸出期間：平成20年1月26日～1月30日

貸出資料：砂糖きび絞り機・シンメー鍋・搅拌棒 他



サトウキビ搾り機



火起こし機



豆腐ウーキと石臼

平成20年度
博物館教育普及活動

編集・発行 沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
Tel (098) 941-8200
Fax (098) 941-2392

印 刷 沖縄高速印刷株式会社
〒901-1111
沖縄県南風原町字兼城577番地
Tel (098) 889-5513